

The Professional Editor

MIFES®

9

ユーザースガイド

MEGASOFT®

目次

第1章 ご使用になる前に 1

MIFES概要	2
旧バージョンから引き継げる情報	4
セットアップ	
MIFESのインストール	5
設定ウィザード	7
アップデート	9
アンインストール	10
USBメモリ用MIFES作成	11
ライセンスキーの確認	12

第2章 基本操作 13

MIFESの起動	
MIFESを起動する	14
前回の編集の続きをする	15
編集画面の名称	16
ファイルオープン	
新しいファイル(ウィンドウ)を開く	17
既存のファイルを開く	18
お気に入りフォルダーの設定	19
拡張子の関連付け	20
拡張子による開き方の設定	21
以前開いたファイルを開く	22
リストウィンドウの使い方	23
ファイルを探して開く	25
文字コードを変えて開き直す	26
編集モードの切り替え	27
編集位置にジャンプ	
ファイルの先頭/末尾にジャンプする	28
行番号を指定してジャンプする	29
ブックマークへジャンプする	30
複数ファイルの編集	
ウィンドウの切り替え	32
2つのウィンドウを並べて表示する	33
2つのファイルを同時にスクロールする	34
UNDO/REDO	
元に戻す(操作の取り消し)	35
やり直し(取り消した操作を再実行)	36
ファイルを開き直す	37
印刷	
ファイル全体を印刷する	38
カラーで印刷する	39
改ページする	40

印刷設定を保存する	41
保存と終了	
ファイルを保存する	42
文字コード/改行コードを指定して保存する	43
ファイル(ウィンドウ)を閉じる	44
MIFESを終了する	45
調べる	
ヘルプ	46
拡張ヘルプ	47
インターネットで検索	48

第3章 入力と編集 49

入力機能	
定型文を登録/挿入する	50
制御コードを挿入する	51
連番を含む文字列を入力する	52
切り貼り機能	
選択した文字列をコピーする	53
複数行をコピーする	55
箱型の範囲をコピーする	56
切り貼り機能一覧	57
文字列の検索	
文字列を検索する	58
検索文字列の入力方法	59
検索方法について	60
検索文字列欄	61
複数ファイル内を検索する[グローバル検索(grep)]	62
検索結果からジャンプする(グローバル検索)	64
指定文字列を含まない行の検索(グローバル検索)	65
開いているファイルだけを検索する(グローバル検索)	66
文字列の置換と変換	
文字列を置換する	67
半角英字をすべて大文字にする	68
半角カタカナを全角に変換する	69
センタリング/右寄せ	70
複数組の文字列を置換する	71
複数ファイルの文字列を置換する	72
ファイル比較	
2つのファイルを比較する	73
比較結果から連動ジャンプ	75
2つのフォルダー内を一括比較する	76
罫線機能と箱型編集	
罫線を描く	77
罫線内を編集する	78
箱型編集	79
便利な機能	
今日の日付を入力する	80

入力文字数の確認	81
定型文書を作成する	82
他のアプリを実行する	
他のプログラムに渡す	83
DOSコマンドを実行する	85
起動時オプション	
ファイルとカーソル位置を指定して起動する	86
起動時オプションでできること	87
Windows上の右クリックメニュー	88

第4章 設定とカスタマイズ 89

表示の設定

画面の背景を変える	90
Tabやスペース類を表示する	91
カーソルの表示を変える	92
折り返し位置を変更する	93
変更行の色を変えて表示する	94

フォントの設定

文字列の色を変えて表示する	95
フォントを変える	96
外国語のフォントを指定する	97

ファイルのバックアップ

バックアップファイルを作成する	98
オートセーブする	99
ファイルの保護	100

機能実行の割り当て

よく使う機能をキー操作に割り当てる	101
メニューに機能を追加する	103
右クリックメニューとポップアップメニュー	104
ツールバーのカスタマイズ	105

設定の一括変更

設定の保存と読み込み	106
ログインユーザーごとに設定を切り替える	107
履歴情報を削除する	108
カスタマイズファイルについて	109

第5章 コマンドを作る 111

キーボードマクロの作成

キーボードマクロについて	112
キーボードマクロの記録	113
繰り返すキーボードマクロ	114
実行	115
ライブラリに登録	116

マクロコマンドの作成

マクロコマンド作成の手順	117
キーボードマクロからソースコードを取り出す	118
マクロソースをコンパイルする	119

マクロを実行する	120
ライブラリに登録する	121
ライブラリのマクロコマンドを実行する	122

第6章 目的別使いこなすテクニック .. 123

プログラムソースの編集

予約語の色を変えて表示する	124
コメントの色を変えて表示する	125
対応する括弧を検索する	126
C言語の関数定義位置リストを作成する	127
プログラム言語のヘルプを参照する	128

HTMLファイルの編集

HTMLタグを入力する	129
HTMLタグの色を変えて表示する	131
埋め込みスクリプトの色替え表示	133
リンク先を一括変更する	134
ブラウザで確認する	135

データの編集

行単位で並べ替える[行のソート(sort)]	136
同じ内容の行をまとめる[行の単一化(uniq)]	137
行の抽出	138
不要なレコードを一括削除する	139
列を揃えて表示する(CSVモード)	140
CSVモードについて	142
列を入れ替える	143
列内の検索・置換	144
セル分割と結合	145
囲み記号の付け方を指定する	146
カンマ区切りをタブ区切りに変更する	147

テキスト原稿の編集

見出し行リストを作成する	148
見出し行の色を変えて表示する	149
原稿用紙に書く	151
インデント設定	152

バイナリファイルの編集

バイナリファイルを開く	153
バイナリデータを編集する	154
バイナリ数値を検索する	155
バイナリコードを文字にして貼り付ける	156
バイナリ演算	157

バージョン管理システムとの連携

Subversionとの連携	158
Visual SourceSafeとの連携	160
使用するファイルについて	162
ライセンスキーについて	164
ユーザーサポートについて	165

おことわり

- 本書の内容の全部または一部を、当社に無断で転載あるいは複製することは、法令に別段の定めがある場合を除き、固く禁じられています。
- 本書の内容は、本製品の改良のため、将来予告なく変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して制作しておりますが、万一わかりにくい点や記載漏れなどお気づきの点がございましたら、メガソフト株式会社サポートセンターまでご連絡ください（本書の内容と現実が異なるときは、現実が本書に優先します）。
- 本製品を使用したことによるお客様の損害、逸失利益、または第三者のいかなる請求につきましても、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品をご使用になるには、別掲の「ソフトウェア使用許諾条項」にご同意いただくことが必要です。

商標について

- MIFESはメガソフト株式会社の登録商標です。
- その他、製品名等は一般に各社の商標または登録商標です。

第1章

ご使用になる前に

MIFESの概要とインストール/アンインストールの操作を説明します。

MIFES概要	2
旧バージョンから引き継げる情報	4
セットアップ	
MIFESのインストール	5
設定ウィザード	7
アップデート	9
アンインストール	10
USBメモリ用MIFES作成	11
ライセンスキーの確認	12

MIFES概要

■ 動作環境

MIFES 9をインストールするには以下の環境が必要です。
動作環境を確認の上、インストールを始めてください。

対応 OS	Windows 7/Vista/XP/Server 2008/Server 2003 各日本語版 ※ 64bitOS 上では、32bit アプリケーションとして動作。 ※ Windows XP は、SP2 以降に対応。 ※ Windows Server 2008/Server 2003 は R2 も対応。
CPU/メモリ	各 OS が推奨する環境以上
ハードディスク	20MB 以上の空き容量が必要

◀ メモ

最新の動作環境については、弊社ホームページでご確認ください。

■ MIFESの特長

● 編集モード

MIFES 9には以下のテキストモード、CSVモード、バイナリモードの3つの編集モードがあり、ガイドライン上のメニューから切り替えることができます。

○ テキストモード



○ テキスト(CSVモード)

[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]
コード	商品名	区分	総売上金額	返品金額	売上数	返品数
16700000	MIMAIL ダウンロード版	16	4,110,254	0	520	0
16701000	MIMAIL ガイドブック付	16	5,110,720	0	600	0
11010001	ADデザイナー 通常パッケージ	11	782,045,000	69,800	2,302	1
11010001	ADデザイナー ダウンロード版	11	2,820,000	12,820	130	1
11010001	ADデザイナー 2ライセンス版	11	8,045,000	9,800	301	1
11010001	ADデザイナー ガイドブック付	11	0	0	0	0

○ バイナリモード

00000000/000000ED Byte	83H(131)	5283H(21123)	5E815283H(1585201823)	バイナリ	INS(1)	0x:00000000
ADDRESS	00 01 02 03 04 05 06 07 08 09 0A 0B 0C 0D 0E 0F	←TAB→ 0123456789ABCDEF				
000000	83 52 81 58 83 68 2C 8F A4 20 20 95 69 20 20 96	コード,商品名				
000010	BC 2C 8B E6 95 AA 2C 91 8D 94 84 8F E3 8B E0 8A	,区分,総売上金額				
000020	7A 2C 95 D4 95 69 8B E0 8A 7A 2C 94 84 8F E3 80	,返品金額,売上数				
000030	94 2C 95 D4 95 69 90 94 2C 8F 83 94 84 8F E3 88	,返品数,純売上金				
000040	E0 8A 7A 2C 94 F5 8D 6C 83 52 81 58 83 68 0D 0A	額,備考コード ↓				
000050	31 36 37 30 30 30 30 30 2C 4D 49 4D 41 49 4C 20	16700000,MIMAIL				
000060	83 5F 83 45 83 83 83 8D 81 58 83 68 94 05 2C 31	ダウンロード版,1				

第1章

ご使用になる前に

● 編集可能なファイル

MIFES 9で編集可能なファイルの数はサイズなどは次のとおりです。

○ 同時に開けるファイル	最大2GB×100個まで	
○ 1行の長さ	テキストモード	無制限。半角文字で最大10000桁までの文字を折り返さずに表示可
	CSVモード	<ul style="list-style-type: none"> ・1行256列まで ・1つのセル内の文字列最大2000バイトまで ・1行の総バイト数最大10000バイトまで
○ 最大行数	20億行	

※バイナリモード時は、改行を区切りとした「行」では扱えません。

※非日本語文字のUCS-2は1文字=3バイト、UCS-4は1文字=5バイトです。

● オープン可能な文字コード一覧

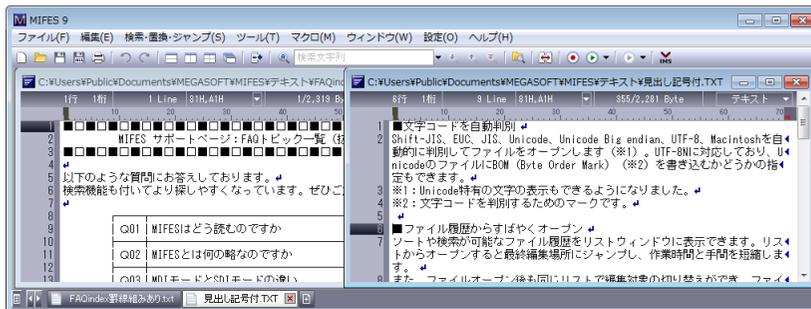
以下の文字コードに対応しています。

シフトJIS、EUC、JIS、Mac用シフトJIS、UTF-7、UTF-8、UTF-16、UTF-16 Big endian、UTF-32、UTF-32 Big endian、韓国語(KS_C_5601-1987)、韓国語(Johab)、繁体字中国語(Big5)、簡体字中国語(GB2312)、アラビア語、ギリシャ語、キリル語、タイ語、トルコ語、バルト語、ベトナム語、ヘブライ語、西ヨーロッパ、中央ヨーロッパ、OEM米国

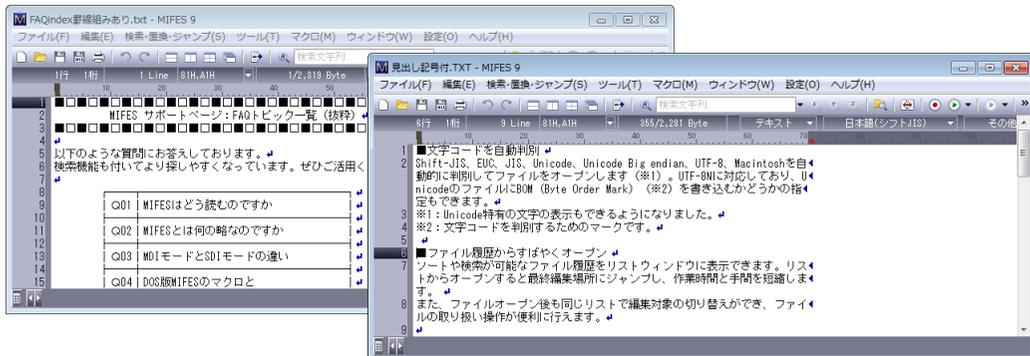
● 起動モード

メインのフレームウィンドウの中に複数のウィンドウを自由に配置できるMDIモードと、複数のMIFESを同時に起動してファイルごとにウィンドウを開くSDIモードの2つのモードに対応しています。

○ MDIモード



○ SDIモード



旧バージョンから引き継げる情報

MIFESの設定とマクロはそれぞれ以下のファイルに保存されており、そのファイルからMIFES 9に引き継ぐことができます。

● カスタマイズファイル (MIW.INI) :

キー操作やファイル履歴、検索文字列の履歴、環境設定の設定内容など、MIFESの設定を保存しているファイルです。

● ライブラリファイル (MIW.LIB) :

キーボードマクロ、マクロコマンド、登録外部プログラム(子プロセス)のライブラリファイルです。

上記ファイルは、ともに以下のフォルダーに保存されています。(デフォルトでお使いの場合)

MIFESのバージョンやOSにより異なりますので、ご注意ください。

○ MIFES8 :

〈Windows 7、Vista、Server 2008の場合〉

C: ¥Users ¥Public ¥Documents ¥MEGASOFT ¥MIFES8

〈Windows 2000、XP、Server 2003の場合〉

C: ¥Documents and Settings ¥All Users ¥Documents ¥MEGASOFT ¥MIFES8

○ MIFES for Windows Ver.7.0の対象フォルダー

C: ¥Program Files ¥MIW7

○ MIFES for Windows Ver.6.0以前

C: ¥MEGASOFT ¥MIW

● キー設定などの読み込み方法

設定ウィザードで引き継ぐことができますが、【設定】-【カスタマイズファイルの読み書き】で項目ごとに読み込むことも可能です。

これまでご利用のカスタマイズファイル(通常は「MIW.INI」)を選択して、必要な定義にチェックをして「読み込む」を実行します。

● マクロの読み込み方法

MIFESを起動して【マクロ】-【最近使用したマクロコマンド】-【マクロコマンド一覧】を選択し、「他のマクロコマンド」で、旧バージョンのマクロライブラリのファイル(通常は「MIW.LIB」)を選択して、必要なものを登録してください。

◀メモ

新機能をご使用いただくために、「メニューバー定義」は読み込まないことをお奨めします。

MIFESのインストール

MIFESをCD-ROMからコンピューターにインストールします。

ここでは、Cドライブにインストールしています。

インストール後、MIFESの使用環境を設定する「設定ウィザード」が実行されます。

設定ウィザードで設定した内容は、後から変更することができます。

インストールを行う前に、Administrator権限を持つユーザーとしてWindowsにログオンし、実行中のすべてのプログラムを終了します。

ウイルス対策ソフトなど常駐ソフトも終了してください。

● 旧バージョンのMIFESをご使用の方へ

旧バージョンのMIFESは、MIFES 9のインストール時に自動的にアンインストールされません。

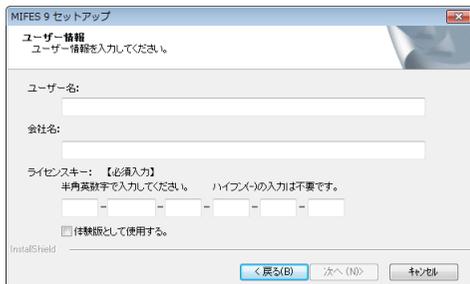
MIFES 9をインストールする前に、旧バージョンをアンインストールしてください。

なお、その際に旧バージョンの特定のファイルを保存しておくこと、MIFES 9に設定を引き継ぐことができます。

- 1) 「MIFES 9」のセットアップディスクをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。
CD-ROMの「Setup.exe」を実行します。
ダウンロード版の場合は、ダウンロードしたファイルをダブルクリックして実行します。
- 2) 「MIFES 9 セットアップ」のインストールウィザードが起動します。[次へ]をクリックします。



- 3) 使用許諾契約書が表示されます。
「使用許諾契約書」の内容を確認し、[はい]をクリックしてください。
- 4) ユーザー情報とライセンスキーを入力します。



▶ 参照

詳しくは「旧バージョンから引き継げる情報」4 ページを参照してください。

◀ メモ

環境によっては、ファイル名が「Setup」と表示されている場合があります。

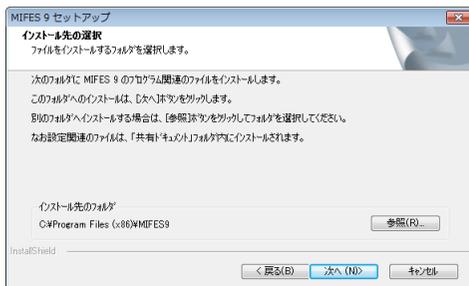
◀ メモ

使用許諾契約書は、プログラムフォルダーに「LICENSE.TXT」ファイルとして保存されています。

注意

[いいえ]をクリックすると、セットアップは中止されます。
MIFES 9をインストールする場合、この契約に同意していただく必要があります。

- 5) インストール先を指定します。
「インストール先のフォルダー」を確認して、[次へ]をクリックします。
他のフォルダーにインストールするときは、[参照]をクリックすると、変更することができます。



- 6) インストールが実行されます。
- 7) 「ユーザー登録」画面が表示された場合は [登録する] ボタンをクリックして、弊社ホームページよりご登録ください。
- 8) 以上でインストールは終了です。[完了] ボタンをクリックします。
続けて設定ウィザードが実行されます。

メモ

- 旧製品とは別に、MIFES 9でのユーザー登録を行ってください。
- 1度だけご登録いただければ結構です。ご登録後の再インストール時に「ユーザー登録」画面が表示されたときは、「今は登録しない」にチェックを付けて次へ進んでください。

セットアップ

設定ウィザード

設定ウィザードでは、次の項目を設定します。

- キー操作の設定
- 拡張子の関連付けの設定
- ショートカットアイコンや右クリックメニューへの追加、Internet Explorerソース表示エディタの設定など

設定ウィザードで設定した内容は、後から変更ができます。

また、設定ウィザードは、インストール時以外にも実行できます。

Windowsの【スタート】-【すべてのプログラム】-【MIFES 9】-【設定ウィザード】から、設定ウィザードを実行してください。

1) 設定ウィザードの初期画面が表示されます。

[次へ]をクリックします。

画面の説明をよく読んで、設定を行ってください。

再設定のために実行した場合や、再インストール時で、カスタマイズフォルダーに「MIW.INI」が見つかった場合や、これまでお使いの旧バージョンの「MIW.INI」があった場合は、「設定の引き継ぎの確認」画面が表示されます。

「設定を引き継ぐ」もしくは「設定を引き継がない」のいずれかを選択し、[次へ]をクリックしてください。

2) 「キー操作の設定」画面で、いずれかの設定を選択し[次へ]をクリックします。

標準設定	一般的な Windows アプリケーションとの互換性を考慮した設定です。通常はこの設定を選択してください。
旧 MIFES 風設定	MIFES の古いバージョンや DOS 版 MIFES の設定に慣れている場合に選択してください。

3) 「拡張子の関連付け」画面で関連付ける拡張子にチェックを入れ、[次へ]をクリックします。

はじめてインストールする時以外は、既に関連付けられている拡張子にチェックがついています。

関連付けをすると、ファイルアイコンがMIFES 9のアイコンになり、ダブルクリックでMIFES 9で開けます。

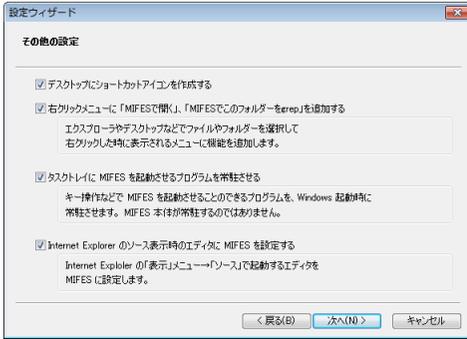
関連付けは、MIFES 9をアンインストールすると、クリアされます。



◀メモ

「設定を引き継ぐ」を選択したときは、「キー操作の設定」画面は表示されません。

- 4) 「その他の設定」画面で、各項目を設定します。
はじめてインストールする時以外は、現在の設定状態にチェックがついています。



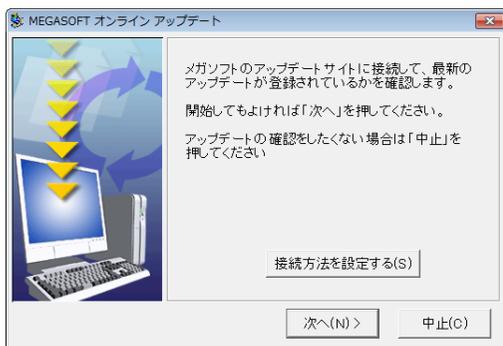
- デスクトップにショートカットアイコンを作成する
Windowsのデスクトップに、MIFESを起動するためのショートカットアイコンを作成します。
- 右クリックメニューに「MIFESで開く」、「MIFESでこのフォルダーをgrep」を追加する
エクスプローラやデスクトップ上などでファイルを右クリックして表示されるメニューに「MIFESで開く」、「MIFESのバイナリモードで開く」を追加します。
また、フォルダー上での右クリック時のメニューに「MIFESでこのフォルダーをgrep」を追加します。
- タスクトレイにMIFESを起動させるプログラムを常駐させる
Windows起動時にキー操作でMIFESを起動できるプログラムを常駐させます。
起動以外にも、タスクトレイのアイコンを右クリックすると、メニューからグローバル検索などを実行できます。
- Internet Explorerのソース表示時のエディタにMIFESを設定する
Internet Explorerの【表示】－【ソース】で起動するエディタをMIFESに設定します。

- 5) 「設定確認」画面で設定した内容を確認し、良ければ[完了]ボタンをクリックします。
設定内容を変更したいときは、[戻る]で変更したい項目まで戻って変更してください。
- 6) 設定完了のメッセージが表示されます。

アップデート

オンラインアップデートにより、MIFES 9を最新の状態にすることができます。
アップデートすることで、より安定した最新のMIFESをご使用いただけます。

- 1) Windowsの【スタート】-【すべてのプログラム】-【MIFES 9】-【オンラインアップデート】を実行します。
アップデートが必要な場合は、次の画面が表示されます。
【次へ】をクリックします。



- 2) 画面の内容を確認しながら【次へ】をクリックして進めてください。
- 3) 「MIFESのアップデートが完了しました。」というメッセージが表示されたら【閉じる】をクリックします。

注意

アップデートを行う前に、すべてのアプリケーションを終了させてください。

メモ

インターネットへの接続設定がされていないときは、[接続方法を設定する]をクリックして設定してください。

メモ

アップデートの内容によっては、再起動が必要な場合があります。再起動を促すメッセージが表示された場合は、再起動を行ってください。

アンインストール

アンインストールを行う前に、エクスプローラ、フォルダーウィンドウなど、実行中のプログラムをすべて終了します。

- 1) Windowsの【スタート】-【すべてのプログラム】-【MIFES 9】-【アンインストール】を選択し、アンインストールを実行します。
- 2) 「ファイル削除の確認」メッセージが表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。



- 3) 「インストールウィザードの完了」が表示されます。「はい、今すぐコンピューターを再起動します。」を選択して[完了]をクリックします。



- 「ロックされたファイルの検出」というタイトルのメッセージが表示された場合 [再起動] をクリックしてください。
- アンインストール後に残るファイルについて
設定ファイル (*.INI) やライブラリファイル (*.LIB) は、再インストール時に引き継げるようにアンインストールしても削除されません。

注意

アンインストールはAdministrator権限を持つユーザーでログオンしてから行ってください。

USBメモリ用MIFES作成

1ライセンスにつき、1つのUSBメモリに「USBメモリ用MIFES」を作成できます。
 コンピューターにインストールされたMIFES 9と同時になければ、USBメモリ上でMIFES 9を実行できます。

USBメモリ用のMIFESを作成することで、MIFES 9をインストールできない環境や、外出時に持ち歩くパソコンなどでも使用できます。

- 1) USBメモリをコンピューターにセットします。
- 2) Windowsの【スタート】-【すべてのプログラム】-【MIFES 9】-【USBメモリ用MIFES作成】を実行します。
- 3) 画面の指示に従って操作します。



- 4) USBメモリの「MIFES9」フォルダーに、必要なファイルがインストールされます。

注意

USBメモリにはMIFES 9のカスタマイズフォルダーにある「MIW.INI」ファイルをコピーします。

ライセンスキーの確認

ライセンスキーはユーザー登録やサポートをご利用の際に必要です。

- 1) 【ヘルプ】-【バージョン情報】をクリックします。



◀メモ

体験版をご試用で製品をご購入いただいたあとにライセンスキーを入力いただくと製品版としてご利用いただけます。

第1章

ご使用になる前に

第2章

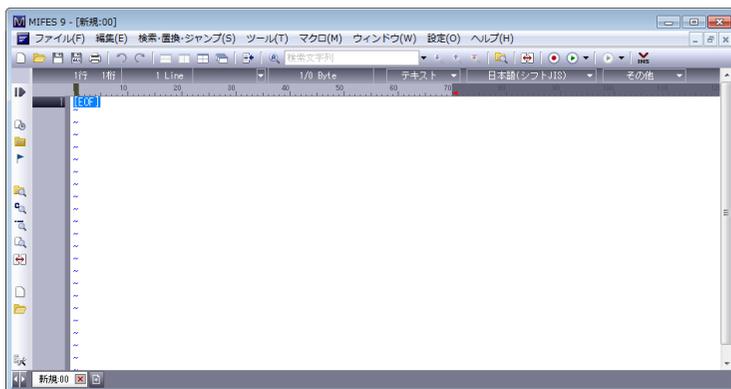
基本操作

MIFESを起動してから終了するまでの基本的な機能の操作方法を説明します。

MIFESの起動		
MIFESを起動する	14	
前回の編集の続きをする	15	
編集画面の名称	16	
ファイルオープン		
新しいファイル(ウィンドウ)を開く	17	
既存のファイルを開く	18	
お気に入りフォルダーの設定	19	
拡張子の関連付け	20	
拡張子による開き方の設定	21	
以前開いたファイルを開く	22	
リストウィンドウの使い方	23	
ファイルを探して開く	25	
文字コードを変えて開き直す	26	
編集モードの切り替え	27	
編集位置にジャンプ		
ファイルの先頭/末尾にジャンプする	28	
行番号を指定してジャンプする	29	
ブックマークへジャンプする	30	
複数ファイルの編集		
ウィンドウの切り替え	32	
2つのウィンドウを並べて表示する	33	
2つのファイルを同時にスクロールする	34	
UNDO/REDO		
元に戻す(操作の取り消し)	35	
やり直し(取り消した操作を再実行)	36	
ファイルを開き直す	37	
印刷		
ファイル全体を印刷する	38	
カラーで印刷する	39	
改ページする	40	
印刷設定を保存する	41	
保存と終了		
ファイルを保存する	42	
文字コード/改行コードを指定して保存する	43	
ファイル(ウィンドウ)を閉じる	44	
MIFESを終了する	45	
調べる		
ヘルプ	46	
拡張ヘルプ	47	
インターネットで検索	48	

MIFESを起動する

Windows【スタート】-【すべてのプログラム】-【MIFES 9】-【MIFES 9】を選択します。



● その他の起動方法

- デスクトップのショートカットアイコンをダブルクリックする
- 関連付けされた拡張子のファイルをダブルクリックする
- ファイルを右クリックして表示されるメニューから【MIFESで開く】または【MIFESのバイナリーモードで開く】を選択する

◀ メモ

MDIモードとSDIモードについて

1つのMIFESの中ですべてのファイルを開くMDIモードと1つのファイルに1つのMIFESで開くSDIモードがあります。

【設定】-【環境設定】-「起動」タブの「起動モード」で設定できます。

◀ メモ

起動時に新規ウィンドウが開きます。開きたくないときは、【設定】-【環境設定】-「起動」タブの「起動/終了時の設定」内にある「新規ウィンドウを開いて起動する」のチェックをはずします。

▶ 参照

以下の項目は「設定ウィザード」で設定します。

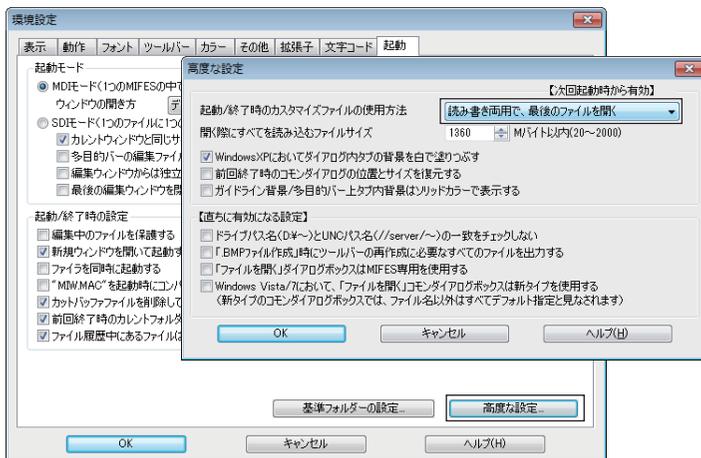
- ・ショートカットアイコンの作成
 - ・関連付け
 - ・右クリックメニューへの追加
- 「設定ウィザード」⇒7ページ

前回の編集の続きをする

MIFESは、前回終了時に開いていたファイルやカーソル位置をカスタマイズファイルに保存し、そのファイルを開いたり、最後のカーソル位置にジャンプして開いたりできます。

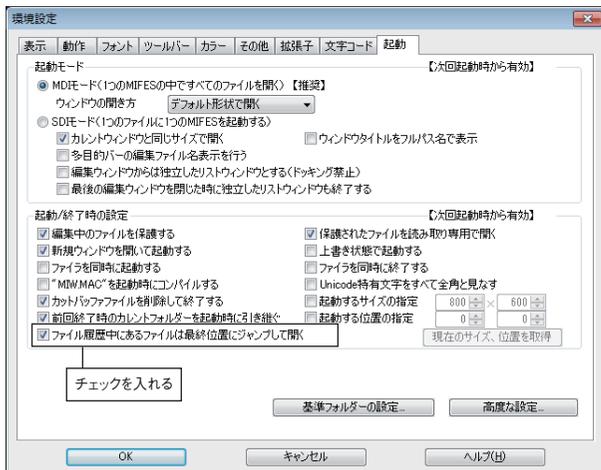
●最後に開いていたファイルを開いて起動する

- 1) 【設定】-【環境設定】-「起動」タブから【高度な設定】をクリックします。
- 2) 「起動/終了時のカスタマイズファイルの使用方法」から「読み書き両用で、最後のファイルを開く」を選択します。



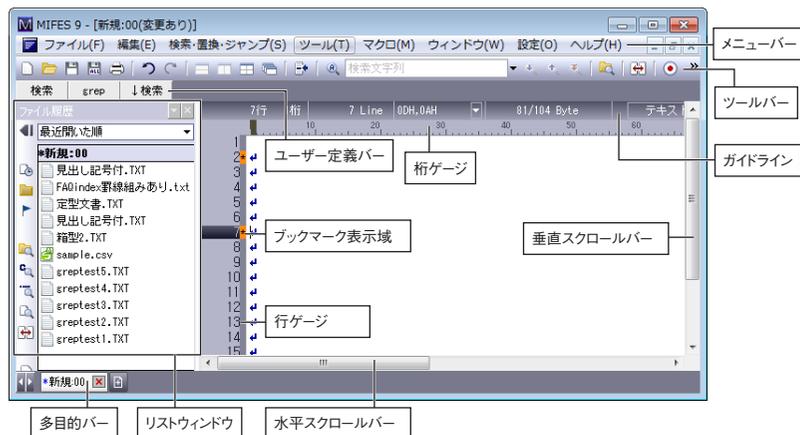
●閉じたときのカーソル位置にジャンプして開く

【設定】-【環境設定】-「起動」タブの「ファイル履歴中にあるファイルは最終位置にジャンプして開く」にチェックを入れます。



編集画面の名称

MIFES画面の各部名称と内容です。本マニュアル、ヘルプなどでもこの名称を使用しています。



メニューバー

必ず表示されます。カスタマイズ可(103ページを参照)

ツールバー

表示/非表示/表示位置などを設定可(環境設定-ツールバータブ) カスタマイズ可(105ページを参照)

ユーザー定義バー

デフォルトは非表示。表示位置など設定可(環境設定-ツールバータブ) カスタマイズ可(設定-ユーザー定義バーのカスタマイズ)

ガイドライン

表示/非表示設定可(環境設定-表示タブ)

桁ゲージ

表示/非表示設定可(環境設定-表示タブ)

水平スクロールバー

表示/非表示設定可(環境設定-表示タブ)

多目的バー

開いているファイル名やメッセージ類を表示する領域。表示/非表示/表示位置などを設定可(環境設定-ツールバータブ)

リストウィンドウ

表示/非表示/表示位置などを設定可(操作方法などは23ページを参照)

行ゲージ

表示/非表示/表示位置などを設定可(環境設定-表示タブ)

ブックマーク表示域

ブックマークやファイル比較(diff)の相違行マーク、#ifdefブロックの階層などを表示する領域。非表示にはできない。(30ページを参照)

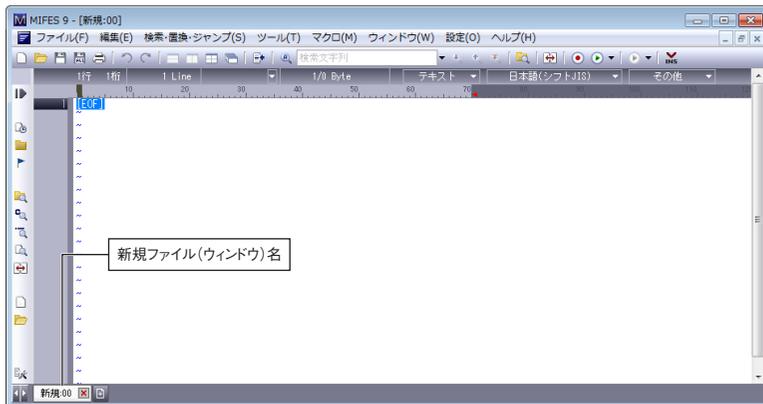
垂直スクロールバー

表示/非表示設定可(環境設定-表示タブ)

新しいファイル(ウィンドウ)を開く

新しいファイル (ウィンドウ)を開く方法です。MIFESでは、複数のファイル (ウィンドウ)を同時に開いて作業をすることができます。

- 1) 【ファイル】-【新規作成】を選択します。
- 2) 新規ウィンドウが開きます。



メモ

ファイル名と保存場所を指定して、新規ファイルを開くことができます。

【ファイル】-【開く】を選択して表示される「ファイルを開く」ダイアログでファイル名を入力して【開く】をクリックします。

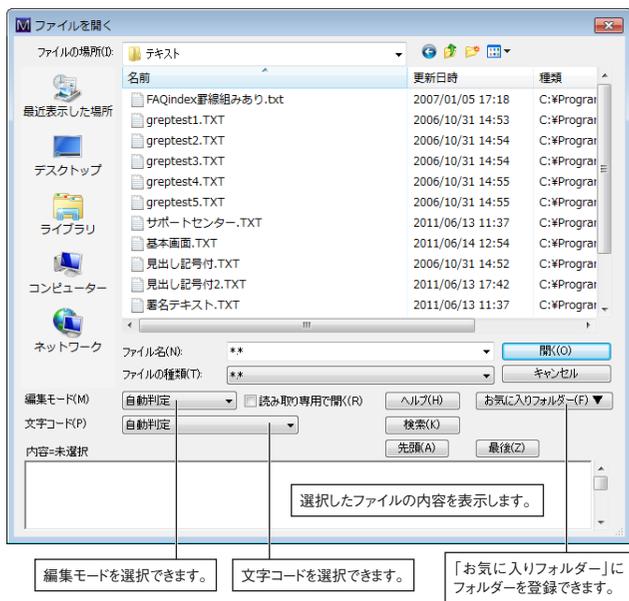
既存のファイルを開く

MIFESの「ファイルを開く」ダイアログでは、開くファイルを指定する他に編集モード(テキスト/バイナリ)や、文字コードを指定することができます。

【ファイル】-【開く】を選択します。

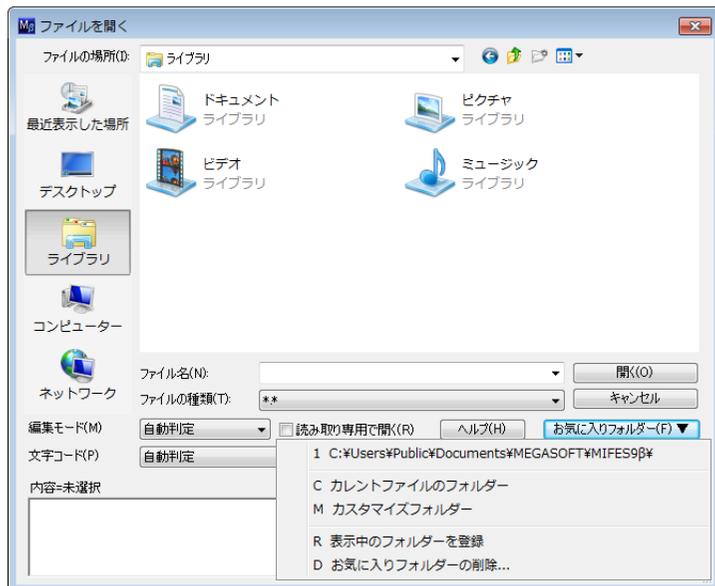
● MIFES専用ダイアログ

MIFES専用の「ファイルを開く」ダイアログボックスは以下のようなものです。



お気に入りフォルダーの設定

よく使用するフォルダーを「お気に入りフォルダー」に登録しておくことができます。登録しておく、「ファイルを開く」などのダイアログでリストから選択してフォルダー移動ができるほか、グローバル検索(grep)などの検索位置のリストにも追加されます。



メモ

「ファイルを開く」以外に、「名前を付けて保存」「ファイルの挿入」ダイアログでも同様の操作で登録・削除・移動ができます。

● 「お気に入りフォルダー」メニューの内容

1～8：登録されているお気に入りフォルダーを選択すると、そのフォルダーに移動します。

C：カレントファイルのフォルダーに移動します。

M：MIFES 9のカスタマイズフォルダーに移動します。

R：上記ファイル一覧で表示しているフォルダーをお気に入りフォルダーに登録します。

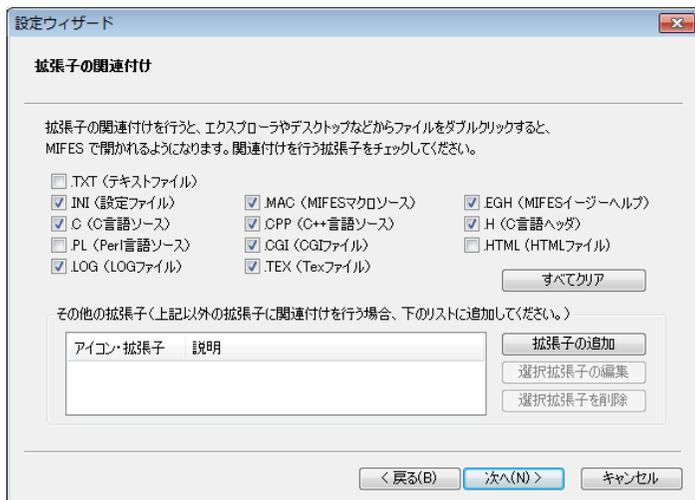
D：「お気に入りフォルダーの削除」ダイアログでお気に入りフォルダーを取り消します。

拡張子の関連付け

拡張子をMIFESに関連付けておくと、その拡張子のファイルアイコンがMIFESのアイコンになり、ダブルクリックするとMIFESで開くようになります。

拡張子の関連付けは、設定ウィザードで行います。

- 1) MIFESを終了し、Windowsの【スタート】メニューから、【すべてのプログラム】—【MIFES 9】—【設定ウィザード】を選択します。
- 2) 「次へ」で「拡張子の関連付け」まで進みます。



- 3) 関連付けたい拡張子にチェックを付けます。
一覧に該当する拡張子がない場合は、「拡張子の追加」ボタンをクリックして、追加してください。

メモ

設定ウィザードはMIFESを終了してから実行してください。

拡張子による開き方の設定

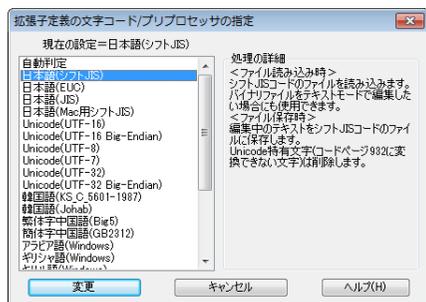
● 拡張子の定義 (環境設定)

拡張子や保存場所 (フォルダー) により、以下の項目を設定できます。

【設定】-【環境設定】を選択し「拡張子」タブをクリックします。



- 拡張子 / フォルダー名
ファイルの拡張子や任意のフォルダーを指定します。
- ハードタブ
タブの桁数を指定します。
- 折り返し桁
1行の折り返し桁を指定します。
- 編集モード
「デフォルト」「テキスト」「バイナリ」から選択します。
- 文字コード / プリプロセッサ
「拡張子定義の文字コード / プリプロセッサの指定」が表示されます。



- CSV認識
MIFESで開くときにCSVモードで開くように設定しておくことができます。ファイル内容をチェックして自動判定する方法と、ファイル名の拡張子 (*.CSV, *.TSVなど) により判定する方法があります。

◀ メモ

いずれの設定も「デフォルト」を選択した場合は、「デフォルトの定義」が使用されます。

◀ メモ

プリプロセッサ
ファイルを開くときに実行される変換プログラムです。

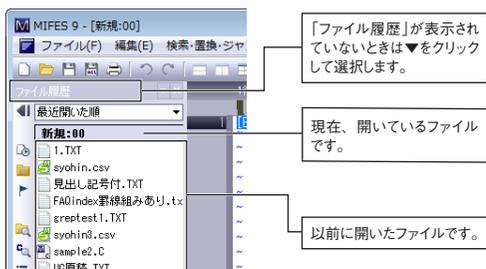
▶ 参照

「列を揃えて表示する (CSVモード)」
⇒ 140ページ

以前開いたファイルを開く

以前に編集したファイルは、100個までファイル履歴に残っており、履歴から開くことができます。

ファイル履歴はリストウィンドウと、ファイルメニューに表示されます。



ファイル名をダブルクリックするか、複数選択して [Enter] キーで開くことができます。

● ファイルメニューにファイル履歴を表示する

【設定】-【環境設定】-【その他】タブの「ファイルメニュー中のファイル履歴」の「表示する」にチェックを付けるとファイルメニューにファイル履歴が表示されます。



● 履歴に関するその他の機能

○ 「履歴中にあるファイルは最終位置にジャンプして開く」ことができます。【設定】-【環境設定】-【起動】タブで設定してください。

○ ファイル履歴の削除

以下のいずれかの方法で、履歴を削除できます。

リストウィンドウで選択し、「Delete」キー

「設定」-「履歴情報の削除」

▶ 参照

リストウィンドウが開いていないときは、「多目的バー」-【リストウィンドウ表示】をクリックします。

「リストウィンドウの使い方」

⇒23ページ

◀ メモ

【設定】-【環境設定】-【その他】タブの「【ファイル】メニュー中のファイル履歴」で表示する履歴の数が設定できます。

▶ 参照

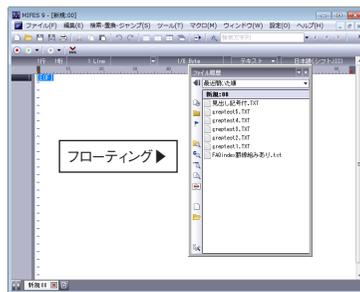
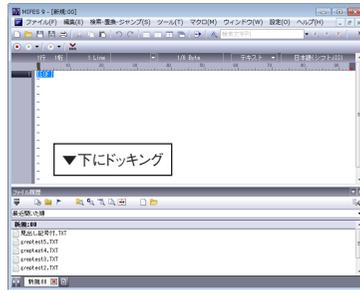
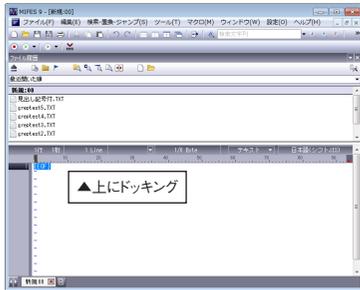
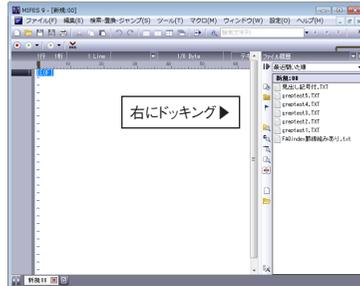
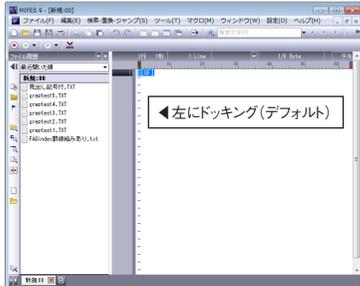
「履歴情報を削除する」

⇒108ページ

リストウィンドウの使い方

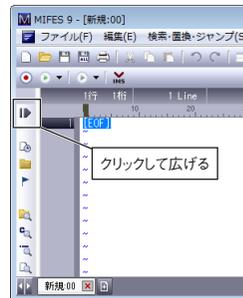
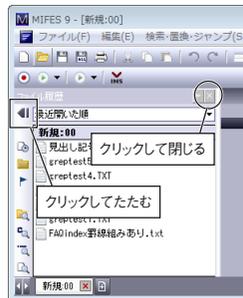
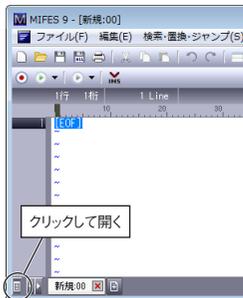
リストウィンドウは、すばやく目的のファイルを開いたり、目的の位置へジャンプするためのウィンドウです。

ウィンドウの上下左右にドッキングしたり、フローティングした状態で使用します。



● リストウィンドウの表示・非表示

リストウィンドウは、非表示にしたり、リストウィンドウツールバーを表示したまま、たたむこともできます。



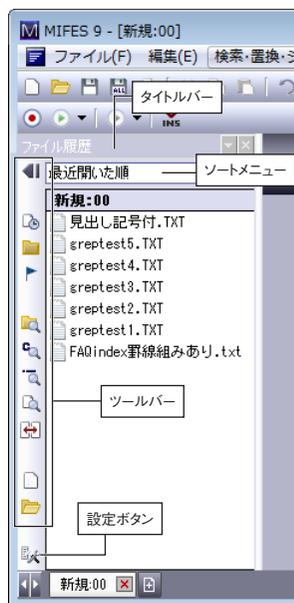
◀ メモ

SDIモードのときは、リストウィンドウをドッキングしないように設定ができ、MIFESの編集ウィンドウをすべて閉じた後もリストウィンドウだけを残しておくことも可能です。

【設定】-【環境設定】-「起動」タブの「起動モード」で設定できます。

● リストウィンドウの機能

- リストウィンドウに表示できるリストの種類
ファイル履歴/フォルダー /ブックマーク
各種検索結果(グローバル検索、C関数定義の検索、見出し行の検索、ファイルの検索)
ファイル比較結果
- タイトルバー
タイトルバーをダブルクリックすると、ファイル履歴→フォルダー→ブックマークリストが切り替わります。
また、▼ボタンをクリックして表示されるメニューでは、リストウィンドウで表示できるすべてのリストに切り替えることができます。
- ソートメニュー
表示されているリストの並べ替えができます。
- ツールバー
リストウィンドウに結果リストを出力できる機能の実行ボタンがあります。
- 設定ボタン
リストウィンドウ内のフォントやファイルアイコンの表示/非表示を設定できます。
リストウィンドウの設定は、リストウィンドウ内を右クリックして表示されるメニューから選択することもできます。



ファイルを探して開く

検索条件を指定してファイルを検索します。検索結果から該当ファイルを開くことができます。

● ファイルを検索する

[ツール]—[ファイルの検索]を選択しダイアログボックスで条件を入力します。

検索結果はリストウィンドウに出力され、ダブルクリックでそのファイルを開くことができます。

検索条件は以下のとおりです。



○ 検索ファイル名

ファイル名を指定します。ワイルドカードも使用できます。

○ 検索開始位置

検索開始位置を指定します。[参照]をクリックすると「フォルダーの参照」から選択できます。

○ 下位フォルダー

検索開始位置のフォルダー内にサブフォルダーが含まれているときの処理を指定します。

○ タイムスタンプ条件

ファイルの更新日を条件に検索するときに指定します。「タイムスタンプ条件の設定」を選択すると期間を指定できます。



○ 検索文字列

検索対象となるファイルの中で「検索文字列」を含むファイルを検索します。「大文字/小文字同一視」にチェックを入れると英字の大文字と小文字を同じ文字と判断します。

● リストウィンドウ(ファイルの検索結果)からファイルを開く

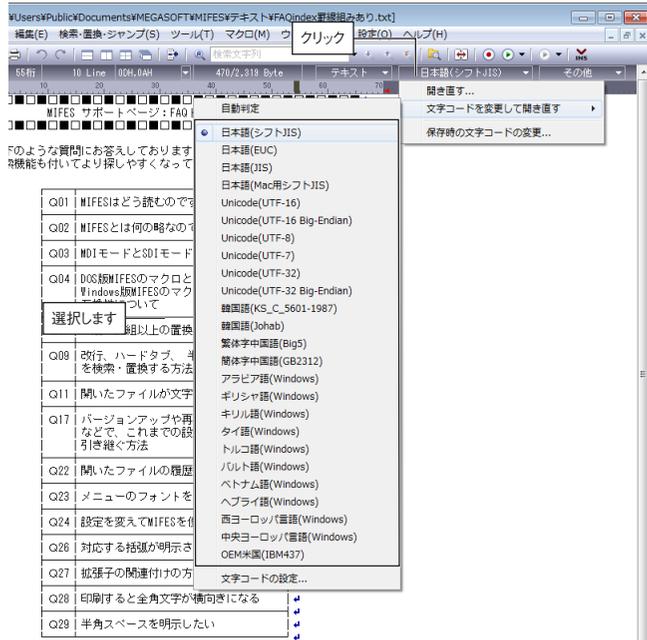
検索されたファイルは、リストウィンドウ(ファイルの検索結果)に表示されます。ファイル名をダブルクリックして開きます。

◀ メモ

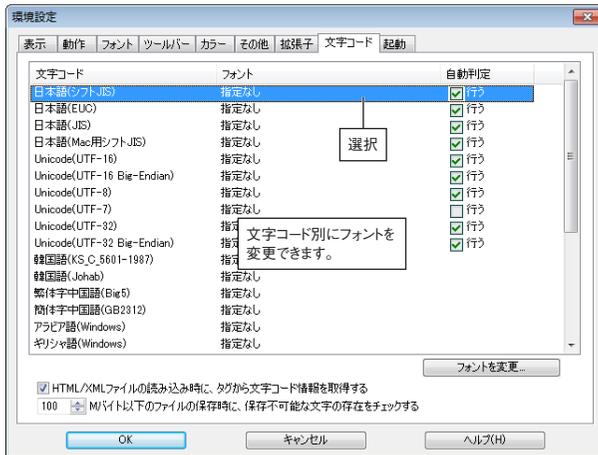
「ファイルの検索」機能は、リストウィンドウや「ファイルを開く」ダイアログからも実行できます。

文字コードを変えて開き直す

ガイドライン【文字コードの変更】の【文字コード変更して開き直す】から文字コードを選択します。



ガイドライン【文字コードの変更】の【文字コード変更して開き直す】から【文字コードの設定...】を選択すると「環境設定」の「文字コード」タブが表示されます。



▶ 参照

拡張子にあわせて文字コードを自動的に設定する方法

「拡張子の関連付け」

⇒20ページ

◀ メモ

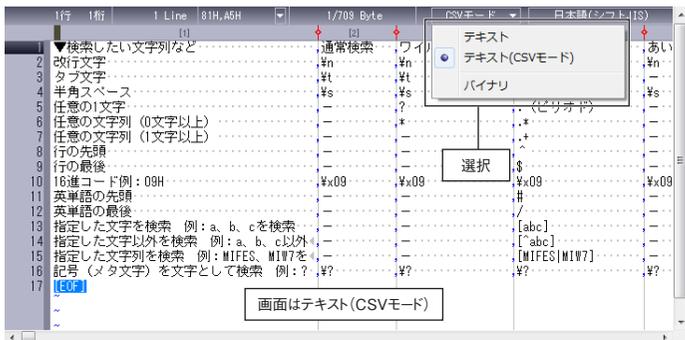
文字化けした場合

文字コードを変更した後など、文字化けている場合は、【設定】-【環境設定】-【フォント】タブで、「MS UI ゴシック」など、日本語以外の言語にも対応しているフォントに変更してください。

※フォントによっては、「プロポーショナルなフォントでも使用する」にチェックが必要です。

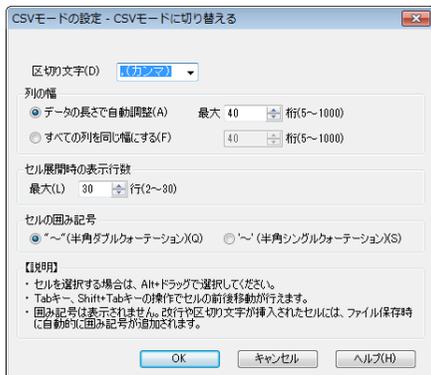
編集モードの切り替え

MIFESには、テキスト、テキスト (CSVモード)、バイナリの3つの編集モードがあり、ガイドラインの編集モード切替メニューで切り替えることができます。



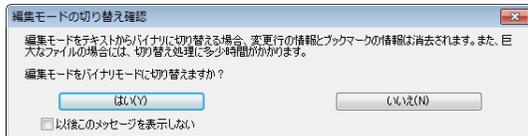
● CSVモードへの切り替え

テキスト (CSVモード) へ切り替わる前に以下のダイアログが表示されます。



● バイナリーモードへの切り替え

バイナリーモードへ切り替わる前に「編集モードの切り替え確認」が表示される場合があります。確認後「はい」をクリックします。



▶ 参照

「CSVモードについて」

⇒142ページ

▶ 参照

「バイナリファイルの編集」

⇒153ページ

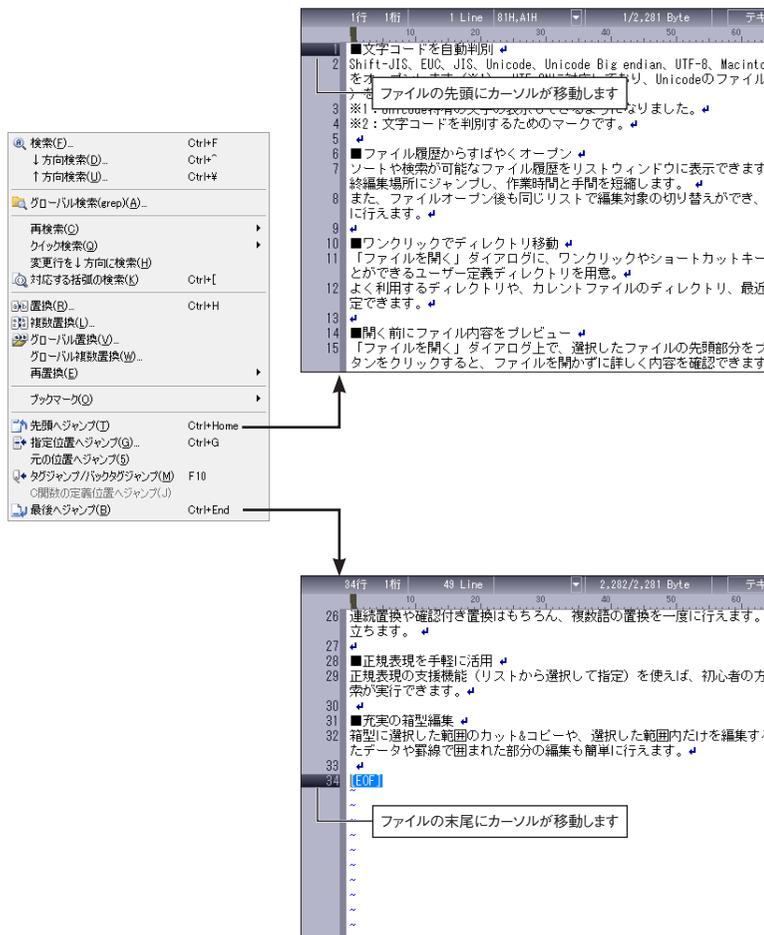
ファイルの先頭／末尾にジャンプする

● ファイルの先頭にジャンプする

【検索・置換・ジャンプ】-【先頭へジャンプ】を選択します。

● ファイルの末尾にジャンプする

【検索・置換・ジャンプ】-【最後へジャンプ】を選択します。



◀ メモ

行頭へジャンプ

[Home] キーを押すとカーソルが行頭へジャンプします。

行末へジャンプ

[End] キーを押すとカーソルが行末へジャンプします。

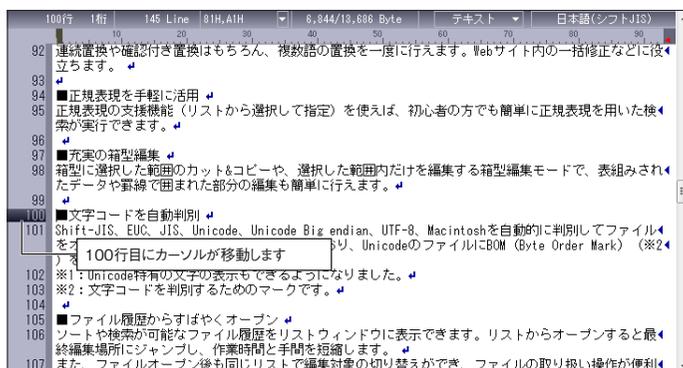
行番号を指定してジャンプする

現在編集中のファイルの指定位置にジャンプする方法です。
ここでは、100行目に移動する方法で説明します。

- 1) 【検索・置換・ジャンプ】-【指定位置へジャンプ】を選択します。
- 2) 「指定位置へジャンプ」-「行番号」にジャンプ先の行番号「100」を入力し、【ジャンプ】をクリックします。



100行目にカーソルが移動します。



メモ

論理行と表示行について
論理行は、改行文字から次の改行文字までを1行とした行番号です。
表示行は、文章の長さに関係なく1行ごとに行番号が表示されます。

メモ

「指定位置へジャンプ」は、ガイドラインから表示することもできます。



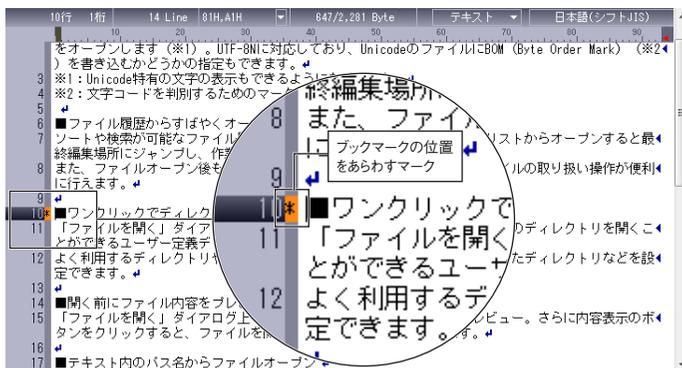
ブックマークへジャンプする

ブックマークを付けておくと、いろいろな方法でその位置にジャンプできます。ブックマークは、MIFESの設定を記録するカスタマイズファイルにファイルの履歴情報の一部として保存されるため、次に開いたときもブックマークを使用することができます。

● ブックマークの設定

ブックマークを使用してジャンプを行うには、ファイルにブックマークを設定します。

- 1) ブックマークを設定する行にカーソルを移動します。
- 2) 【検索・置換・ジャンプ】-【ブックマーク】-【ブックマークの設定/解除】を選択します。



● ブックマークの解除

- 1) ブックマークが設定されている行にカーソルを移動します。
- 2) 【検索・置換・ジャンプ】-【ブックマーク】-【ブックマークの設定/解除】を選択します。設定されていたブックマークが解除されます。

▶ 参照

ブックマークの色を変更する
 「カスタマイズファイルについて」
 ▶109ページ

◀ メモ

【検索・置換・ジャンプ】-【ブックマーク】-【ブックマークをすべて解除】を選択するとファイルのすべてのブックマークを解除することができます。

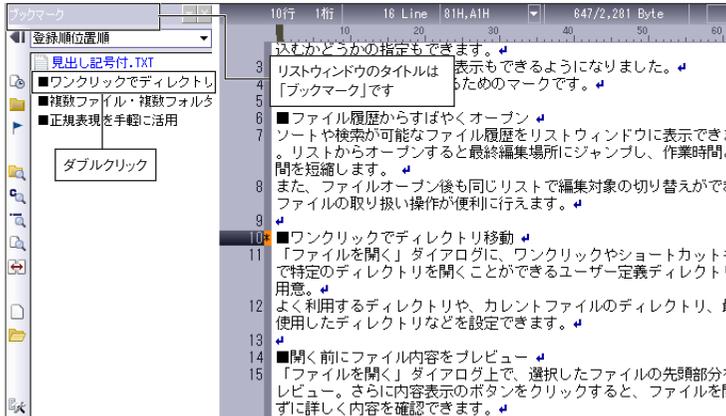
●ブックマークの順番にジャンプする

【検索・置換・ジャンプ】-【ブックマーク】-【ブックマークを↓方向検索】または【ブックマークを↑方向検索】を選択します。カーソルの位置から上下方向の最初のブックマークに移動します。

●リストウィンドウのブックマーク一覧からジャンプする

リストウィンドウのブックマークリストには、現在開いているファイルのすべてのブックマーク位置が表示されています。

リストの中から移動したいブックマークをダブルクリックすると、そのウィンドウがカレントウィンドウになりカーソルがその位置にジャンプします。



▶ 参照

リストウィンドウが開いていない場合は、多目的バー左端の「リストウィンドウ表示」ボタンをクリックします。「リストウィンドウの使い方」⇒23ページ

◀ メモ

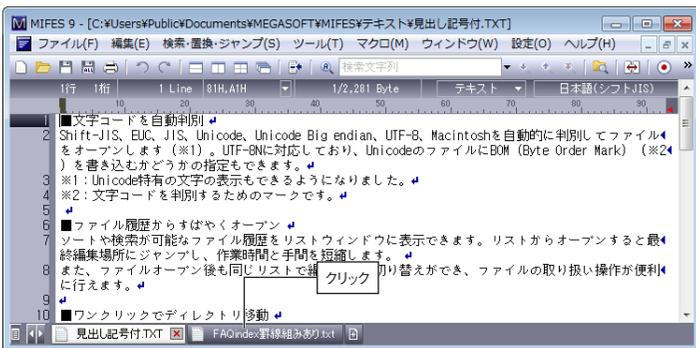
ブックマーク一覧からジャンプする
【検索・置換・ジャンプ】-【ブックマーク】-【ブックマーク一覧】をクリック。表示された一覧からブックマークを選択して【ジャンプ】をクリックします。

ウィンドウの切り替え

複数のファイルを開いて作業を行っているときに、ウィンドウ（ファイル）を切り替える方法です。

● 多目的バーで切り替える

多目的バーから表示するウィンドウ（ファイル名）をクリックします。

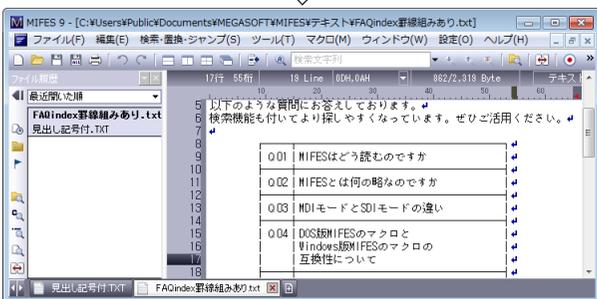
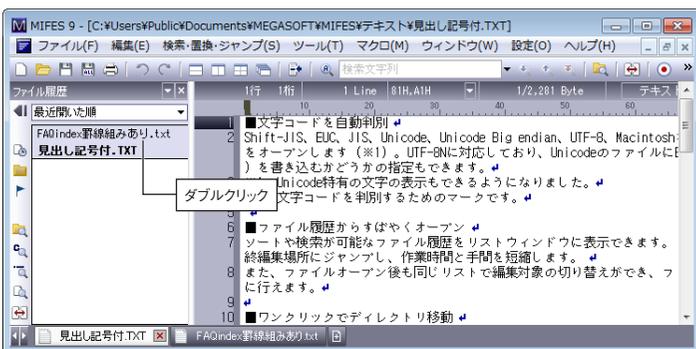


● リストウィンドウで切り替える

「リストウィンドウ」-「ファイル履歴」を表示します。

現在編集中のファイル名が反転して表示されます。

表示するファイルをダブルクリックします。



◀ メモ

多目的バーのファイル名はドラッグ&ドロップで順番を入れ替えることができません。また、右クリックメニューから、ファイル名や拡張子による並べ替えもできません。

▶ 参照

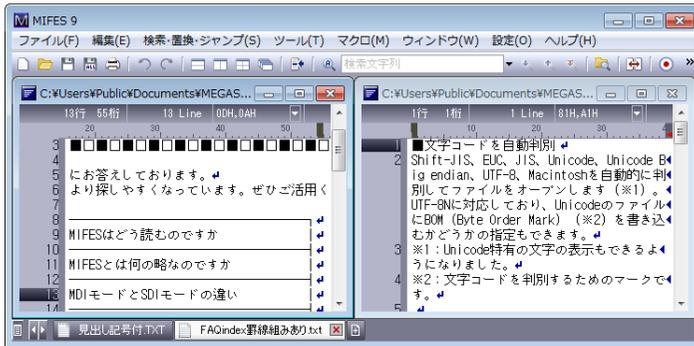
リストウィンドウが開いていないときは、「多目的バー」-「リストウィンドウ表示」をクリックします。「リストウィンドウの使い方」p23ページ

2つのウィンドウを並べて表示する

カレントウィンドウと直前のカレントウィンドウを左右または上下に並べて表示します。

● 左右に並べて表示する

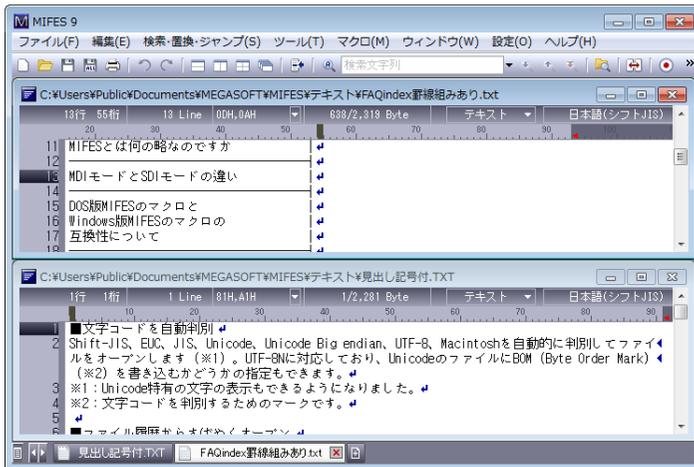
1) 【ウィンドウ】-【ウィンドウ整列】-【①と②で左右表示】を選択します。



2) カレントウィンドウと直前のカレントウィンドウが左右に並んで表示されます。

● 上下に並べて表示する

1) 【ウィンドウ】-【ウィンドウ整列】-【①と②で上下表示】を選択します。



2) カレントウィンドウと直前のカレントウィンドウが上下に並んで表示されます。

◀ メモ

カレントウィンドウ

カレントウィンドウは、現在編集集中のファイルです。

◀ メモ

カレントウィンドウ2分割

【ウィンドウ】-【カレントウィンドウ2分割】を選択すると現在編集集中のウィンドウを左右に分割して表示します。

◀ メモ

①と②のマークについて

①は、カレントウィンドウで、②は、直前のカレントウィンドウです。

【ウィンドウ】-【ウィンドウ一覧】を選択して表示される「ウィンドウ一覧」で①と②のマークが付いたファイルを確認できます。

◀ メモ

2つ以上のウィンドウを並べて表示するには、【ウィンドウ】-【ウィンドウ整列】-【並べて表示】を選択します。



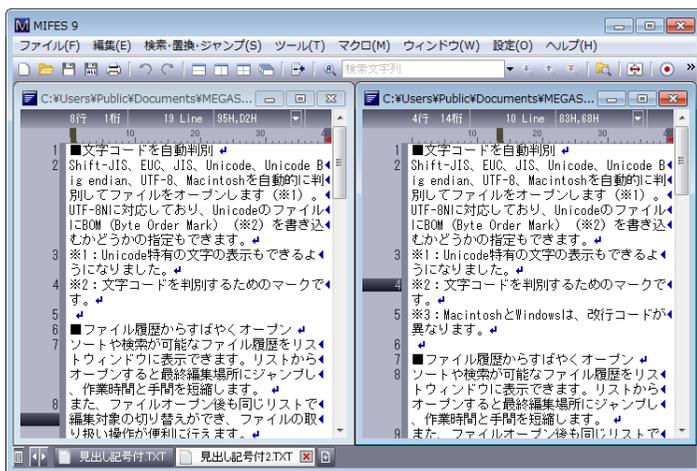
▶ 参照

「2つのファイルを比較する」
⇒73ページ

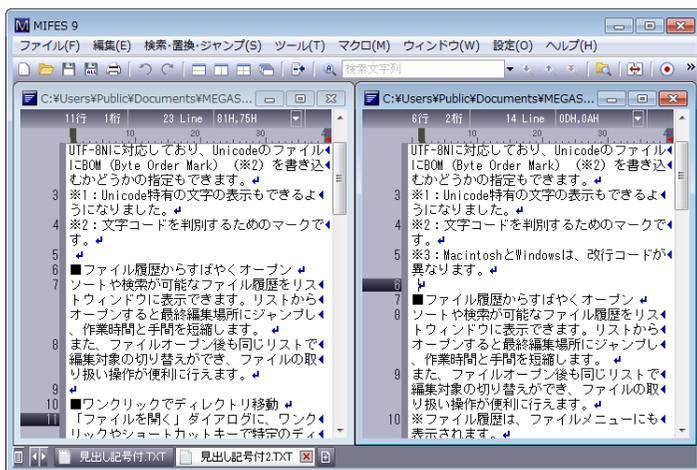
2つのファイルを同時にスクロールする

並べて表示している2つのファイルを同時にスクロールできます。

- 1) 【①と②で左右表示】機能などで2つのファイルを並べて表示し、スクロールを開始したい位置(ファイルの先頭など)にカーソルを移動してください。



- 2) 【ウィンドウ】-【①と②で↓両画面スクロール】を選択します。2つのウィンドウが下方向に同時にスクロールします。



◀メモ

[Ctrl] + [PageUp]でウィンドウ①と②が上方向に同時にスクロール、[Ctrl] + [PageDown]でウィンドウ①と②が下方向に同時にスクロールします。

▶参照

2つのファイルを比較しながら両画面を同時にスクロールする機能があります。「スクロールしながら比較」
⇒75ページ

元に戻す(操作の取り消し)

最後に実行した編集作業を取り消し、直前の状態に戻す機能です。

編集作業は、「UNDOバッファ(メモリ内)」に記録されており、その範囲で元に戻すことができます。

【編集】-【元に戻す】を選択します。

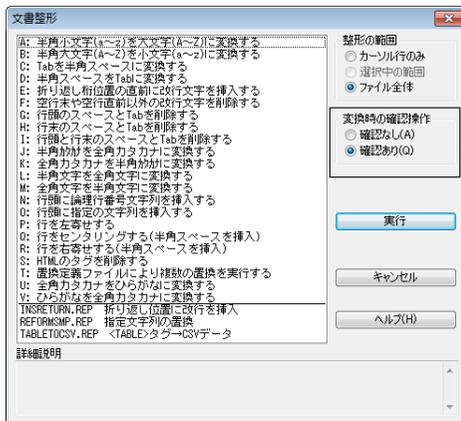
● 「元に戻す」が実行できない機能

- 設定関連
環境設定やカスタマイズなど設定に関する機能
- ファイル操作
保存や開くなどファイル操作に関する機能

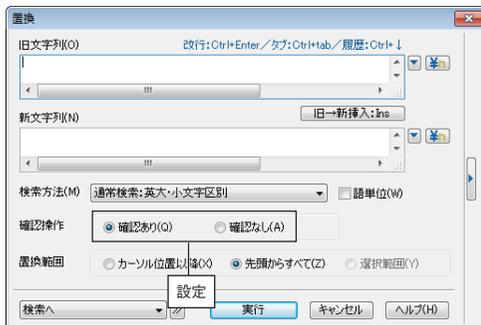
● 一括で「元に戻す」が実行できない機能

【置換】や【文書整形】を「確認あり」で実行したときは、1つずつ元に戻ります。ただし、「確認なし」のときは一括で元に戻ります。

「文書整形」ダイアログの場合



「置換」ダイアログの場合



やり直し(取り消した操作を再実行)

「元に戻す」で取り消した操作を取り消す前の状態に戻せます。

【編集】-【やり直し】を選択します。

● 「やり直し」の動作

「元に戻す」の動作が一括または一つずつ実行されたのかにかかわらず「やり直し」の動作は常に一つずつ実行されます。

第2章

基本操作

■ UNDOバッファのクリアと、変更行の明示について

ファイルの編集内容を保存しているUNDOバッファを、ファイルの保存時にクリアするか、ファイル保存後も残しておくかでUNDOでどこまで戻れるかが変わってきます。

● ファイル保存後も保存前まで戻れるようにする

【設定】-【環境設定】-【動作】タブの「保存時に変更行とUNDOバッファをクリア」のチェックをOFFにします。

【元に戻す】で最後の保存時より前へ(ファイルを開いたときまで)戻ることができます。また、「変更行の明示」がONのときは、ファイルを保存しても変更行は明示されたままになります。

● ファイル保存時までしか戻れなくする

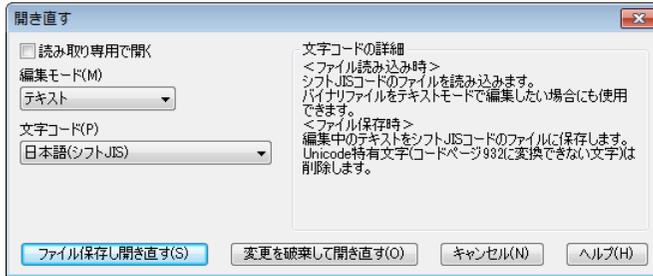
【設定】-【環境設定】-【動作】タブの「保存時に変更行とUNDOバッファをクリア」のチェックをONにします。

【元に戻す】では、最後の保存時まで戻ることができます。また、「変更行の明示」がONのときは、ファイルを保存すると変更行の明示はクリアされます。

ファイルを開き直す

ファイルを最後に保存した状態に戻るときは「開き直す」機能を使用します。

- 1) 【ファイル】-【開き直す】を選択します。
- 2) 「変更を破棄して開き直す」をクリックします。



最後に保存した状態のファイルが開きます。

◀ メモ

ファイルの変更を確認する

- ・タイトルバーのファイル名のあとに(変更あり)が表示される
- ・多目的バーのファイル名の前に[*]が表示される
- ・リストウィンドウのファイル名の前に[*]が表示される

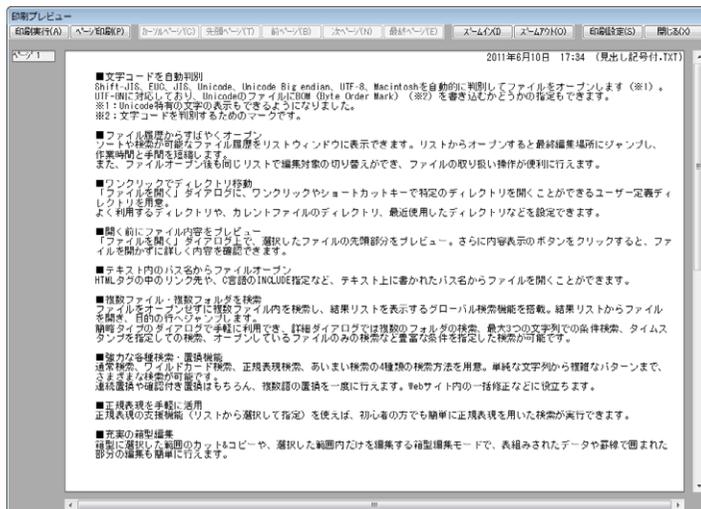
ファイル全体を印刷する

カレントウィンドウの内容を印刷します。

- 1) 【ファイル】-【印刷】を選択します。
- 2) 各タブで印刷設定を行います。
画面表示のフォントと印刷フォントは別々に指定できます。
同じ設定にするとときは[画面イメージに近づける設定に]をクリックします。



- 3) 【印刷プレビュー】をクリックして、印刷イメージを確認します。イメージどおりでないときは【印刷設定】をクリックして「印刷」ダイアログに戻り、設定しなおすことができます。
【印刷実行】をクリックすると印刷を実行します。



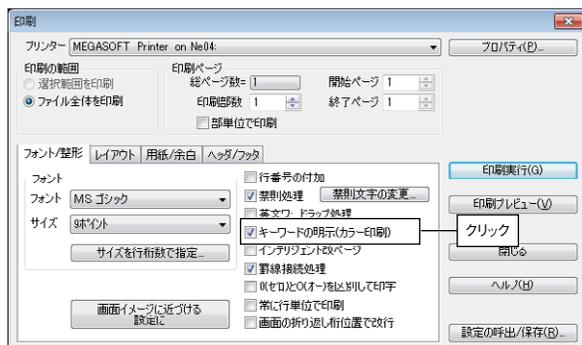
◀メモ

「部単位で印刷」にチェックをつけると、複数部印刷時に1部ずつ印刷します。(1,2,3 1,2,3 1,2,3…)

カラーで印刷する

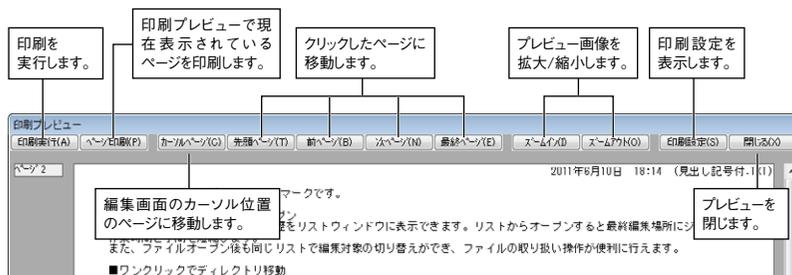
クライアントウィンドウでキーワードをカラー表示しているときに、キーワードをカラーで印刷します。

- 1) 「フォント/整形」タブの「キーワードの明示(カラー印刷)」にチェックを入れます。
[印刷プレビュー]をクリックします。



- 2) [印刷実行]をクリックします。

● 印刷プレビュー画面の操作について



▶ 参照

「文字列の色を変えて表示する」
⇒95ページ

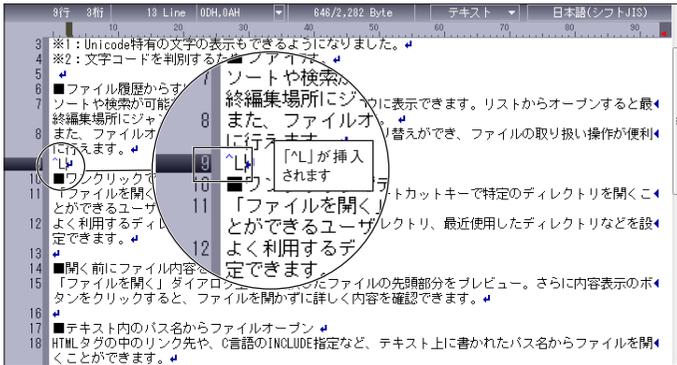
◀ メモ

キーワードは【設定】-【環境設定】-「カラー」タブで「背景白」で設定されている色で印刷されます。画面表示を「背景白」に設定してキーワードの色を変更するとその色で印刷できます。

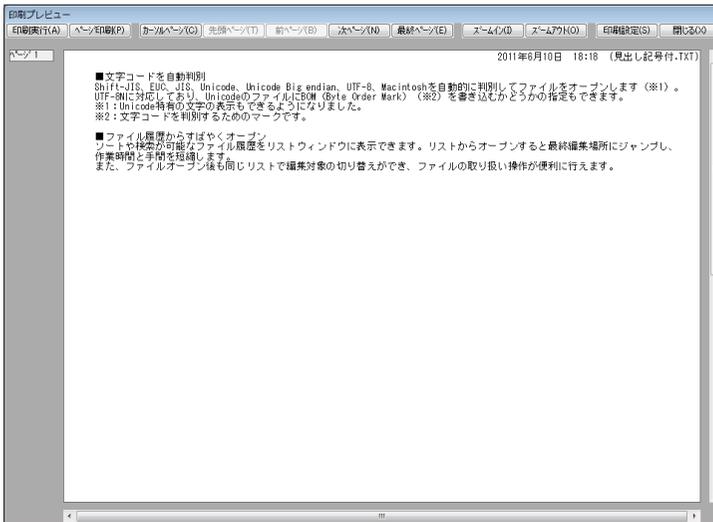
改ページする

編集中のファイルを印刷するときに、任意の場所で改ページをする方法です。

- 1) 改ページを行いたい位置にカーソルを移動して【編集】-【改ページコード (^L) の挿入】を選択すると、その位置に改ページコードが挿入されます。



- 2) 【ファイル】-【印刷プレビュー】で確認できます。



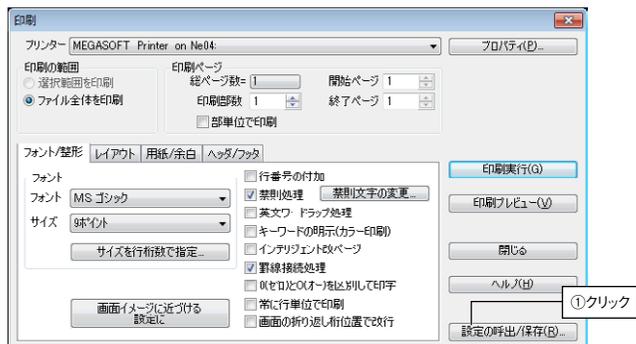
◀メモ

「印刷」-「レイアウト」タブの「用紙1枚のページ数」を「1ページ」以外に設定すると、複数ページを1枚の用紙にまとめて印刷することができます。

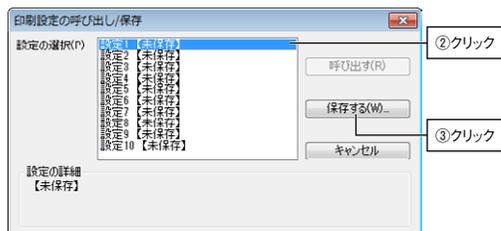
印刷設定を保存する

印刷設定を保存します。保存できるのは、「フォント/整形」「レイアウト」「用紙/余白」「ヘッダ/フッタ」のタブで設定する項目です。

- 1) 【ファイル】-【印刷】を選択します。
①【設定の呼出/保存】をクリックします。



- 2) 「印刷設定の呼び出し/保存」が表示されます。
②「設定の選択」から保存先をクリックして選択します。
③【保存する】をクリックします。



- 3) ④設定名(任意の名前)を入力します。
⑤【OK】をクリックします。



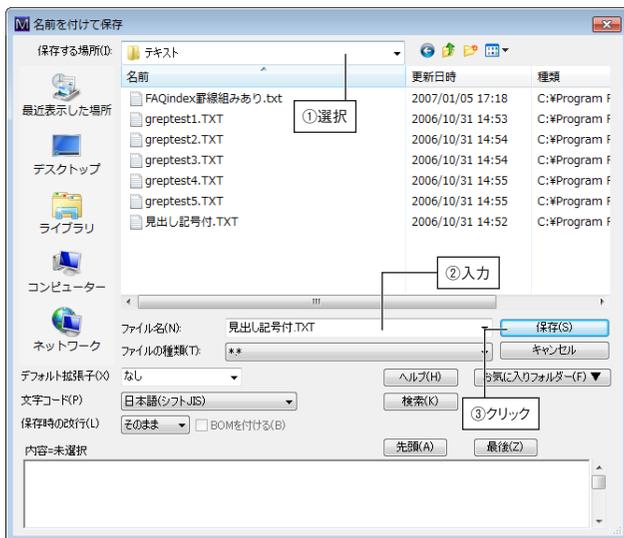
◀メモ

印刷設定の呼び出し
「印刷設定の呼び出し/保存」で登録されている設定をクリックして選択。「呼び出す」をクリックします。

ファイルを保存する

編集中のファイルを保存する方法です。

- 1) 【ファイル】-【名前を付けて保存】を選択します。
- 2) 「名前を付けて保存」が表示されます。
 - ①保存する場所を選択します。
 - ②ファイル名を指定します。
 - ③【保存】をクリックします。



◀メモ

【ファイル】-【上書き保存】で保存できます。「名前を付けて保存」は、表示されません。

◀メモ

【設定】-【環境設定】-【その他】タブの「ダイアログでの初期フォルダー」-「ファイルを開く」で、「名前を付けて保存」で表示される初期フォルダーを設定できます。

◀メモ

オートセーブ
【設定】-【環境設定】-【その他】タブの「オートセーブ」で、ファイルの編集中に自動的に保存する設定を選択できます。

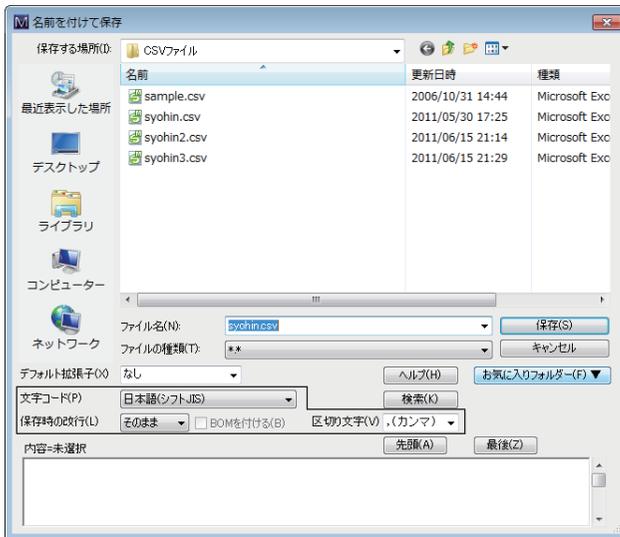
◀メモ

バックアップファイル
【設定】-【環境設定】-【その他】タブの「バックアップファイル」で、ファイルの保存時に作成されるバックアップファイルの設定を選択できます。詳しくは「バックアップファイルを作成する」98 ページを参照してください。

文字コード/改行コードを指定して保存する

ファイルを保存するときに文字コードや改行コードを指定する方法です。

- 1) 【ファイル】-【名前を付けて保存】を選択します。
- 2) 「名前を付けて保存」が表示されます。
保存するファイル名、保存先のほかに、以下の項目を指定して保存できます。
 - ・文字コード
 - ・BOMを付ける/付けない
 - ・改行コード
 - ・区切り文字 (CSVモード時のみ)



メモ

改行コードについて

Macintoshで作成したテキストファイルを開いて編集した場合、「保存時の改行」が「CR(^M)」になっています。Windowsのテキストファイルとして保存するときは、「CR+LF」に変更します。

ファイル(ウィンドウ)を閉じる

編集中のファイルを閉じます。

● 編集中のファイル(ウィンドウ)を閉じる

【ファイル】-【閉じる】を選択します。

○ 変更がある場合

変更が加えられたファイルを閉じる場合「ウィンドウを閉じる確認」が表示されます。保存して閉じるときは【はい】を、保存せずに閉じる場合は【いいえ】をクリックします。
【キャンセル】をクリックするとウィンドウを閉じる作業を中止します。



● 保存して閉じる

編集中のファイルに変更が加えられている場合には、保存して閉じる機能です。

【ファイル】-【上書き保存し閉じる】を選択します。

ファイルに変更がある場合は、上書き保存をして閉じます。

● すべて閉じる

開いているファイル(ウィンドウ)をすべて閉じる機能です。

【ファイル】-【すべて閉じる】を選択します。

開いているファイル(ウィンドウ)がすべて閉じます。

○ 変更のあるファイルがある場合

変更のあるファイルがある場合「すべて閉じる確認」が表示されます。

【すべて保存】をクリックするか【Ctrl】+クリックで保存するファイルを選択して【選択したファイルを保存】をクリックします。



◀メモ

新規ウィンドウのときは「名前を付けて保存」ダイアログが表示されます。

◀メモ

すべて保存して終了
【ファイル】-【すべて保存して終了】を選択すると、保存していないファイルや変更が加えられたファイルを保存して終了します。このとき、一度も保存していないファイルがある場合は、「名前を付けて保存」が表示されます。

◀メモ

保存せずに閉じるときは、ファイルを選択していない状態で【すべて保存せず】をクリックします。

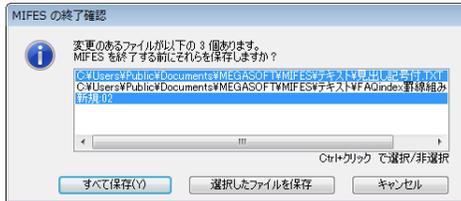
MIFESを終了する

MIFESを終了します。

- 1) 【ファイル】-【終了】を選択します。
- 2) 1度も保存されていないファイルや変更が加えられたファイルがある場合、「MIFESの終了確認」が表示されます。



- 3) 変更のあるファイルのリストを [Ctrl]+クリックで選択すると保存するファイルを指定することができます。



- 4) 【選択したファイルを保存】をクリックします。
選択したファイルを保存し、MIFESが終了します。

メモ

【すべて保存せず】をクリックするとすべてのファイルを保存せずに終了します。

メモ

【すべて保存】をクリックすると表示されているすべてのファイルを保存して終了します。

ヘルプ

ヘルプには、すべての機能の説明を記載しています。
 詳細な仕様などについても記述していますので、ご参照ください。

● ヘルプを起動する

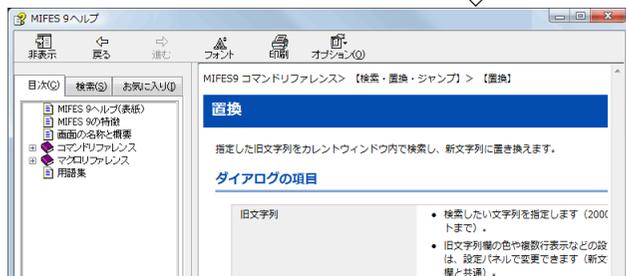
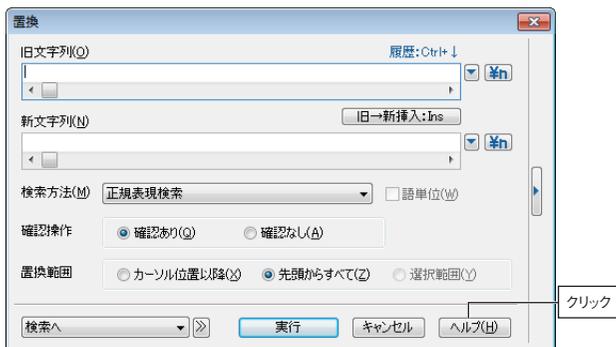
【ヘルプ】-【ヘルプ】を選択します。



使い方については【ヘルプの使用手法】を参照してください。

● 作業中に関連するヘルプを表示する

MIFESを操作中に表示されるダイアログの【ヘルプ】をクリックすると、そのダイアログに関する説明が表示されます。

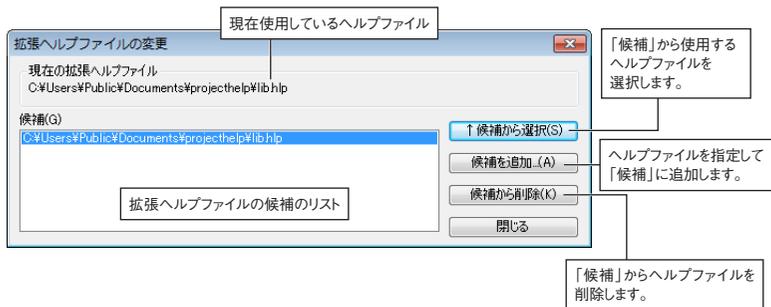


拡張ヘルプ

他のアプリケーションなどのヘルプファイル(拡張子が「.chm」「.hlp」のファイル)を拡張ヘルプとして設定し、参照できます。

● 拡張ヘルプファイルの登録/変更

【ヘルプ】-【拡張ヘルプファイルの変更】を選択して、拡張ヘルプファイルの登録や変更を行います。



注意

説明内で例として使用しているヘルプファイルは、MIFESに付属するものではありません。

● 拡張ヘルプファイルの参照

【ヘルプ】-【拡張ヘルプ】を選択すると現在設定されている拡張ヘルプファイルが表示されます。

○ カーソル位置の文字列を拡張ヘルプで参照する

【ヘルプ】-【拡張ヘルプで参照】を選択すると拡張ヘルプファイルが表示され、カーソル位置の文字列に該当するヘルプ項目を探します。

第3章

入力と編集

入力、編集作業においてMIFESの便利な機能を紹介します。

入力機能	
定型文を登録／挿入する	50
制御コードを挿入する	51
連番を含む文字列を入力する	52
切り貼り機能	
選択した文字列をコピーする	53
複数行をコピーする	55
箱型の範囲をコピーする	56
切り貼り機能一覧	57
文字列の検索	
文字列を検索する	58
検索文字列の入力方法	59
検索方法について	60
検索文字列欄	61
複数ファイル内を検索する[グローバル検索(grep)]	62
検索結果からジャンプする(グローバル検索)	64
指定文字列を含まない行の検索(グローバル検索)	65
開いているファイルだけを検索する(グローバル検索)	66
文字列の置換と変換	
文字列を置換する	67
半角英字をすべて大文字にする	68
半角カタカナを全角に変換する	69
センタリング／右寄せ	70
複数組の文字列を置換する	71
複数ファイルの文字列を置換する	72
ファイル比較	
2つのファイルを比較する	73
比較結果から連動ジャンプ	75
2つのフォルダー内を一括比較する	76
罫線機能と箱型編集	
罫線を描く	77
罫線内を編集する	78
箱型編集	79
便利な機能	
今日の日付を入力する	80
入力文字数の確認	81
定型文書を作成する	82
他のアプリを実行する	
他のプログラムに渡す	83
DOSコマンドを実行する	85
起動時オプション	
ファイルとカーソル位置を指定して起動する	86
起動時オプションでできること	87
Windows上の右クリックメニュー	88

定型文を登録／挿入する

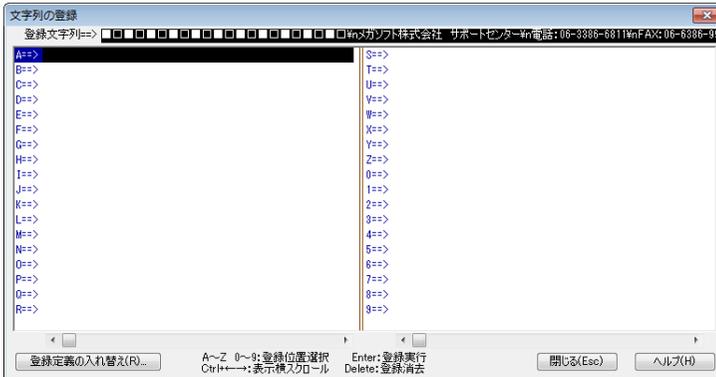
電子メールの署名や会社名、住所、プログラムソースのヘッダ部分など、決まった文章を36個まで登録できます。文章には改行やスペース、制御コードも含むことができ、最大255バイトまで登録できます。登録した文章は、簡単に呼び出し挿入できます。

● 定型文を登録する

- 1) 定型文として登録する文章を選択します。



- 2) 【編集】-【文字列の登録/挿入】を選択します。
「文字列の登録」が表示されます。



- 3) キーボードから文字列を割り当てるキー（上図の場合は[A]）を押します。選択されたことを確認して[Enter]を押します。

● 定型文を挿入する

- 1) 定型文を挿入する位置にカーソルを移動します。
【編集】-【文字列の登録/挿入】を選択します。
「登録文字列の挿入」が表示されます。
- 2) 挿入文字列が登録されているキーを押すと、カーソル位置に定型文が挿入されます。

◀ ×モ

定型文をファイルとして保存しておくことで、カーソル位置に挿入することもできます。

【ファイル】-【ファイルの挿入】を選択して表示される「挿入するファイル名の指定」からファイルを選択。【挿入】ボタンをクリックします。

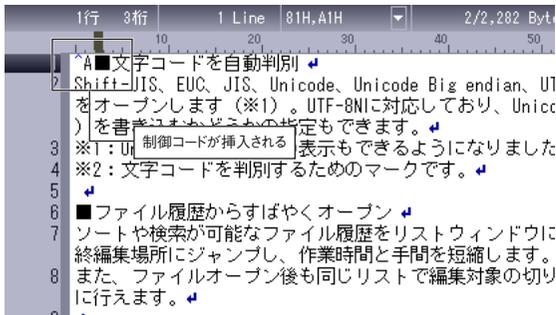
制御コードを挿入する

カーソル位置に制御コードを挿入します。

制御コードを挿入する位置にカーソルを移動します。

【編集】-【制御コードの挿入】を選択します。

挿入する制御コードをクリックして選択し【挿入】をクリックします。



メモ

改ページを挿入する

【編集】-【改ページコード(^L)の挿入】を選択して挿入できます。
「改ページする」⇒40ページ

メモ

ハードタブは「Tab」キーで挿入できます。

メモ

「16進数での指定」「10進数での指定」に制御コードを入力することもできます。「16進4桁のコード」は、文字コードの種類を選択します。

メモ

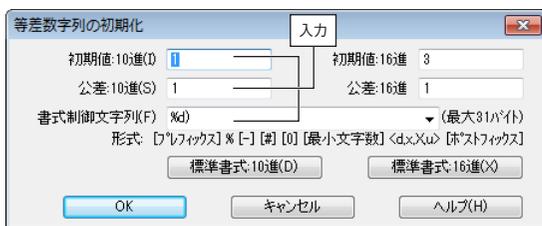
制御コードのCtrlを表す「^」は色替えて表示されます。
【設定】-【環境設定】-【カラー】タブの「特殊文字表示色」で色を設定します。

連番を含む文字列を入力する

番号付きの文章を作成するときに、等差数字列を出力する機能を使用して連番を含む文字列を入力することができます。

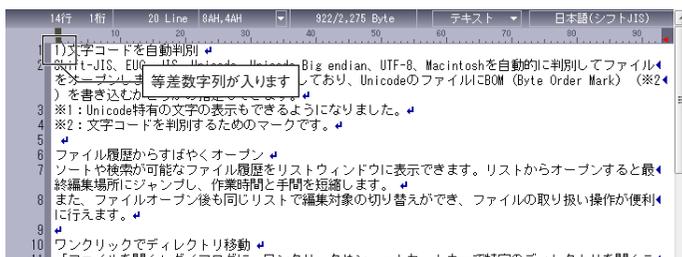
● 等差数字列の初期化

- 1) 【ツール】-【等差数字列】-【初期化】を選択します。
「等差数字列の初期化」が表示されます。
- 2) 「初期値:10進」は、最初に等差数字列を入力するときの数値です。「1」と入力します。
「公差:10進」は、次に等差数字列を入力するときの加算値です。「1」と入力します。
「書式制御文字列」は、等差数字列の書式を設定します。「%2d」と入力します。

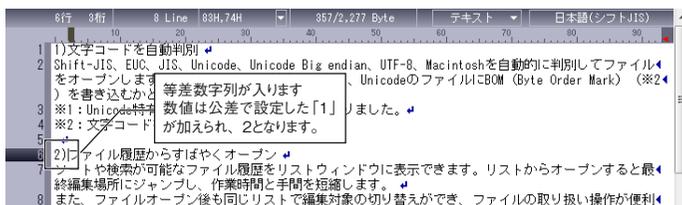


● 等差数字列の入力

- 1) 連番を含む文字列を入力する位置にカーソルを移動します。
【ツール】-【等差数字列】-【1回挿入/上書き】を選択します。



- 2) 続けて文字を入力します。次の連番を含む文字列を入力する位置で【ツール】-【等差数字列】-【1回挿入】を選択します。



◀メモ

書式制御文字列

左の例で挿入している書式制御文字列の詳細

% : 等差数字列をあらわします。必ず入力する必要があります。

2 : 最小の文字数をあらわします。1桁の数字と2桁の数字が揃うように設定します。

d : 10進数で入力することをあらわします。

) : ポストフィックスです。連番のあとに「)」を表示します。

◀メモ

編集集中のファイルに行番号を追加
編集集中のファイルに行番号を追加するには、【ツール】-【文書整形】-【行頭に行番号を挿入】を選択します。

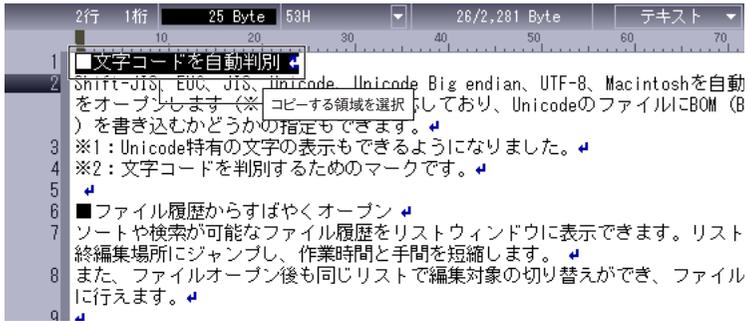
◀メモ

特定の文字を等差数字列に置換
文字列の検索/置換実行時に等差数字列を使用できます。

選択した文字列をコピーする

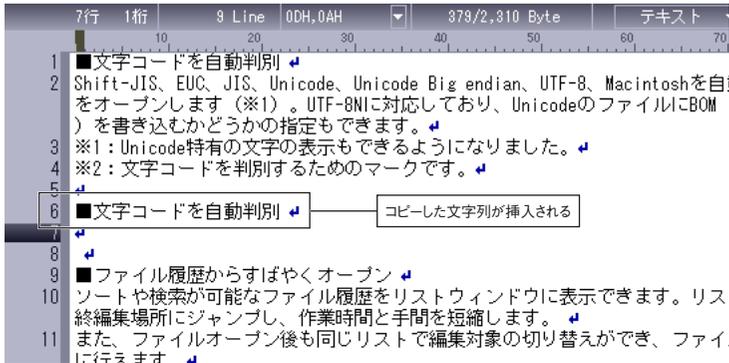
編集中のファイルの一部または全体をクリップボードにコピーします。クリップボードにコピーした内容は、別の場所やほかのアプリケーションに貼り付けることができます。

- 1) コピーする領域をドラッグして選択します。



- 2) 【編集】-【コピー】を選択します。

- 3) コピーした文字列を挿入する位置にカーソルを移動し、【編集】-【貼り付け】を選択します。



◀メモ

【編集】-【切り取り】をクリックすると、選択した文字列をクリップボードにコピーし削除します。

◀メモ

ドラッグ&ドロップで移動する
文字列を選択。マウスでドラッグ&ドロップすると選択部分を移動できます。

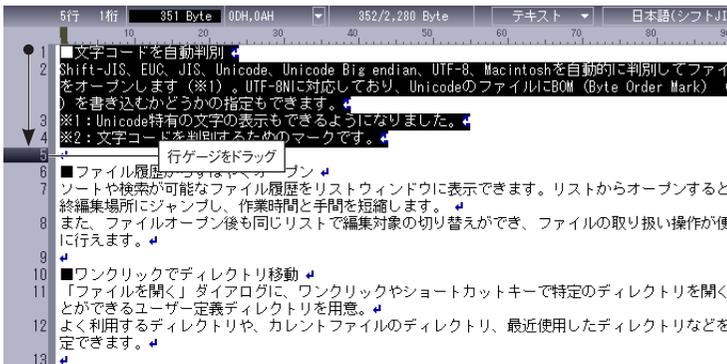
ドラッグ&ドロップでコピーする
文字列を選択。[Ctrl]を押しながらマウスでドラッグ&ドロップすると選択部分をコピーできます。

◀メモ

文字列は、クリップボードにコピーされるため、テキストを扱えるほかのアプリケーションに貼り付けることもできます。

● 行単位での選択/コピー

1) 行ゲージをドラッグして行単位で選択します。



◀メモ
行ゲージをダブルクリックすると行単位で選択できます。

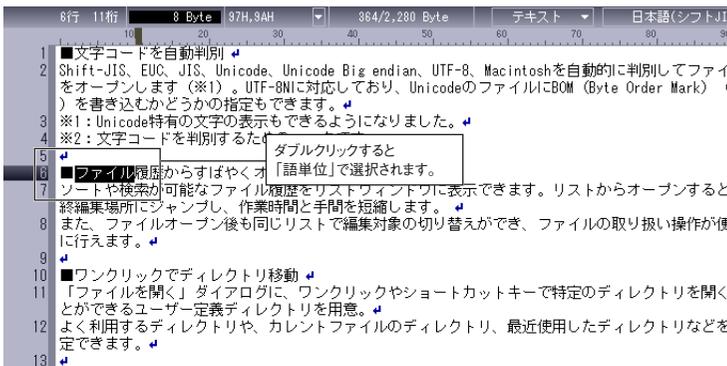
◀メモ
行ゲージの表示/非表示は【設定】→【環境設定】→「表示」タブの「行ゲージ」で設定できます。

2) 【編集】→【コピー】をクリックします。

3) コピーした文字列を挿入する位置にカーソルを移動し、【編集】→【貼り付け】をクリックします。

● 語単位での選択/コピー

1) 選択する文字列の場所で、ダブルクリックして選択します。



◀メモ
ダブルクリックが「1語選択」に設定されているときはトリプルクリックすると段落単位で選択できます。
ダブルクリックの動作は、【設定】→【環境設定】→「動作」タブの「マウス動作」→「ダブルクリック範囲選択」で設定できます。

2) 【編集】→【コピー】を選択します。

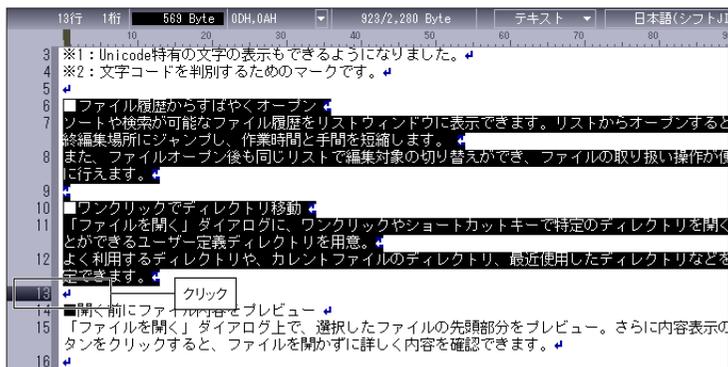
3) コピーした文字列を挿入する位置にカーソルを移動し、【編集】→【貼り付け】を選択します。

複数行をコピーする

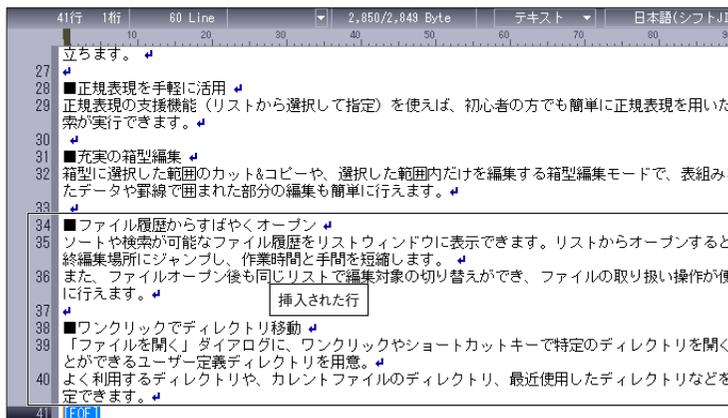
MIFESにはクリップボードを使う文字列選択とは別に、MIFES独自の「行カットバッファ」を使用した行単位の切り貼り機能があります。

開始から終了のカーソル位置によって文字列を行単位で選択し、別の位置にコピーします。文字量の多いファイルで、コピーするときに便利です。

- 1) 選択を開始する位置にカーソルを移動します。
【編集】-【行】-【行選択の開始/中止】を選択します。
- 2) 選択する最終行の次の行を選択します。
【編集】-【コピー】を選択します。



- 3) 文字列を挿入する位置にカーソルを移動します。
【編集】-【行】-【行の貼り付け】を選択するとカーソル位置に挿入されます。



メモ

行カットバッファ

行カットバッファは「MIWLCUT.txt」というファイルです。

【設定】-【環境設定】-「起動」タブ-「起動/終了時の設定」の「カットバッファファイルを削除して終了する」の項目でカットバッファファイルの扱いを変更できます。

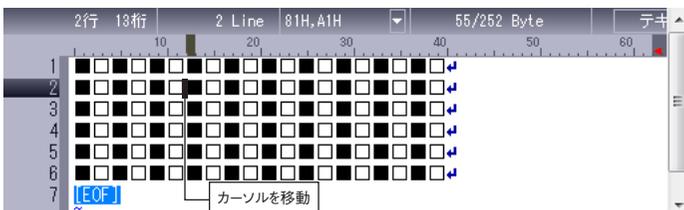
箱型の範囲をコピーする

MIFESには箱型範囲の切り貼り機能があります。
文章を箱型で選択・コピーし、別の位置に挿入します。

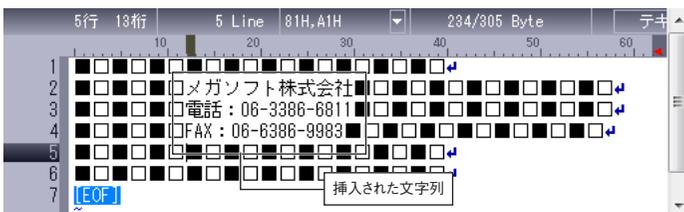
- 1) 選択する領域を[Alt]+ドラッグします。



- 2) 【編集】-【コピー】を選択します。
- 3) 挿入する位置にカーソルを移動します。



- 4) 【編集】-【箱型】-【箱型に貼り付け】を選択すると箱型で選択した領域が挿入されます。



◀メモ

箱型に上書き

【編集】-【箱型】-【箱型に上書き貼り付け】をクリックするとカーソルの位置から箱型で上書きします。入力モード(挿入/上書き)に関係なく上書きされ、挿入位置の文字列は削除されます。

箱型を文字列挿入

【編集】-【箱型】-【箱型を文字列挿入】をクリックするとカーソルの位置から改行のない連続した文字列として挿入されます。

▶参照

「箱型編集」⇒79ページ

▶参照

「罫線を描く」⇒77ページ

切り貼り機能一覧

【編集】-【その他の削除・挿入】には、文字列を削除・挿入するための多彩な機能があります。

■ 削除行スタックを使用した切り貼り

● 1行削除

【編集】-【その他の削除・挿入】-【1行削除】を選択します。
カーソル位置の行が改行も含めて「削除行スタック」に取り込まれた後、削除されます。

● 削除行を逆順に挿入

【編集】-【その他の削除・挿入】-【削除行を逆順に挿入】を選択します。
カーソル位置に最後に「削除行スタック」に取り込まれた行が挿入されます。

■ 削除文字列バッファを使用した切り貼り

● 行末まで削除

【編集】-【その他の削除・挿入】-【行末まで削除】を選択します。
カーソル位置から行末までの文字列が「削除文字列バッファ」に取り込まれた後、削除されます。

● 行頭から削除

【編集】-【その他の削除・挿入】-【行頭から削除】を選択します。
カーソル位置から行頭までの文字列が「削除文字列バッファ」に取り込まれた後、削除されます。

● 削除文字列挿入

【編集】-【その他の削除・挿入】-【削除文字列挿入】を選択します。
カーソル位置に「削除文字列バッファ」に取り込まれている文字列を挿入します。

◀ メモ

削除行スタック

【編集】-【その他の削除・挿入】-【1行削除】で削除した行データは、削除行スタックに20行まで取り込まれます。
【編集】-【その他の削除・挿入】-【削除行を逆順に挿入】で挿入した行データは削除行スタックから削除されます。

◀ メモ

削除文字列バッファ

【編集】-【その他の削除・挿入】-【行末まで削除】や【行頭から削除】で削除した文字列データは、削除文字列バッファに取り込まれます。
取り込まれた文字列は、次の文字列が取り込まれるまで保持されます。

◀ メモ

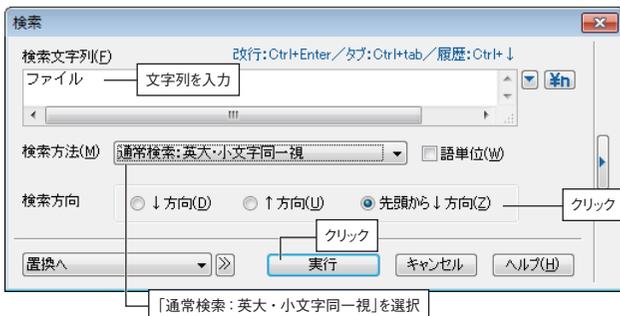
【編集】-【その他の削除・挿入】-【バックスペース】や【1語削除】、キーボードの【Back space】【Delete】キーで削除した文字は「削除文字列スタック」に取り込まれ【編集】-【その他の削除・挿入】-【削除文字挿入】でカーソル位置に挿入できます。

◀ メモ

【検索・置換・ジャンプ】-【置換】で文字列を削除することもできます。
「新文字列」を空白にして実行してください。

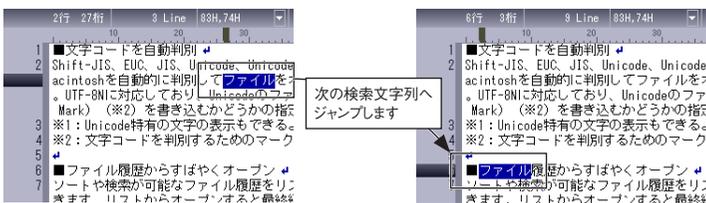
文字列を検索する

- 1) [検索・置換・ジャンプ]—[検索]を選択します。



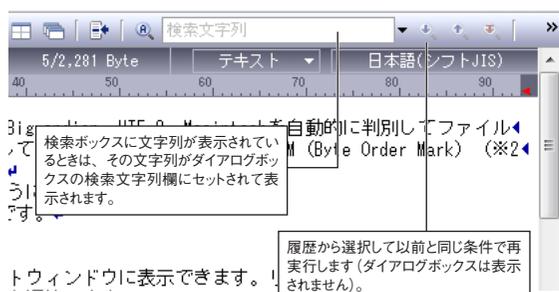
- 2) [実行]をクリックすると、検索された文字列の位置にカーソルが移動し、文字列が色替表示されます。

[検索・置換・ジャンプ]—[↓方向再検索]を選択すると次の検索文字列にジャンプします。



● ツールバーの検索ボックス

ツールバーの検索ボックスに直接文字列を入力して検索実行できます。



▶ 参照

「検索文字列の入力方法」
⇒59ページ

▶ 参照

「検索方法について」⇒60ページ

◀ メモ

すべて強調表示

カレントウィンドウ内の検索文字列をすべて色替え表示します。設定パネルを開いて「すべて強調表示」にチェックを入れます。

◀ メモ

検索文字列が見つからない場合、検索失敗メッセージを多目的バーに表示することができます。

【設定】—【環境設定】—【ツールバー】タブの「検索失敗メッセージを多目的バーに表示」にチェックを入れます。

検索文字列の入力方法

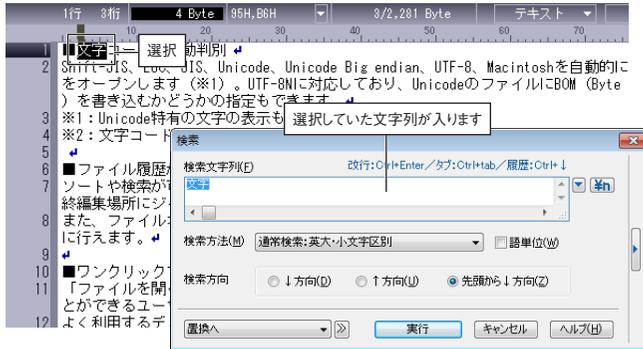
検索文字列は直接入力するほか、以下のような方法で入力できます。

● コピー&ペースト

文字列を選択してコピーし、「検索」ダイアログの「検索文字列」欄に貼り付けします。

● 選択範囲

カレントウィンドウの文字列を選択して、【検索・置換・ジャンプ】-【検索】をクリックします。表示された「検索」ダイアログの「検索文字列」に選択していた文字列が入ります。



● カーソル位置の1語 (Ctrl+^)

Ctrl+^を入力するたびに編集画面のカーソル位置から1語ずつ検索文字列に追加されます。

▶ 参照

検索文字列欄は、検索方法と設定内容により、1行/複数行、スクロールバーの表示/非表示、入力欄の色などを設定・変更ができます。
「検索文字列欄」⇒61ページ

◀ メモ

「検索」-「検索文字列」の履歴は、「置換」-「旧文字列」の履歴と共通です。

検索方法について

● 検索方法と概要

検索方法	説明	英字大小文字の 区別／同一視
通常検索	指定した文字列を検索します。半角の*や?などの文字列もそのまま指定して検索できます。 例 "MIFES"と指定して、"MIFES"を検索します。	あり
ワイルドカード検索	「*」(任意の文字列)や「?」(任意の1文字)を使って検索します。それ以外は、文字列をそのまま指定して検索できます。 例 "MI*"と入力すると、"MIFES""MIW7""MINE"などを検索することができます。	あり
正規表現検索	正規表現のための記号を使って文字列を指定し、他の検索方法よりも複雑な検索文字列を指定することができます。 例 "MIW[1-7]"と指定すると、"MIW1"、"MIW2"…"MIW7"の7つの文字列を検索することができます。	なし
あいまい検索	半角と全角、ひらがなとカタカナ、括弧(「[…」、英字の大文字と小文字、「ず」と「づ」、「ぶ」と「ヴ」などを同一視しながら検索します。また、記号やスペース・タブなども無視しながら検索します。 例 "まいふえず"と指定すると、"まいふえず"のほかに、"マイフェス"、"マイヰス"、"マイ-フェス"なども検索することができます。	なし

● 正規表現について

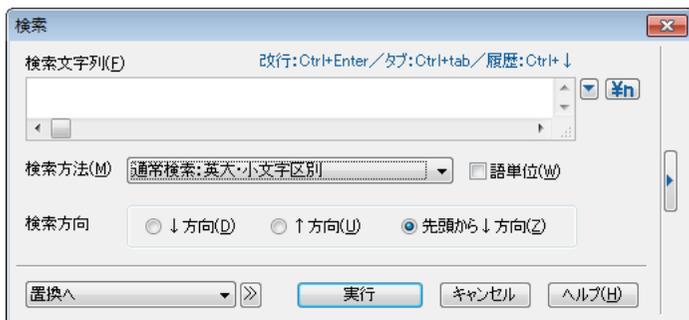
MIFES 9の正規表現は、文字列処理が得意なPerl言語タイプの正規表現です。MIFES8までの正規表現とは、同じ記号でも結果が異なる場合がありますので、ご使用の際には、ヘルプなどをご確認ください。

なお、設定により、MIFES8までの正規表現(旧タイプ)もご使用いただけます。

【設定】－【環境設定】－「動作」タブの「正規表現のタイプ」で「旧タイプ」を指定してください。

※キーボードマクロ、マクロコマンド内の正規表現検索は、記録・作成時の正規表現のタイプで実行されます。旧バージョンから引き継いだときも修正は必要ありません。

検索文字列欄



- 「検索方法」から通常検索、あいまい検索を選択した場合、検索文字列欄は複数行表示ができます。
複数行表示時は、改行やタブなどを編集画面と同じ記号で表示し、以下の操作で入力ができます。
改行: Ctrl+Enter
タブ: Ctrl+tab
- 「検索方法」からワイルドカード検索、正規表現検索を選択した場合、1行表示となります。
- メタ文字を使用するときは、いずれの検索方法も1行表示になります。

●メタ文字の色を変更する

- 1) 右側に表示される設定パネルから「メタ文字は色を変えて表示する」にチェックを入れ「色の変更」をクリックします。



- 2) 「検索・置換文字列欄の色の設定」から色を変更する文字の右側の「変更」ボタンをクリックします。



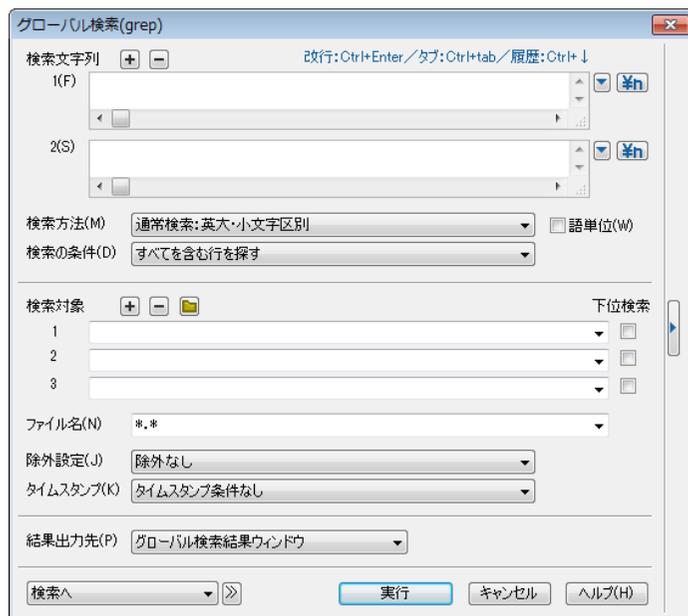
- 3) 色を選択します。

複数ファイル内を検索する[グローバル検索(grep)]

グローバル検索は、複数のファイルから指定条件に合った行を検索し、結果リストを出力する機能です。結果リストから検索位置にジャンプできます。

検索文字列欄は最大3つまで、検索位置は最大5つまで「+」「-」ボタンで追加削除できます。

検索位置は除外設定とタイムスタンプ設定が可能です。



・除外設定

検索位置で指定したフォルダー内で、検索対象にたくないフォルダー名とファイル名を指定します。(ワイルドカード指定可)

除外フォルダーは、「¥」を使ってフォルダー階層を指定することができ、また「; (半角セミコロン)」で区切って複数指定できます。

例 old; MIFES8 ¥back*

←「old」というフォルダーと「MIFES8 ¥back*」というフォルダー

除外ファイルも同様に、「; (半角セミコロン)」で区切って複数指定できます。

・タイムスタンプ

ファイルの最終更新日時により、検索対象を絞り込みます。

リストから選択するか、年・月・日を指定します。

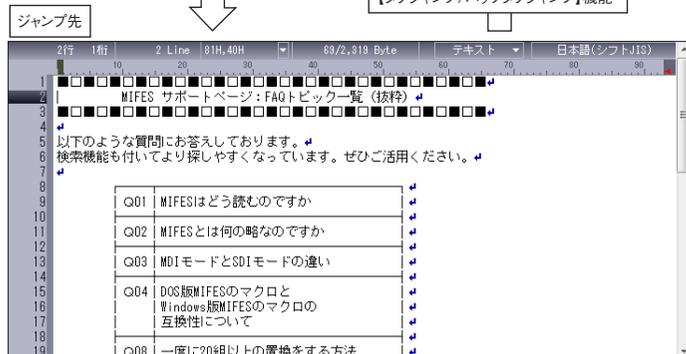
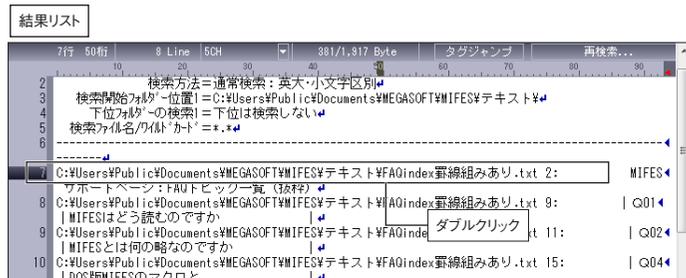
メモ

フォルダー選択時の右クリックメニューからもグローバル検索 (grep) を実行できます。

● 検索結果リストの確認

グローバル検索結果ウィンドウに出力したグローバル検索結果リストは、新規ウィンドウに「タグジャンプ書式」で出力されます。

検索直後はダブルクリックでその位置にジャンプできます。



◀メモ

グローバル検索結果ウィンドウは保存
できません。

保存後は【検索・置換・ジャンプ】-【タ
グジャンプ/バックタグジャンプ】でジャン
プできます。

◀メモ

グローバル検索結果ウィンドウへの出
力書式を変更すると、データの抽出な
どに利用できます。

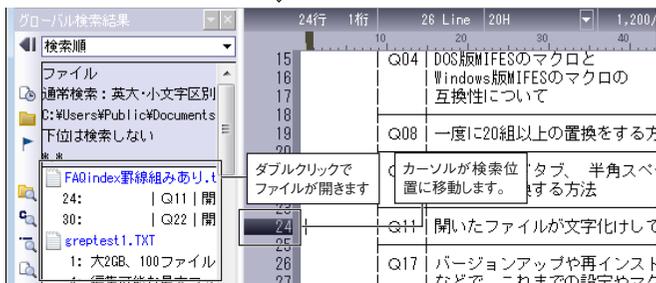
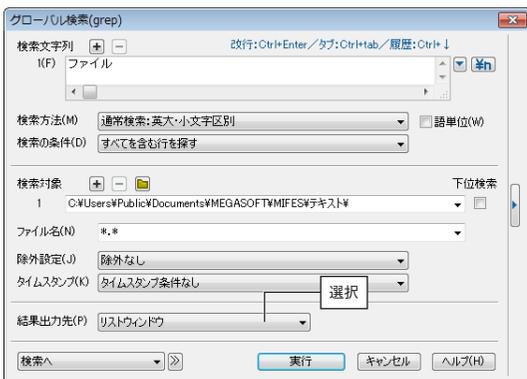
「行の抽出」⇒138ページ

検索結果からジャンプする(グローバル検索)

グローバル検索の出力先をどれにしても結果リストから該当位置へジャンプできます。

● 検索結果をリストウィンドウに出力する

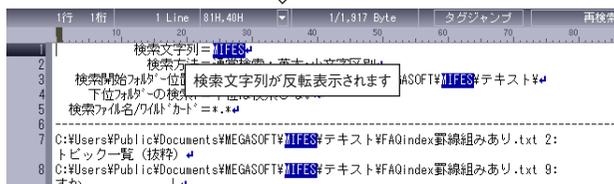
「グローバル検索」-「出力/他」で「結果の出力先」を「リストウィンドウ」にして[実行]をクリックします。



● グローバル検索結果ウィンドウで「強調表示」を使用する

検索文字列が1つのときに限り、結果ウィンドウ内のヒット文字列をすべて強調表示できます。

ガイドラインの[強調表示OFF]をクリックします。



▶ 参照

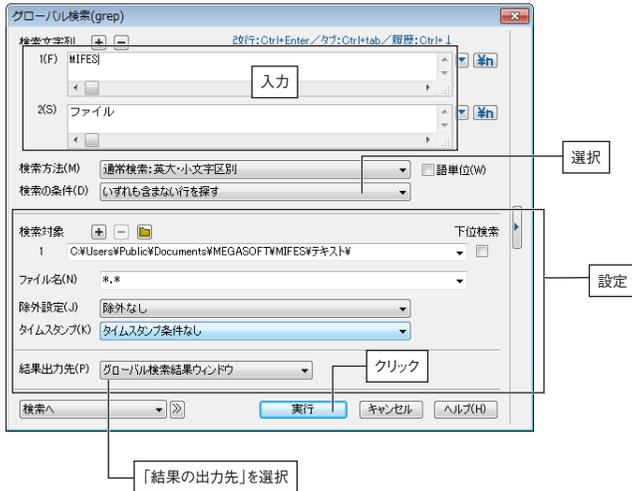
「リストウィンドウの使い方」
⇒23ページ

◀ メモ

設定パネルの「強調表示 (検索文字列1のみ)」にチェックを付けておくと、初めから強調表示されます。

指定文字列を含まない行の検索(グローバル検索)

- 1) 【検索・置換・ジャンプ】-【グローバル検索(grep)】を選択します。
- 2) 「検索の条件」から「いずれも含まない行を探す」を選択します。
その他の検索条件を設定します。



◀メモ

「検索文字列」の「1」と「2」を含み「3」を含まない条件を指定できます。
例:「大阪府を含むが吹田市を含まない」
「検索の条件」から「3を含まず他のすべてを含む行を探す」を選択します。

- 3) 「実行」をクリックするとグローバル検索結果ウィンドウに検索結果が表示されます。

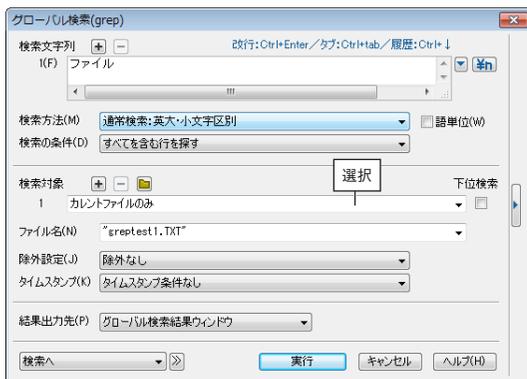


開いているファイルだけを検索する(グローバル検索)

カレントウィンドウや開いているファイルだけを検索の対象にすることができます。
「グローバル検索」→「詳細」を選択します。

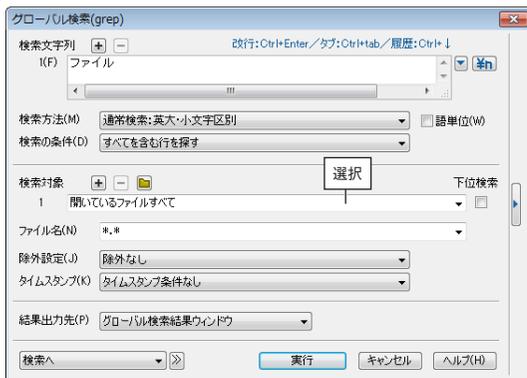
● カレントファイル内を検索する

「検索の対象」→「検索位置1」から「カレントファイルのみ」を選択します。



● 開いているファイル内を検索する

「検索の対象」→「検索位置1」から「開いているファイルすべて」を選択します。



文字列を置換する

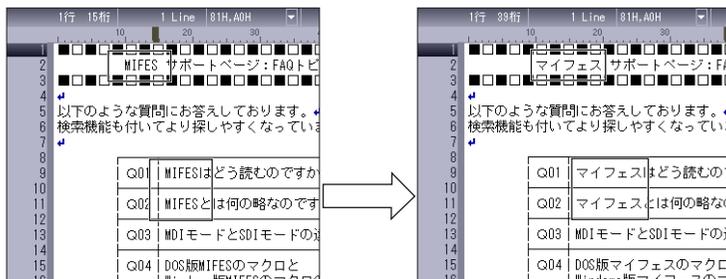
カレントウィンドウ内の指定した文字列を置換します。

【検索・置換・ジャンプ】-【置換】を選択します。



「通常検索：英大・小文字同一視」を選択

旧文字列が新文字列に置換されます。



◀ メモ

旧文字列の履歴

旧文字列の履歴は「検索」ダイアログの検索文字列の履歴と共通です。

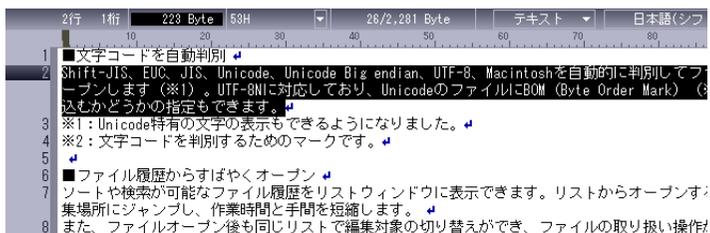
◀ メモ

1箇所ごとに確認しながら置換したいときは「確認あり」にしてください。ダイアログで1箇所ごとに置換する/しないを指定できます。「置換」ダイアログ-「確認操作」の「確認あり」をクリックします。

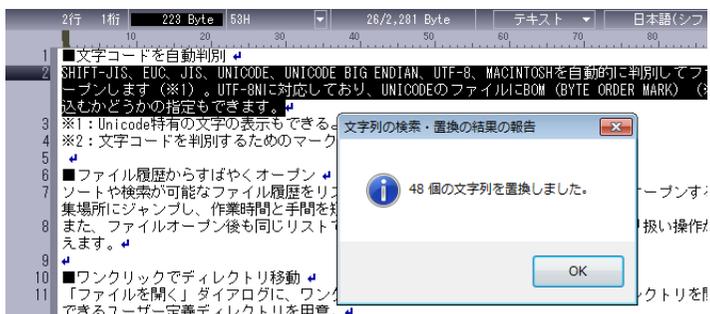


半角英字をすべて大文字にする

- 1) 大文字に変換したい範囲を選択します。
ファイル全体を変換したいときは選択していない状態にします。



- 2) 【ツール】-【文書整形】-【半角a～z→A～Z】を選択します。
選択範囲の英文字が大文字に変換されます。



メモ

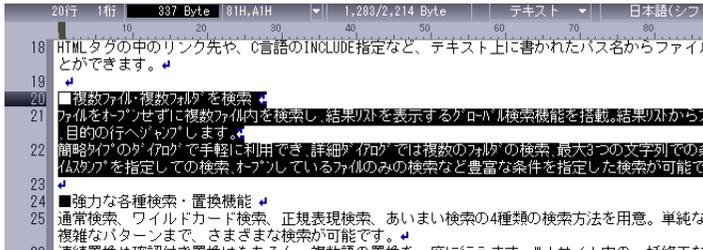
確認しながら変換もできます。
【ツール】-【文書整形】-【文書整形
ダイアログ】から実行すると「確認あり
/なし」を指定できます。

メモ

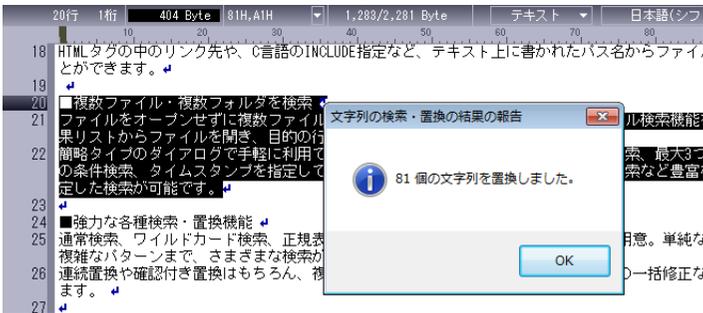
すべての英文字を小文字に変換した
いときは【ツール】-【文書整形】-【半
角A～Z→a～z】を選択します。

半角カタカナを全角に変換する

- 1) 全角に変換したい範囲を選択します。
ファイル全体を変換したいときは選択していない状態にします。



- 2) 【ツール】-【文書整形】-【半角カタカナ→全角カタカナ】を選択します。
選択部分の半角カタカナが全角に変換されます。



メモ

確認しながら変換もできます。
【ツール】-【文書整形】-【文書整形ダイアログ】から実行すると「確認あり/なし」を指定できます。

メモ

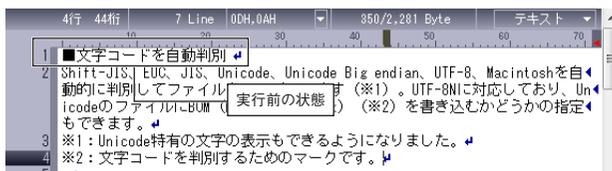
全角カタカナを半角に変換したいときは【ツール】-【文書整形】-【全角カタカナ→半角カタカナ】を選択します。

メモ

全角→半角/半角→全角変換
全角のカタカナや英数字、記号などを半角または全角に統一したいときは【ツール】-【文書整形】-【全角→半角】または【半角→全角】を選択します。

センタリング／右寄せ

カーソル行（論理行）をセンタリング/右寄せにします。センタリングまたは右寄せができるのは、折り返し桁よりも短い行で、半角スペースを挿入して位置を調節します。



● センタリングする

センタリングする行にカーソルを移動します。

連続する複数行を一度にセンタリングしたいときは、それらの行を選択します。

右クリックで表示されるメニューから【文書整形】-【センタリング】を選択します。

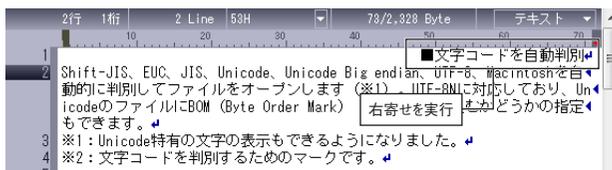


● 右寄せにする

右寄せにする行にカーソルを移動します。

連続する複数行を一度に右寄せにしたいときは、それらの行を選択します。

右クリックで表示されるメニューから【文書整形】-【右寄せ】をクリックします。



注意

折り返し桁位置までの範囲でセンタリングまたは右寄せを行いますので、折り返し桁位置を変更したときは、再度実行してください。

メモ

センタリングまたは右寄せした行を元に戻すには、左寄せにします。挿入された半角スペースが削除されます。

【ツール】-【文書整形】-【左寄せ】をクリックします。

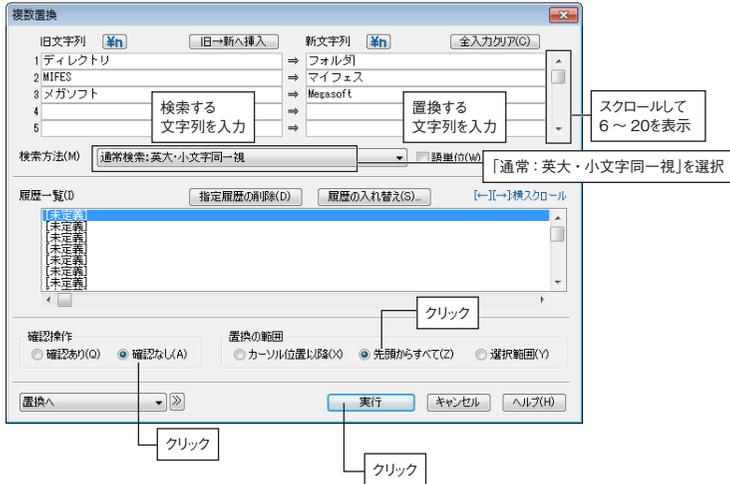
複数組の文字列を置換する

カレントウィンドウ内で指定した複数組の文字列を最大20組まで置換できます。

【検索・置換・ジャンプ】-【複数置換】を選択します。

検索する「旧文字列」と置換する「新文字列」をそれぞれ設定します。

その他の条件を設定します。



◀メモ

複数置換の履歴

複数置換を実行すると最大20組までの検索/置換文字列が履歴として残ります。[履歴の入れ替え]をクリックすると履歴から検索/置換文字列を設定できます。

◀メモ

21組以上の複数置換

21組以上の複数置換は、置換定義ファイルを使用して行えます。

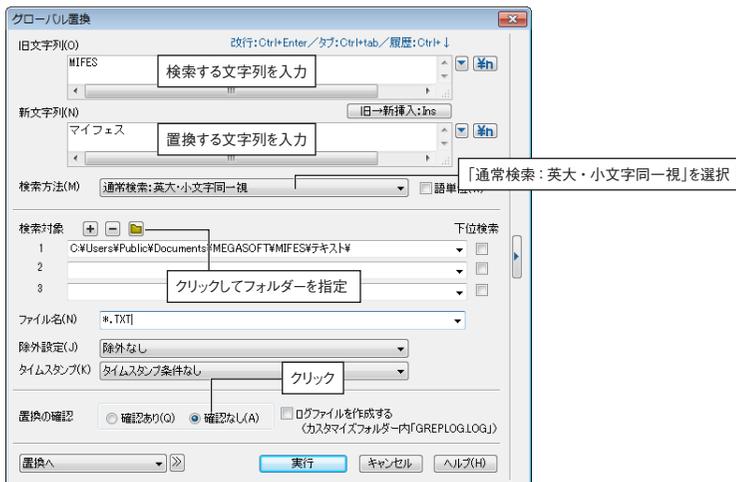
【ツール】-【文書整形】-【文書整形ダイアログ】をクリックします。

「置換定義ファイルにより複数の置換を実行する」を使用します。

複数ファイルの文字列を置換する

複数ファイル内の指定文字列を置換する機能です。

【検索・置換・ジャンプ】—【グローバル置換】を選択します。



メモ

最大20組まで置換が行える「グローバル複数置換」もあります。

【検索・置換・ジャンプ】—【グローバル複数置換】を選択します。

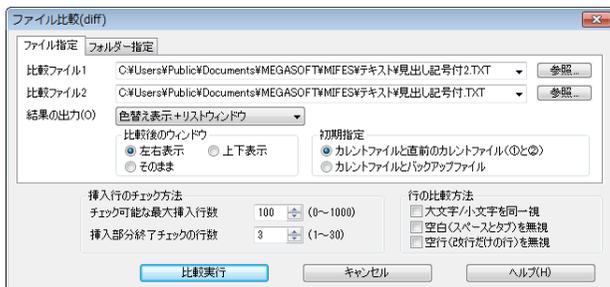
ファイル比較

2つのファイルを比較する

2つのファイルを比較し、異なる部分を表示します。カレントウィンドウとバックアップファイルや、カレントウィンドウと直前のカレントウィンドウを比較することができます。

● 2つのファイルを比較し、結果を表示する

- 1) 比較する2つのファイルを開きます。
- 2) 【ツール】-【ファイルの比較】-【ファイル比較 (diff)】をクリックします。「ファイル指定」タブの設定項目は以下のとおりです。
 - 初期設定
「カレントファイルと直前のカレントファイル (①と②)」をクリックします。
 - 比較ファイル1
カレントウィンドウのファイルが設定されます。
 - 比較ファイル2
直前のカレントウィンドウのファイルが設定されます。
 - 結果の出力
結果の出力方法を設定します。「色替え表示+リストウィンドウ」を選択します。



- 3) 【比較実行】をクリックすると比較結果が表示されます。



◀メモ

ウィンドウ①はカレントウィンドウ、ウィンドウ②は直前のカレントウィンドウです。

◀メモ

バックアップファイルと比較する
編集中のカレントウィンドウと前回の保存時に作成されたバックアップファイルを比較できます。「ファイル指定」タブ「初期設定」の「カレントファイルとバックアップファイル」をクリックします。

◀メモ

ウィンドウとリストウィンドウには共通のマークがつきます。

「!」マーク

2つのファイルの相違行

「+」マーク

カレントウィンドウ側において、相手ファイルにない行

「-」マーク

相手にあってカレントウィンドウ側でない行の位置

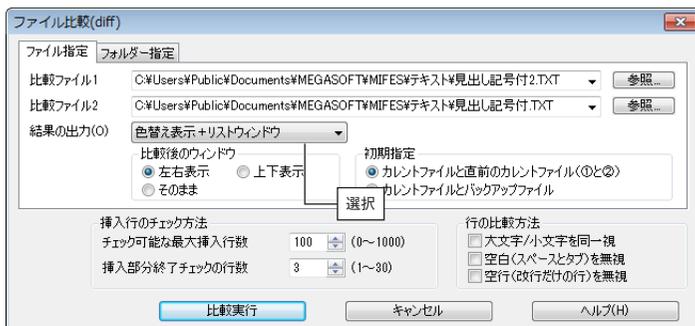
● 比較マークへジャンプする

【ツール】-【ファイルの比較】-【↓方向の比較マークへ連動ジャンプ】または【↑方向の比較マークへ連動ジャンプ】を選択するとカーソル位置から前後の比較マークへジャンプします。



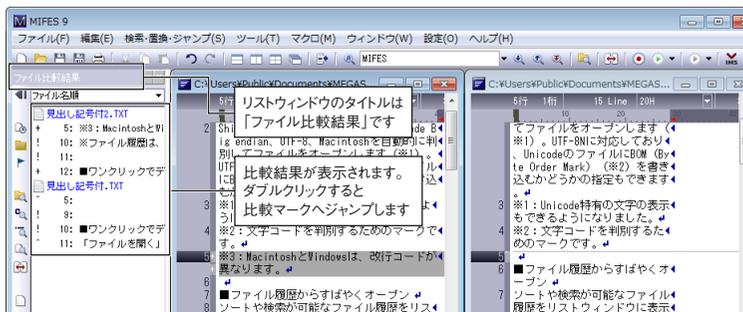
比較結果から連動ジャンプ

ファイル比較の結果は、リストウィンドウに出力できます。
「結果の出力」から「比較マーク+リストウィンドウ」を選択します。



● リストウィンドウから比較マークへ連動ジャンプする

「リストウィンドウ」-「ファイル比較結果」に表示された項目をダブルクリックするとジャンプします。



● スクロールしながら比較

【ツール】-【ファイルの比較】-【①と②で両画面↓スクロール比較】または【①と②で両画面↑スクロール比較】を選択するとカレントウィンドウと直前のカレントウィンドウが同時にスクロールし、比較結果を確認できます。

①と②のウィンドウで、比較を開始したい位置にカーソルを移動してから実行してください。

▶ 参照

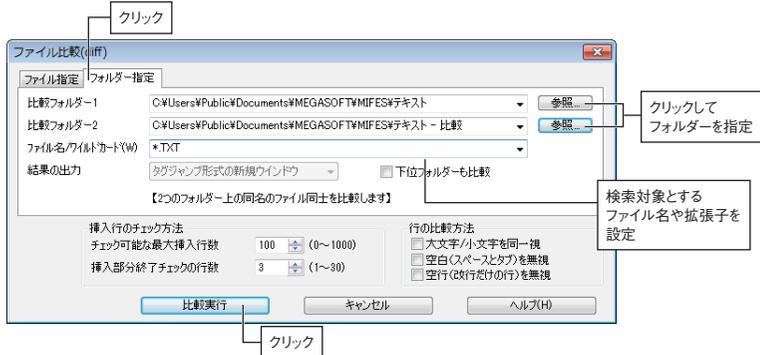
「2つのファイルを同時にスクロールする」⇒34ページ

2つのフォルダー内を一括比較する

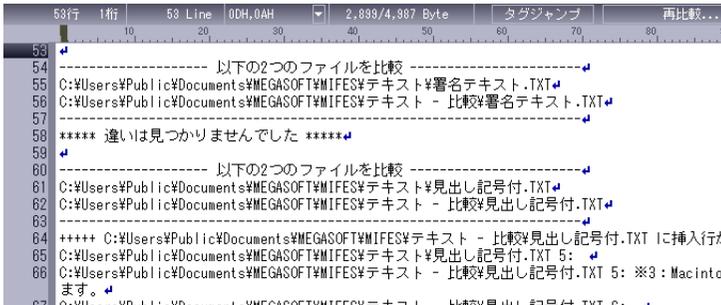
2つのフォルダー内の同じ名前のファイルを比較し、結果をリストに出力します。

【ツール】-【ファイルの比較】-【ファイル比較 (diff)】を選択、「フォルダー指定」タブをクリックします。

項目を設定して「比較実行」をクリックします。



「ファイル比較結果ウィンドウ」が表示されます。



結果リストをダブルクリックするとファイルが開き、該当位置にジャンプします。

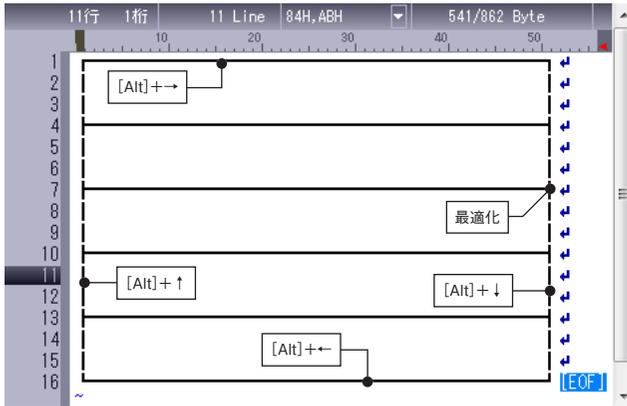
罫線を描く

罫線文字を入力して線や表を作成できます。
表の中に文字を入力することもできます。

● 罫線を入力する

罫線を描く位置にカーソルを移動します。

[Alt] キーを押しながら [→] [←] [↑] [↓] キーで入力します。



◀ メモ

罫線の最適化

コーナーや交点は、罫線の入力後に調節できます。

【ツール】-【罫線】-【罫線交点の最適化】をクリックします。

◀ メモ

フリーカーソルモードにすることで、改行位置より右にカーソルを移動でき、罫線を描くのに便利です。

【設定】-【環境設定】-【動作】タブの「カレントウィンドウの動作」-「フリーカーソルモード」にチェックを入れます。

◀ メモ

罫線文字は全角で入力されますので、他の文字と同様に編集できます。

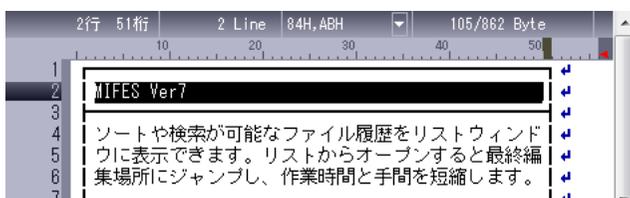
罫線内を編集する

罫線内の文字列を直接編集すると罫線の位置が変わりますが、「罫線内を箱型選択」と「箱型編集モード」を使用することで罫線の形状を変えずに文字列を編集できます。

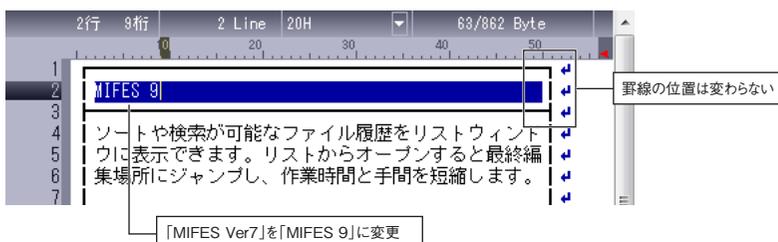
通常の文字列の編集を行うと罫線の位置が変わります。



- 1) 罫線内にカーソルを移動し【編集】-【箱型】-【罫線内を箱型選択】を選択し、【編集】-【箱型】-【箱型編集モードに入る】を選択します。



- 2) 文字列を編集します。このとき罫線の位置は変わりません。



◀メモ

箱型選択モードは、右クリックメニューの【箱型選択モードを終了】で終了できます。

箱型編集

文字列を箱型に選択し、内容を編集できます。

● 箱型に選択・編集する

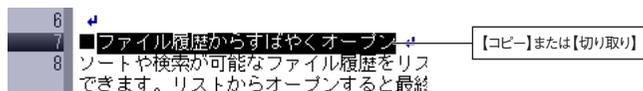
- 1) 箱型選択を開始する位置にカーソルを移動します。
【編集】－【箱型】－【箱型選択の開始/中止】を選択します。
- 2) 箱型選択を終了する位置にカーソルを移動します。
【編集】－【箱型】－【箱型編集モードに入る】を選択します。



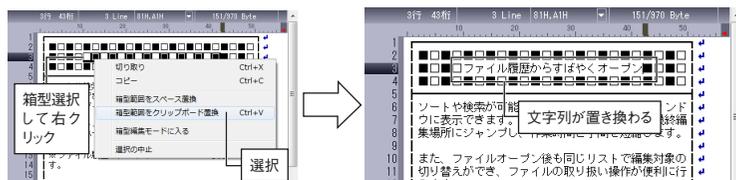
● 箱型範囲をクリップボード置換

置換する文字列を選択します。

【編集】－【切り取り】または【コピー】を選択し文字列をクリップボードにコピーします。



箱型範囲を選択します。右クリックで表示されるメニューから【箱型範囲をクリップボード置換】を選択します。



● 箱型範囲をスペース置換

箱型範囲を選択します。右クリックで表示されるメニューから【箱型範囲をスペース置換】を選択します。

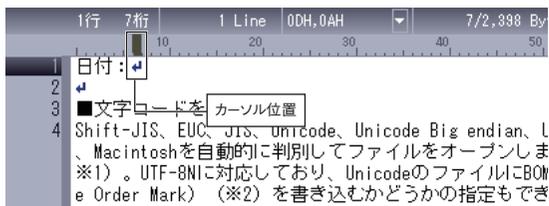


◀メモ
箱型選択モードは右クリックメニューの【箱型選択モードを解除】で解除します。

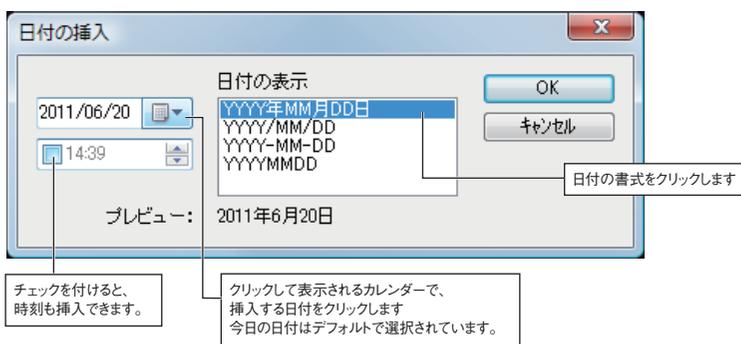
▶参照
「箱型の範囲をコピーする」
⇒56ページ

今日の日付を入力する

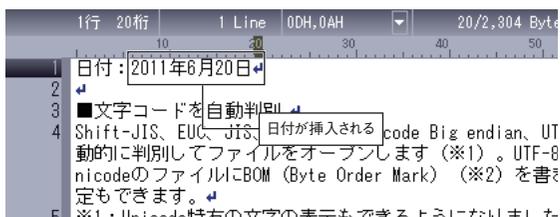
- 1) 日付を挿入する位置にカーソルを移動します。



- 2) [編集]-[日付の挿入]を選択します。



- 3) [OK]をクリックすると日付が挿入されます。



メモ

今日の日付はWindowsで設定されている日付が挿入されます。

メモ

印刷時にヘッダ/フッタに日付を挿入できます。

メモ

日付は文字列で挿入されますので、編集することもできます。

入力文字数の確認

カレントウィンドウの入力文字数を確認します。

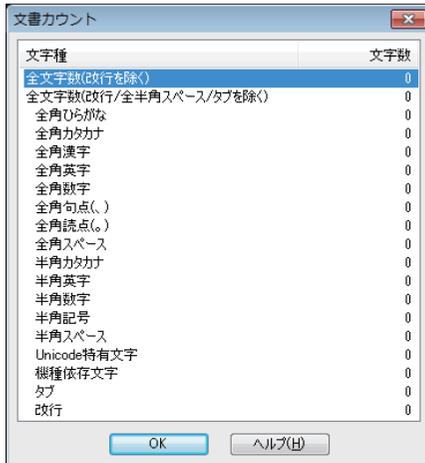
● ガイドラインで確認する

カレントウィンドウ全体の文字数(バイト数)はガイドラインで確認できます。
また、範囲選択中は、選択文字数(バイト数)もガイドラインで確認できます。



● 詳細な情報を確認する

文字数(バイト数ではない)をカウントする機能があります。
範囲選択中は選択部分の文字数を、選択していないときはカレントウィンドウ全体の文字数をカウントして表示します。
【ツール】-【文書カウント】を選択します。



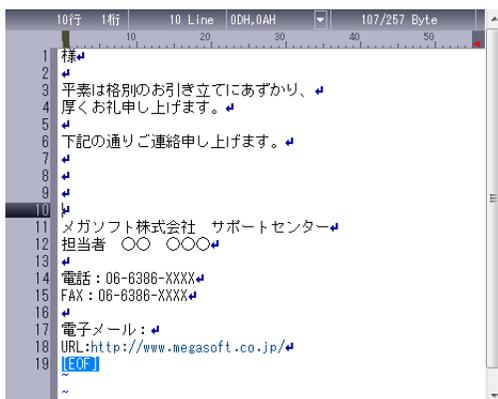
◀メモ

結果ウィンドウの内容は、選択してコピー & ペーストできます。

定型文書を作成する

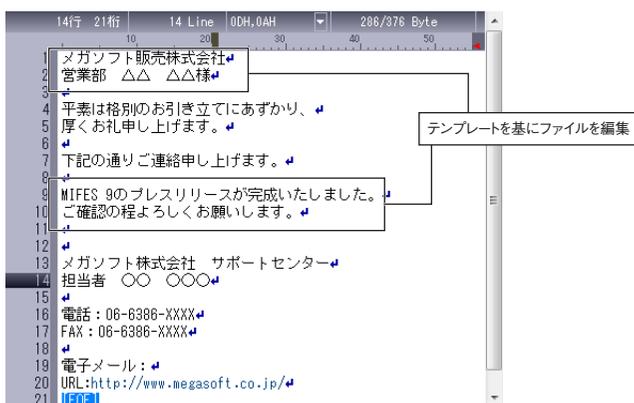
決まった書式の定型文書を作成する場合は、テンプレートとなるファイルを作成しておき、カレントウィンドウに挿入します。この方法を使用することでテンプレートファイルに変更を加えてしまうといった問題が起こりません。

- 1) 定型文書を作成し、保存します。



- 2) 【ファイル】-【新規作成】を選択して新規ファイルを作成します。

- 3) 【ファイル】-【ファイルの挿入】を選択します。
「挿入するファイル名の指定」で挿入する定型文書のファイルを選択して【挿入】をクリックします。



▶ 参照

「定型文書を登録／挿入する」
⇒50ページ

◀ メモ

定型文書は、用途に合わせて複数のテンプレートファイルを用意しておく便利です。

他のアプリを実行する

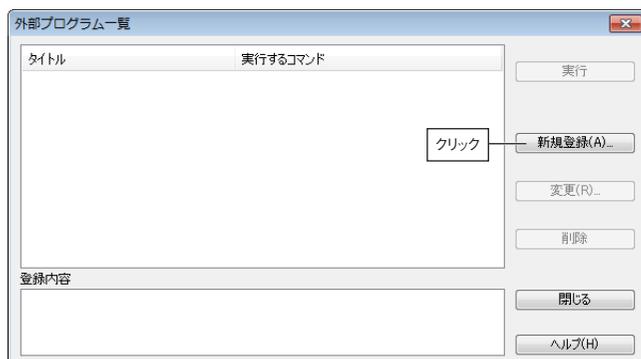
他のプログラムに渡す

MIFESから他のプログラムやWindows (DOS) コマンドを呼び出して実行できます。実行時にカレントファイル名や拡張子による制限などオプションを指定することもできます。

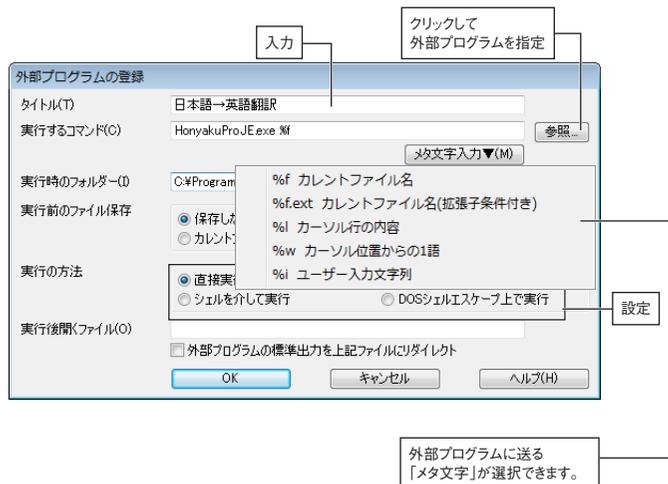
● 外部プログラムの登録

設定する項目は以下のとおりです。

- 1) 【ツール】-【外部プログラム】-【外部プログラム一覧】を選択します。
【新規登録】をクリックします。



- 2) 外部プログラムの指定や呼び出すときに送るメタ文字などを設定します。



DOSコマンドを実行する

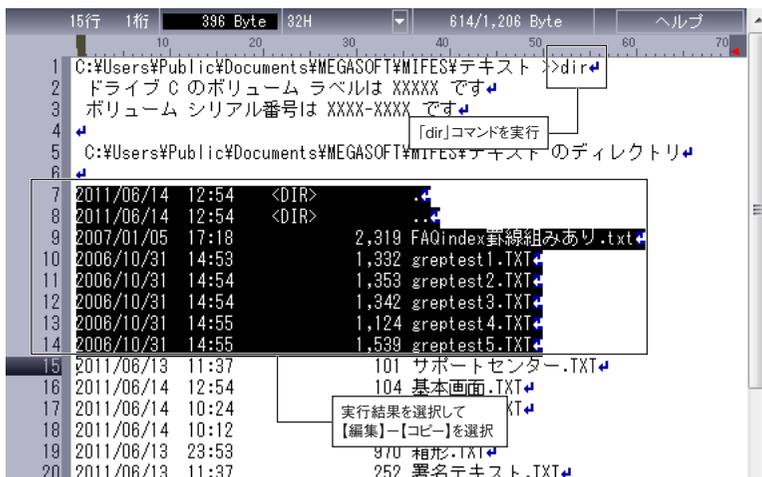
MIFESからDOSコマンドを実行できます。

WindowsのコンソールやDOS窓とは異なり、実行コマンドをコピー&ペーストで再実行したり、実行結果を他のウィンドウにコピー&ペーストできます。スクロールしたりファイルとして保存することも可能です。

● DOSシェルエスケープウィンドウを開く

【ツール】-【DOSシェルエスケープ】を選択します。

DOSシェルエスケープウィンドウが開き、コマンドプロンプトが表示されます。



▶ ヘルプ参照

以下の項目についてはヘルプをご覧ください。
 ・実行できないDOSコマンドについて
 ・DOSシェルがハングアップした場合



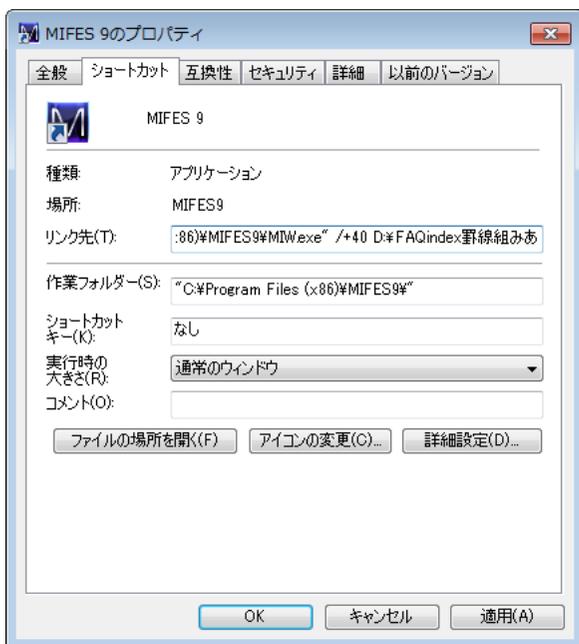
● DOSシェルエスケープウィンドウを閉じる

【ファイル】-【閉じる】を選択します。

ファイルとカーソル位置を指定して起動する

起動時オプションを使用してMIFESの起動時に自動的に指定したファイルを開き、特定の行へカーソルを移動できます。

- 1) ショートカットアイコンのプロパティを開きます。
- 2) 「リンク先」に「/+行番号 ファイル名」を設定します。
 例えば「Dドライブ」のファイル「FAQindex罫線組あり.txt」を開いて行番号「40」にカーソルを移動する場合、以下の下線の部分を追加します。
 "C:¥Program Files¥MIFES9¥MIW.EXE" /+40 D:¥FAQindex罫線組あり.txt



◀ メモ

ここではショートカットアイコンで指定する方法で説明していますが、WindowsのDOS窓で直接入力したり、BATファイルで実行することも可能です。

◀ メモ

半角スペースを含むファイル名(パス名)を指定する場合は、ファイル名(パス名)を" "で囲んでください。

起動時オプションでできること

起動時オプションを利用して、他のプログラムやBATファイルからMIFESを起動するときなどに開くファイルを指定したり、MIFESの機能を指定して実行したりできます。

● カスタマイズファイルの指定 [/I]

- 起動時にカスタマイズフォルダー上の「MIW.INI」以外のカスタマイズファイルを読み込むことができます。
- 設定の異なる複数のMIFESを使い分けることができます。
- カスタマイズファイル名を省略して「/I」を指定した場合は、カスタマイズフォルダー上の「MIW.INI」が読み込まれます。
- カスタマイズファイル名に半角スペースが含まれる場合には、指定するファイル名を半角" (ダブルクォーツ) で囲って指定してください。

例 MIW.EXE /I"DOS版 MIFES.INI"

- MIFESの起動後に、カスタマイズファイルを読み込むことができます。

【カスタマイズファイルの読み書き】

- ※「カスタマイズファイルの読み書き」機能の中で指定した「現在のカスタマイズファイル」よりも、このオプションでの指定の方が優先されます。

● グローバル検索の実行 [/G]

起動直後にグローバル検索を実行します。

例 MIW.EXE /G

検索位置フォルダーを最大5つまで指定できます。

例 MIW.EXE /G"フォルダー名1"+"フォルダー名2"

- 起動時に開くファイルを指定しても無視されます。

● 印刷の実行 [/T] [/TT]

起動直後に印刷を実行します。

- 起動時に「サンプル.txt」ファイルを開いて印刷します。

例 MIW.EXE /T サンプル.txt

- 起動時に「サンプル.txt」ファイルを開いて印刷し、閉じます。

例 MIW.EXE /TT サンプル.txt

● マクロコマンドの実行 [/@]

- 起動直後に実行するマクロコマンド名を/@の直後に記述します。
- このオプションを指定した場合は、/G、/E、/T、/Oオプションは無視されます。

● 読み取り専用オプション[/R][/R0][/R1]

指定したファイルを読み取り専用で開くかどうかを指定します。

/R：読み取り専用で開きます。編集モードと文字コード/プリプロセッサは、起動時オプション(/Bと/P)での指定がない限り、ファイル履歴情報どおりに開きます。

/R1：読み取り専用で開きます。編集モードと文字コード/プリプロセッサは、起動時オプション(/Bと/P)での指定がない限り、「自動判定」が設定されたものとして開きます。

/R0：編集用に開きます。編集モードと文字コード/プリプロセッサは、起動時オプション(/Bと/P)での指定がない限り、「自動判定」が設定されたものとして開きます。

● 2つのファイルを比較する [/D]

- 指定した2つのファイルを対象に、「ファイル比較(diff)」を実行します。
- /D とパス名の間には必ず1つ以上のスペースを入れてください。
- 例：MIW.EXE /D file1.txt file2.txt

▶ 参照

「カスタマイズファイルについて」
⇒109ページ

注意

「/I」とカスタマイズファイル名の間には半角スペースは入力しないでください。

◀ メモ

キーボードマクロは指定できません。マクロコマンドに変換して「/@」オプションを使用します。

▶ 参照

「キーボードマクロからソースコードを取り出す」⇒118ページ

▶ ヘルプ参照

その他の起動時オプションについてはヘルプをご覧ください。

Windows上の右クリックメニュー

デスクトップやエクスプローラー上での右クリックメニューには、以下の3つの機能が追加されます。

- MIFESで開く / MIFESのバイナリモードで開く
ファイルを1つ以上選択しているときに、右クリックメニューに表示されます。
実行すると、選択していたファイルがすべて開きます。
- MIFESでこのフォルダーをgrep
フォルダーを1つ以上選択しているときに、右クリックメニューに表示されます。
実行すると、選択していたフォルダーが検索位置にセットされたグローバル検索 (grep) ダイアログが表示されます。

第4章

設定とカスタマイズ

MIFESをより使いやすくするためのカスタマイズ機能を紹介します。

表示の設定

画面の背景を変える	90
Tabやスペース類を表示する	91
カーソルの表示を変える	92
折り返し位置を変更する	93
変更行の色を変えて表示する	94

フォントの設定

文字列の色を変えて表示する	95
フォントを変える	96
外国語のフォントを指定する	97

ファイルのバックアップ

バックアップファイルを作成する	98
オートセーブする	99
ファイルの保護	100

機能実行の割り当て

よく使う機能をキー操作に割り当てる	101
メニューに機能を追加する	103
右クリックメニューとポップアップメニュー	104
ツールバーのカスタマイズ	105

設定の一括変更

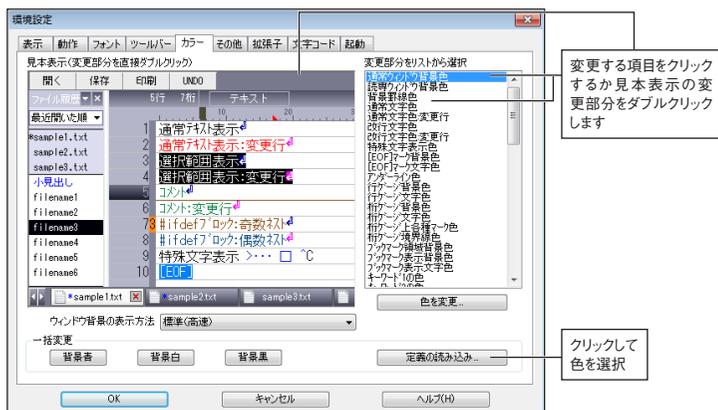
設定の保存と読み込み	106
ログインユーザーごとに設定を切り替える	107
履歴情報を削除する	108
カスタマイズファイルについて	109

画面の背景を変える

背景色はデフォルトの紺のほか、白セット、黒セットがあります。また、背景色や背景罫線の色を個別に設定することができます。

● 背景色・背景罫線色を設定する

【設定】-【環境設定】を選択し「カラー」タブをクリックします。



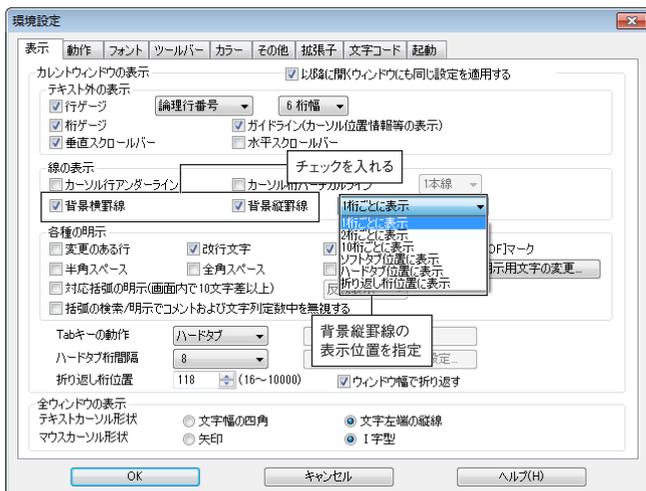
◀メモ

「ウィンドウ背景の表示方法」で背景をグラデーションにしたり、bmpの画像をタイル状に敷き詰めたりできます。

● 背景罫線を表示する

【設定】-【環境設定】を選択し「表示」タブをクリックします。

「カレントウィンドウの表示」-「線の表示」の「背景横罫線」、「背景縦罫線」にチェックを入れます。



◀メモ

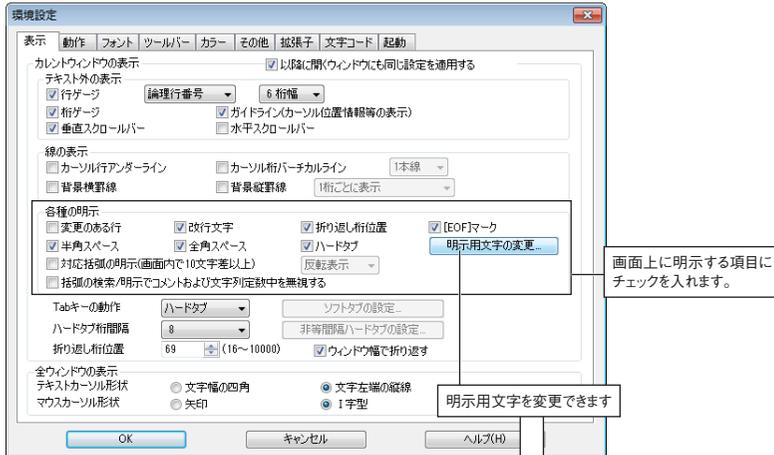
原稿用紙として使用するときは「背景横罫線」「背景縦罫線」にチェックを入れ、折り返し桁位置を指定して「ウィンドウ幅に自動調整」のチェックをはずします。



Tabやスペース類を表示する

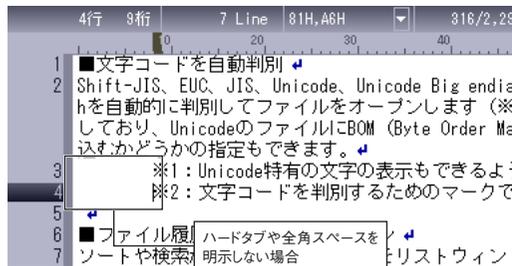
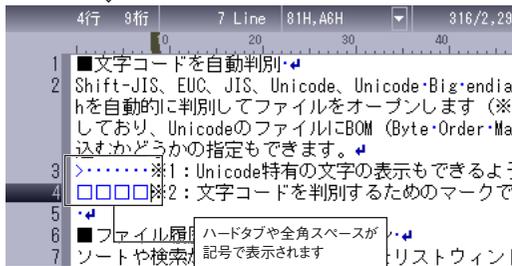
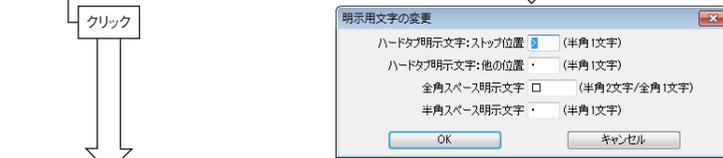
Tabコードやスペース類、改行文字など特殊文字を画面上に明示できます。

【設定】-【環境設定】を選択し「表示」タブをクリックします。



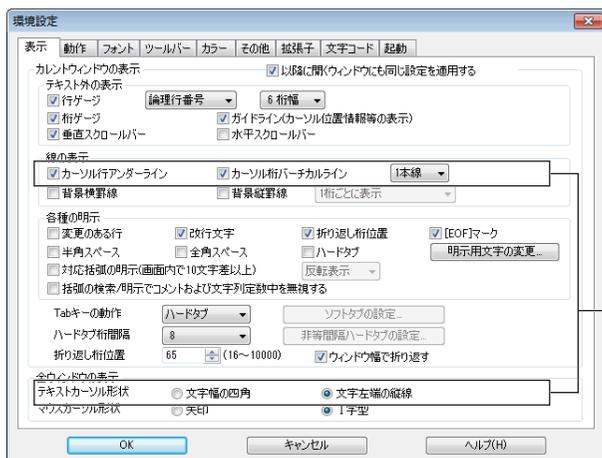
◀ メモ

ソフトタブのストップ位置は、「ソフトタブの設定」ボタンから設定します。



カーソルの表示を変える

【設定】-【環境設定】を選択し「表示」タブで変更できます。すべてのウィンドウで共通するカーソルの他に、カーソル行にアンダーラインを表示したりカーソル位置に縦ラインを表示できます。

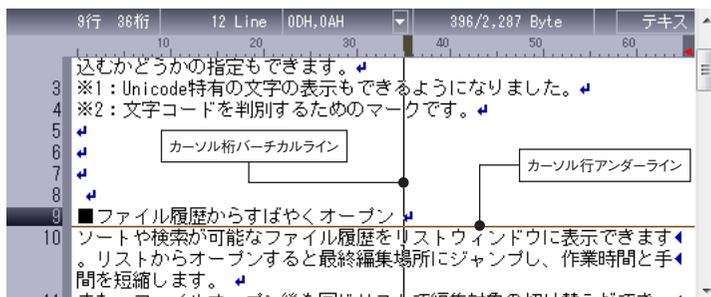


カーソルの形状やカーソル位置の線の表示を設定します。

◀メモ

全文字数に対するカーソル位置のバイト数、文字コードはガイドラインに表示されません。

● カーソル行アンダーライン・カーソル桁バーチカルラインの表示



● テキストカーソル形状の変更



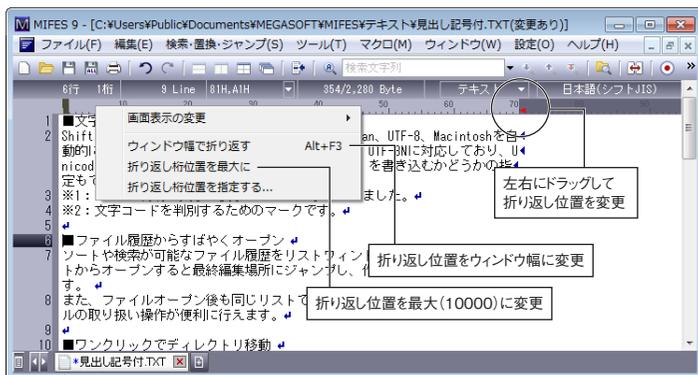
折り返し位置を変更する

折り返し位置をウィンドウの幅にあわせたり、任意の桁数に設定できます。

● ガイドラインから変更する

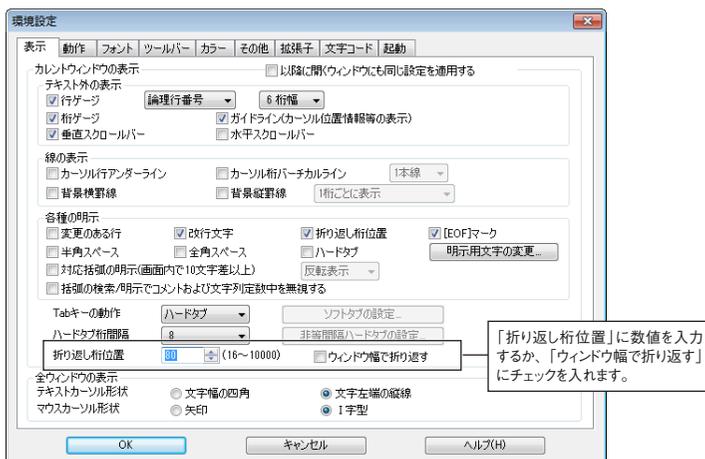
折り返し位置は、ガイドラインの「◀」をドラッグして変更できます。

また、ガイドラインを右クリックして表示されるメニューから【ウィンドウ幅で折り返す】
【折り返し位置を最大に】が選択できます。



● 環境設定から変更する

【設定】—【環境設定】を選択し「表示」タブをクリックします。

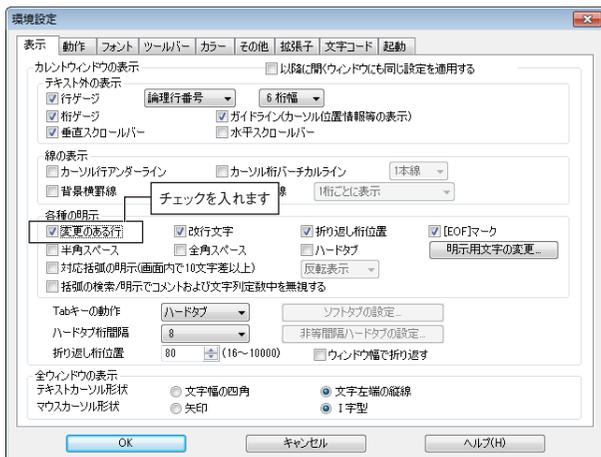


◀ メモ

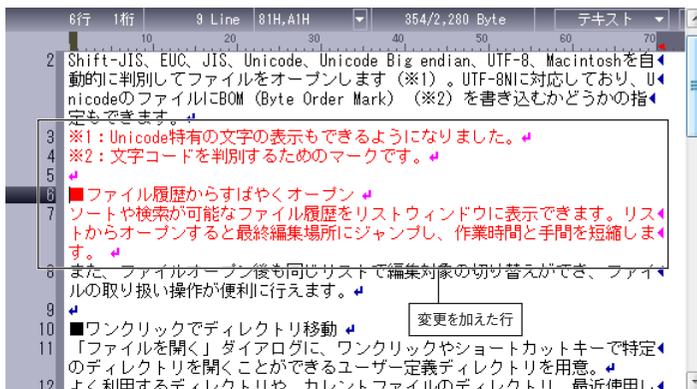
ガイドラインを右クリックすると【画面表示の変更】—【環境設定(表示)】を選択できます。

変更行の色を変えて表示する

【設定】-【環境設定】を選択し「表示」タブをクリックします。
「各種の明示」の「変更のある行」にチェックを入れます。



変更を加えた行がカラーで明示されます。



メモ

変更行を明示する色を変更できます。
【設定】-【環境設定】を選択し「カラー」タブをクリックします。

参照

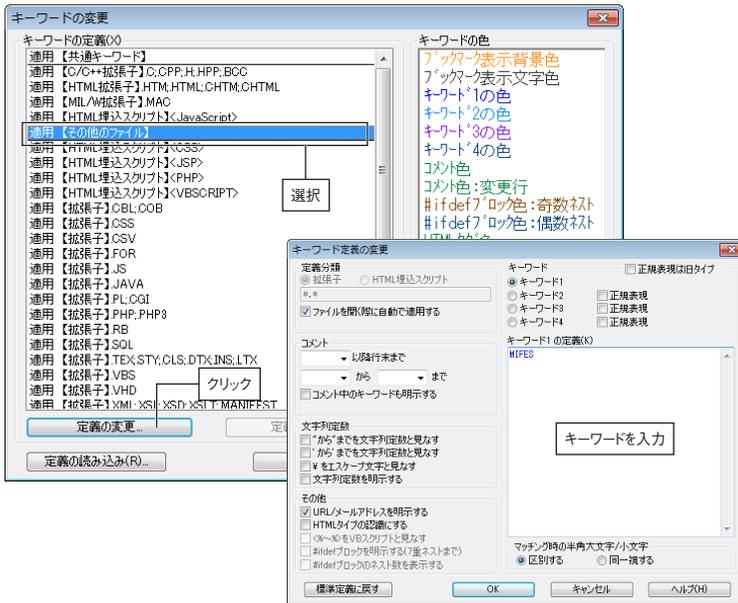
【設定】-【環境設定】-【動作】タブの「保存時にUNDOバッファをクリア」にチェックを入れると保存操作を行ったときに変更行の色変更がクリアされます。
「ファイルを開き直す」⇒37ページ

文字列の色を変えて表示する

特定の文字列をキーワードに設定し、カラーで明示します。

● キーワードの定義

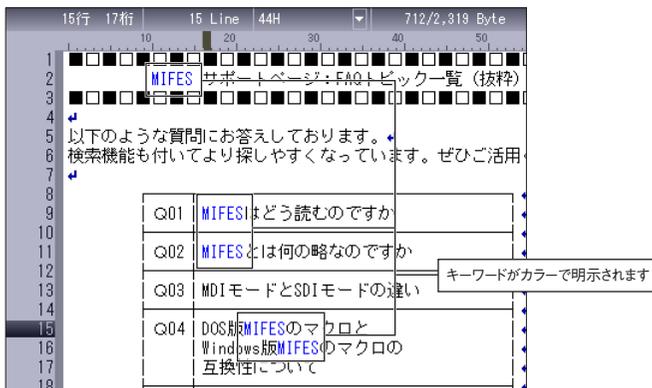
- 1) [設定]ー[キーワードの変更]を選択します。
[共通キーワード]をクリックして[定義の変更]をクリックします。



◀メモ

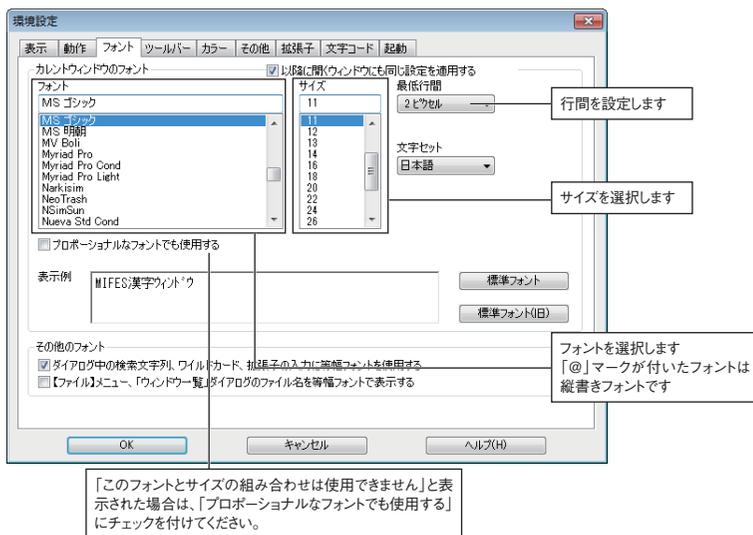
- ・正規表現を使用したいときは、「正規表現」にチェックを付けてください。
- ・MIFES8までの旧タイプの正規表現を使用したいときは、「正規表現は旧タイプ」にチェックを付けてください。

- 2) キーワードを入力して[OK]をクリックします。
「キーワードの追加・変更」の[閉じる]をクリックするとキーワードがカラーで明示されます。



フォントを変える

【設定】-【環境設定】を選択し「フォント」タブをクリックします。
ウインドウ内のフォントやサイズなどを変更します。



メモ

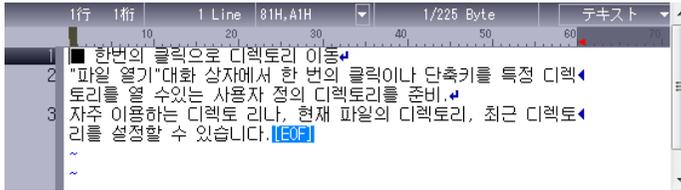
印刷時のフォントは「印刷」ダイアログで設定できます。

メモ

メニューバーの文字は、Windowsの設定に依存します。
サイズやフォントを変更したいときは、Windowsで設定を変更してください。

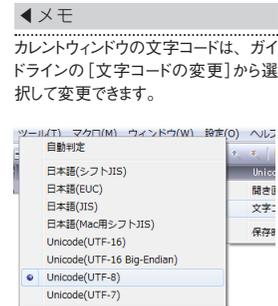
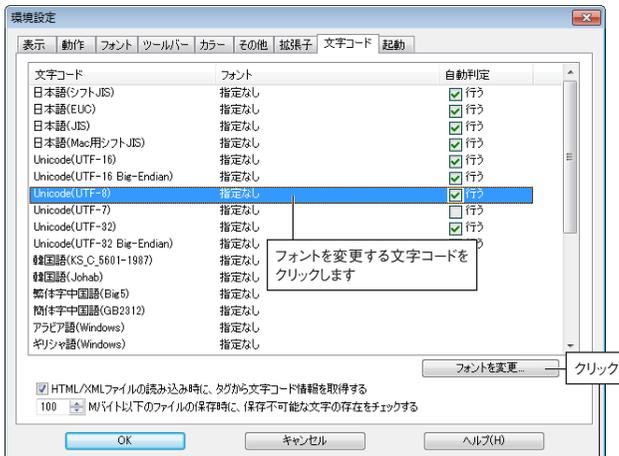
外国語のフォントを指定する

韓国語や中国語など、外国語のファイルを開くときに、その外国語(文字コード)にあわせたフォントを指定することもできます。



● フォントを変更する

【設定】-【環境設定】を選択し「文字コード」タブをクリックします。



カレントウィンドウの文字コードは、ガイドラインの「文字コードの変更」から選択して変更できます。

バックアップファイルを作成する

保存時にバックアップファイルを作成・更新します。
保存前の状態に戻すときや、変更部分を再確認する場合などに利用できます。

【設定】-【環境設定】を選択し「その他」タブをクリックします。
設定項目は以下のとおりです。

作成方法

○ リネーム

バックアップファイルを作成した後に、新たにファイルを作成します。
ファイルサイズに関係なく高速でバックアップファイルを作成します。
※通常はこちらを選択します。

○ コピー

元ファイルをコピーしてバックアップファイルを作成し、編集前の元のファイルに上書きします。
元のファイルが大きいとバックアップファイルの作成に時間がかかります。

拡張子

○ 変更

拡張子をバックアップファイルの拡張子に変更します。(AAA.TXT→AAA.BAK)

○ 追加

バックアップファイルの拡張子を追加します。(AAA.TXT→AAA.TXT.BAK)

多重度

バックアップファイルの数を設定します。1～10重まで設定でき、編集ファイルの保存時に、最も古いバックアップファイルに最も大きい番号が付くように拡張子を変更して、バックアップファイルを作成します。

作成位置

バックアップファイル保存するフォルダーを指定します。

○ 編集ファイルと同じフォルダー

編集ファイルと同じフォルダーにバックアップファイルを作成します。

○ 特定のフォルダーを指定

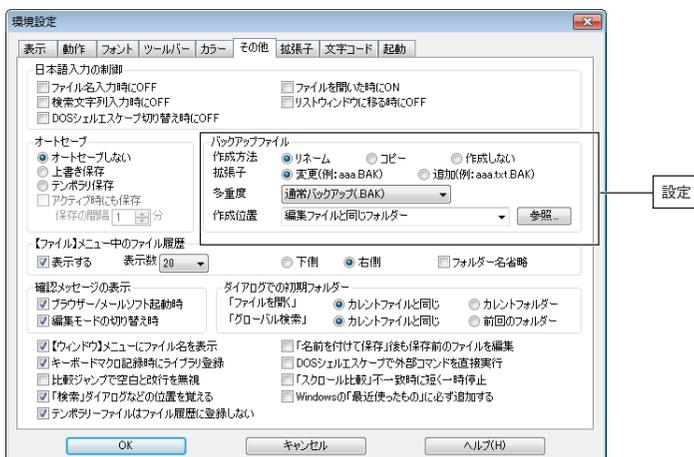
バックアップファイルを作成するフォルダーを指定します。

◀メモ

編集中のカレントファイルとバックアップファイルは「ファイル比較」で変更部分を比較できます。

注意

NTFSファイルシステム上で、作成方法を「リネーム」に設定するときは注意が必要です。
詳細はヘルプを参照してください。



注意

作成位置に「特定のフォルダー」を指定する場合、作成方法を「リネーム」に設定しているときや異なるフォルダー上に同名のファイルが存在するときは注意が必要です。
詳細はヘルプを参照してください。

オートセーブする

オートセーブ機能は、一定時間ごとに開いているすべてのファイルをチェックし、変更があるものは自動的にファイルに保存する機能です。

オートセーブを行うことで、システムのクラッシュなどでファイルの編集内容をすべてなくすることがなくなり、再編集の作業を最小限に抑えることができます。

【設定】-【環境設定】を選択し「その他」タブをクリックします。

設定項目は以下のとおりです。

○ オートセーブしない

オートセーブを行いません。

○ 上書き保存

【ファイル】-【上書き保存】と同様の処理でオートセーブを実行します。

編集ファイルを上書き保存し、バックアップファイルを作成します。

○ テンポラリ保存

オートセーブのために復旧用ファイルへの保存を行います。

正常に編集が終了した時には、オートセーブで作成した復旧用ファイルは自動的に削除します。

○ アクティブ時にも保存

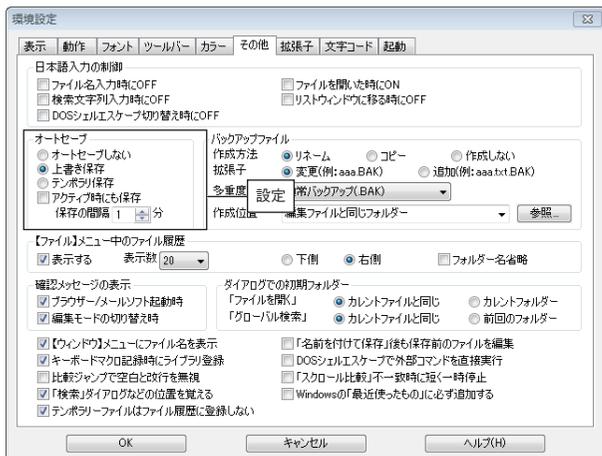
MIFESがアクティブな時（ユーザーがMIFES上で操作を行っている時）にも、ファイルへの保存処理を行います。

○ 保存の間隔

オートセーブする間隔を設定します。

注意

- ・編集中のファイルのサイズが20Mバイト以上のファイルについては、オートセーブを実行しません。
- ・特定のポストプロセッサが設定されているファイルについては、オートセーブを実行しないものがあります。詳細はヘルプを参照してください。



ファイルの保護

【設定】-【環境設定】の「起動」タブで設定します。
設定項目は以下のとおりです。

● 起動/終了時の設定

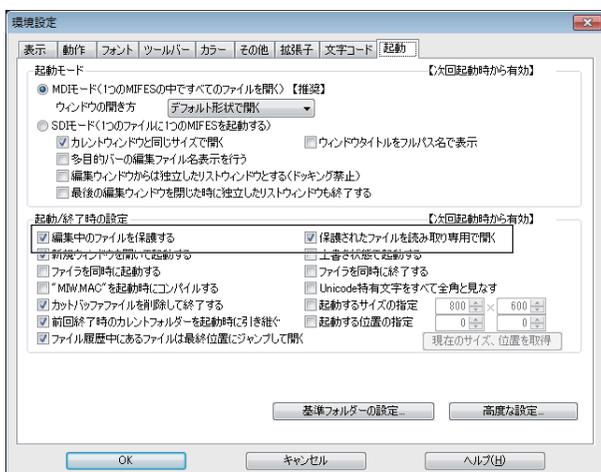
○ 編集中のファイルを保護する

編集中のファイルが他のアプリケーションやネットワーク上の他のユーザーによって書き換えられないように保護します。この設定を行うと他のアプリケーションでは読み込みだけが行えるようになります。

また、新規ファイルをファイル名とフォルダーを指定して作成した場合、フォルダー内には、指定したファイル名を他のアプリケーションで作成できなくなります。

○ 保護されたファイルを読み取り専用で開く

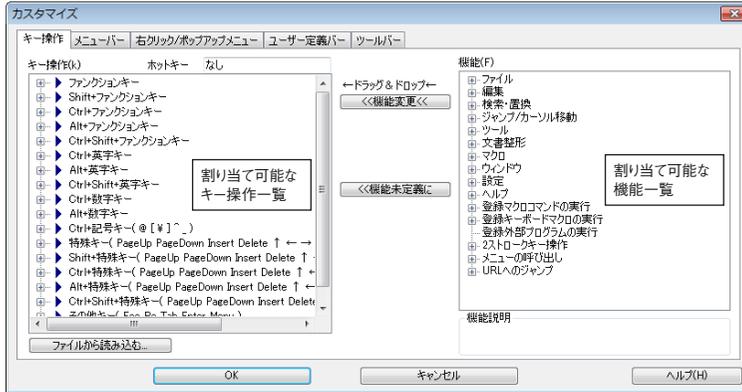
他のアプリケーションで開いているファイルを読み取り専用で開きます。



よく使う機能をキー操作に割り当てる

よく使う機能などをキー操作に割り当てることができます。
「Alt+F」キーに【文字列の検索】を割り当てる方法で説明します。

- 1) 【設定】-【キー操作のカスタマイズ】を選択します。

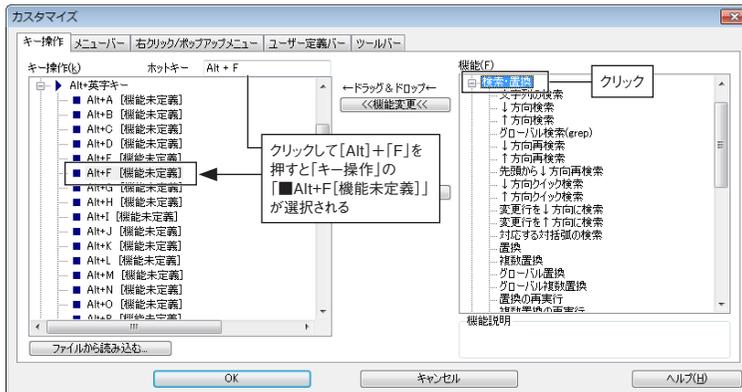


▶ 参照

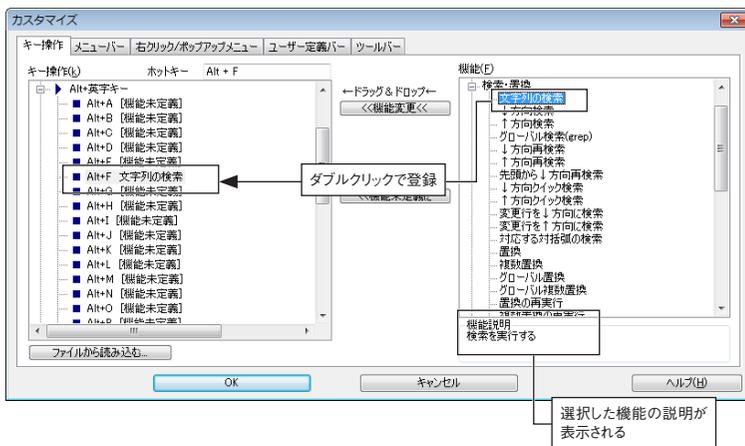
ファイルから定義を読み込むことができます。
【ファイルから読み込む】をクリックしてINIファイルを指定します。
「設定の保存と読み込み」⇒106ページ

- 2) 「キー操作」の「ホットキー」欄をクリックして[Alt]+[F]を押します。

- 3) 「機能」の「検索・置換」右の田をクリックします。



- 4) 「機能」の「文字列の検索」をダブルクリックします。
「Alt+F」に「文字列の検索」が登録されます。



第4章

◀メモ

続けて登録するときは「ドラッグ&ドロップ」が便利です。

▶参照

「Alt+英字キー」へ割り当てたキー操作とメニューバーのアクセラレータキーが重複している場合はメニュー側が優先されます。

メニューのアクセラレータキーは、メニューバーのカスタマイズ機能で変更できます。

「メニューに機能を追加する」

⇒103ページ

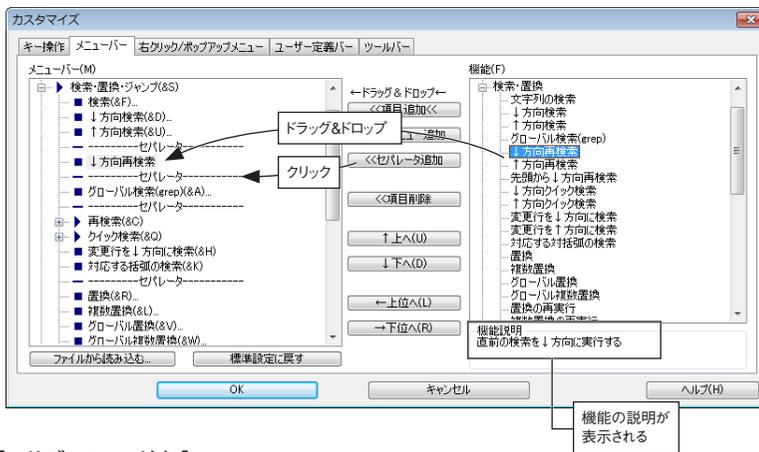
◀メモ

現在設定されているキー操作は、【設定】-【キー操作一覧の出力】で、編集画面に出力できます。

メニューに機能を追加する

メニューには機能を800項目まで追加できます。
アクセラレータキーの割り当てもできます。

- 1) 【設定】-【メニューバーのカスタマイズ】を選択します。
- 2) 左側の「メニューバー」で追加したいメニューを開きます。
- 3) 右側の「機能」から「メニューバー」の追加したい位置へ機能をドラッグ&ドロップします。



- [≪サブメニュー追加]
 - 下の階層に機能を追加するためのサブメニューを追加します。
- [≪セパレータ追加]
 - メニュー間に区切り線を追加します。
- [↑上へ] [↓下へ]
 - 項目を上下に移動します。
- [←上位へ] [→下位へ]
 - 階層の位置を移動します。



◀ メモ

サブメニューは3階層まで作成可能です。

◀ メモ

アクセラレータキーは (&*) [※は任意の半角英数字] で指定します。

◀ メモ

メニューに機能アイコンが表示できます。
【設定】-【環境設定】を選択し「ツールバー」タブをクリックします。
「ツールバー / ユーザー定義バー」の「メニューにも表示」にチェックを入れます。



右クリックメニューとポップアップメニュー

右クリックメニューとポップアップメニューで800項目まで定義できます。
サブメニューは、3階層まで作成可能です。

● 右クリックメニューのカスタマイズ

「文字列選択時の右クリックメニュー」と「編集文字列上での右クリックメニュー」をカスタマイズできます。

【設定】-【右クリックメニューのカスタマイズ】を選択します。

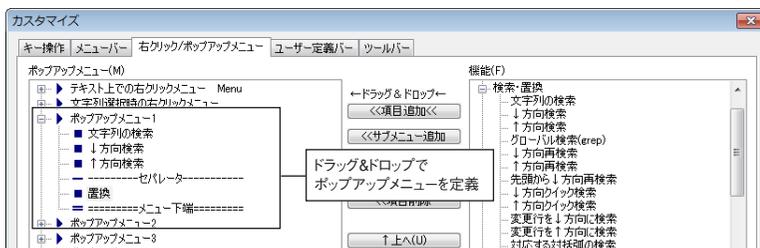


● ポップアップメニューのカスタマイズ

ポップアップメニューは、任意の位置に表示できるメニューです。キー操作やメニュー、ツールバーなどに割り当てることができます。

ポップアップメニュー1に機能を割り当て、ホットキーを[Alt]+[A]に設定する方法で説明します。

- 1) 【設定】-【右クリックメニューのカスタマイズ】を選択します。
- 2) 左側の「ポップアップメニュー」で追加したいメニュー「ポップアップメニュー1」を開きます。
- 3) 右側の「機能」から「ポップアップメニュー」の追加したい位置へ機能をドラッグ&ドロップします。



- 4) 「キー操作」タブをクリックし、「ホットキー」に[Alt]+[A]を入力します。「機能」の「メニューの呼び出し」の中にある「ポップアップメニュー1」をダブルクリックします。編集集中に「Alt+A」を押すと「ポップアップメニュー1」が表示されます。

注意

カスタマイズできない右クリックメニュー

以下の選択時に表示される右クリックメニューはカスタマイズできません。

- ・行範囲選択時
- ・モードに入る文字列選択時
- ・箱型選択時
- ・バイナリーモードでの範囲選択時

▶ 参照

定義の方法は「メニューバーのカスタマイズ」と同じです。

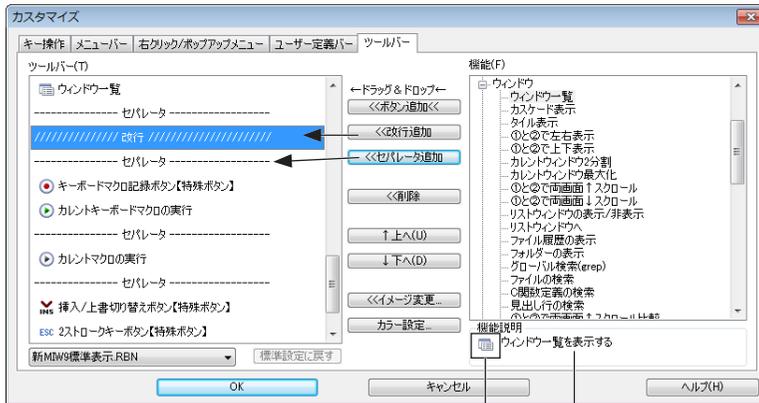
「メニューに機能を追加する」

⇒103ページ

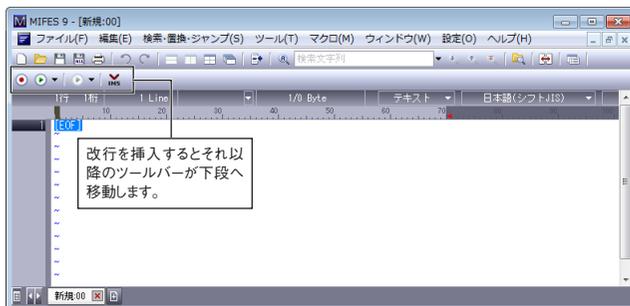
ツールバーのカスタマイズ

ツールバーのボタンを移動したり、ボタンやセパレータ、改行などを追加、削除できます。

- 1) 【設定】-【ツールバーのカスタマイズ】を選択します。
- 2) 右側の「機能」から「ツールバー」の追加したい位置へ機能をドラッグ&ドロップします。



- [《ボタン追加》] 機能をツールバーに追加します。ドラッグ&ドロップでも追加できます。
- [《改行追加》] 改行を追加すると以降のツールバーが下段に移動します。
- [《セパレータ追加》] ボタン間に区切り線を追加します。
- [↑上へ] [↓下へ] ツールバーの選択項目を上下に移動します。
- [《イメージ変更》] 機能ボタンの画像を変更します。
- [《カラー設定》] ツールバーの背景色や文字色を変更します。



メモ

ツールバーで右クリックすると各ツールバーの表示・非表示を選択できます。

メモ

標準のツールバーのほかに2つのユーザー定義バーがあります。ユーザー定義バーは文字で機能を表示し、標準のツールバーと同様にクリックで機能を実行します。



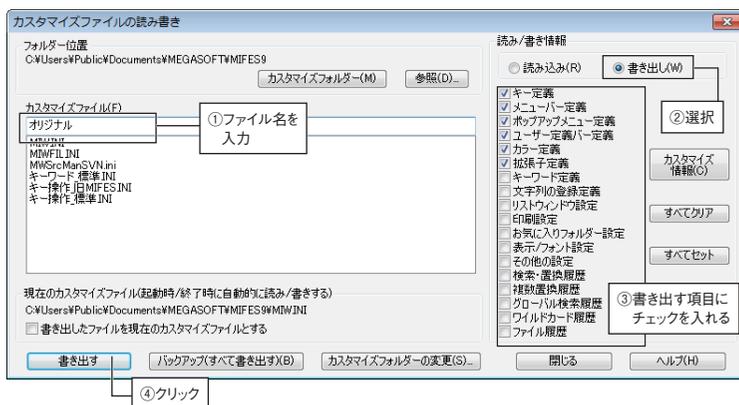
設定の保存と読み込み

現在の設定内容をファイルに保存したり、設定ファイル(カスタマイズファイル)を読み込んで現在の設定を変更したりできます。

[設定]-[カスタマイズファイルの読み書き]を選択します。

● 保存

- ① カスタマイズファイルの名前を入力します。
- ② 「書き出し」を選択します。
- ③ 書き出す項目にチェックを入れます。
- ④ 「書き出す」をクリックします。



◀ メモ

設定のバックアップをすることもできます。[バックアップ(すべて書き出す)]をクリックします。

▶ 参照

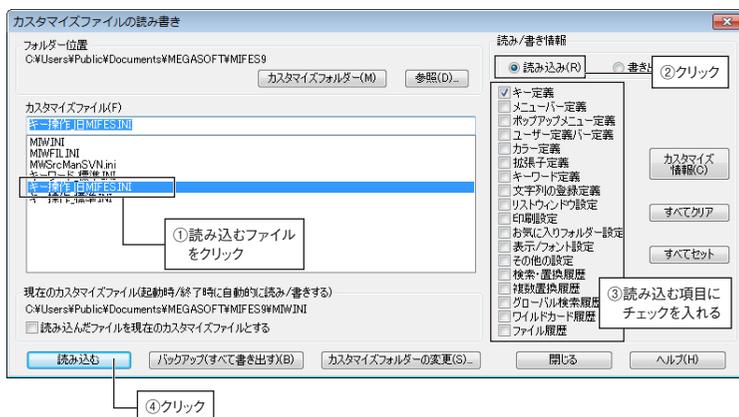
「カスタマイズファイルについて」
⇒ 109ページ

◀ メモ

ツールバーは、カスタマイズファイルではなく「RBN」ファイルに定義されます。

● 読み込み

- ① 読み込むファイルを選択します。
- ② 「読み込み」を選択します。
- ③ 選択したカスタマイズファイルに定義されている項目にチェックが入ります。読み込む項目にチェックを入れます。
- ④ 「読み込む」をクリックします。



ログインユーザーごとに設定を切り替える

インストール時に作成されるカスタマイズフォルダーの他に、ログインユーザーごとにカスタマイズフォルダーを切り替えることができます。

これにより、ログインユーザーごとに設定ファイル（カスタマイズファイル：MIW.INI）を切り替えることができます。

- 1) 【設定】-【カスタマイズファイルの読み書き】を選択します。
- 2) 「カスタマイズファイルの読み書き」ダイアログの「カスタマイズフォルダーの変更」ボタンをクリックします。



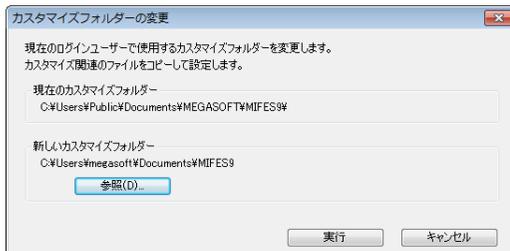
◀ メモ

この機能でカスタマイズフォルダーを変更したユーザーに限り、指定したフォルダーの設定ファイル（カスタマイズファイル）を参照します。それ以外のユーザーは共有の設定になります。

▶ 参照

「カスタマイズフォルダー」
⇒162ページ

- 3) 「カスタマイズフォルダーの変更」ダイアログで、「新しいカスタマイズフォルダー」を確認し、「実行」をクリックします。
他のフォルダーに変更したいときは「参照」をクリックして指定します。

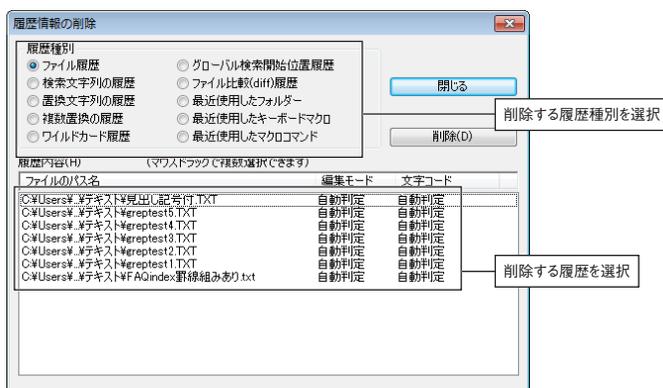


- 4) 「カスタマイズフォルダーの変更が正常に終了しました。」と表示されるのを確認して、「終了」をクリックします。
- 5) 「閉じる」で「カスタマイズファイルの読み書き」を終了します。

履歴情報を削除する

ファイル履歴や検索・置換文字列などの履歴を削除できます。

- 1) 【設定】-【履歴の削除】を選択します。
- 2) 「履歴種別」を選択すると「履歴内容」が表示されます。
- 3) 「履歴内容」から削除する履歴を選択します。
履歴は、ドラッグまたは、[Ctrl]+クリックで複数選択できます。
[削除]をクリックして選択した履歴を削除します。



● リストウィンドウでファイル履歴を削除する

ファイル履歴はリストウィンドウからも削除できます。

「リストウィンドウ」-「ファイル履歴」で履歴を選択して [Delete] キーを押します。

◀ メモ

履歴内容は、ドラッグで複数選択できます。また [Ctrl] + クリックで連続しない項目を複数選択することができます。

◀ メモ

リストウィンドウでは、履歴を複数選択できません。

注意

削除した履歴は元に戻すことはできません。

カスタマイズファイルについて

カスタマイズファイルは、MIFESの設定内容を記録したファイルです。終了直前の状態をカスタマイズファイルに保存し、次回の起動時にファイルの内容を読み込んで、前回の終了時と同じ状態で編集を再開することができます。起動/終了時に読み/書きするカスタマイズファイルは「MIW.INI」で、初期状態では、MIFESのカスタマイズフォルダーに作成されます。起動時に別のカスタマイズファイルを読み込んだり、書き出しすることもできます。カスタマイズファイル (INIファイル) を他のコンピューターにコピーすると同じ環境を再現できます。

● カスタマイズファイルの活用

カスタマイズファイルには、すべてのキーワードと値が記述されている必要はありませんので、例えば、背景色とキー操作に関する設定だけを別のINIファイルに書き出すこともできます。

書き出したINIファイルは、自由に切り替えて使用することができます。

▶ 参照

起動時に読み込むカスタマイズファイルを指定することができます。
「起動時オプションでできること」
⇒87ページ

▶ 参照

「前回の編集の続きをする」
⇒15ページ

第4章

設定とカスタマイズ

第5章

コマンドを作る

キーボードマクロやマクロでコマンドを作成することができます。
作成から実行までの各機能を紹介します。

キーボードマクロの作成

キーボードマクロについて	112
キーボードマクロの記録	113
繰り返すキーボードマクロ	114
実行	115
ライブラリに登録	116

マクロコマンドの作成

マクロコマンド作成の手順	117
キーボードマクロからソースコードを取り出す 118	
マクロソースをコンパイルする	119
マクロを実行する	120
ライブラリに登録する	121
ライブラリのマクロコマンドを実行する ..	122

キーボードマクロについて

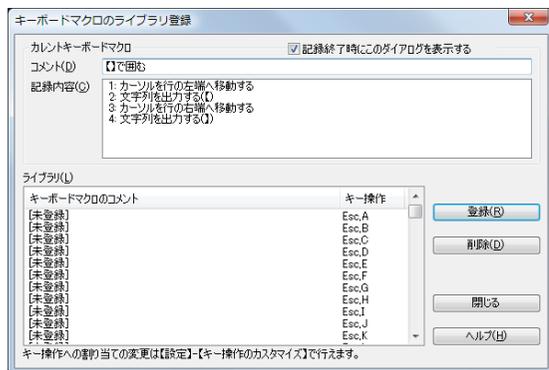
一連の操作を記録し、1つのコマンドにしたものがキーボードマクロです。

- マウス操作も記録できます
マウスによるメニュー選択やボタンクリックなども記録できます。
- キーやボタンの設定を変更しても実行できます
キーボードマクロには、実行したコマンドを記録するため、キーボードマクロを定義したときのキーやボタンの定義と、実行時のキーやボタンの定義が異なっても、正常に動作します。
- ダイアログボックスやメッセージボックスは表示されません
コマンドの実行時にダイアログボックスで指定した値もキーボードマクロに記録されます。そのため、キーボードマクロ実行時には、ダイアログボックスは表示されません。
- キーボードマクロの記録用のバッファは約2000バイトです
長い操作を記録するときや、複数置換、複数ファイルを開く、グローバル検索、印刷など多くのデータを伴う機能を記録する場合は注意してください。
バッファの容量をオーバーすると、自動的にキーボードマクロの記録を中止します（「RECボタン」の色が元の色に戻ります）。
- キーボードマクロに定義できないコマンド
カスタマイズ、キーボードマクロ、およびマクロ言語関連のコマンドをキーボードマクロに定義しても自動的に記録から除外されます。
定義できないコマンドは以下のとおりです。
 - ・マクロコマンド関連の機能
 - ・キーボードマクロ関連の機能
 - ・カスタマイズ関連の機能
 - ・キーワード明示関連の機能
 - ・ヘルプ関連の機能
 - ・環境設定のカラー／その他／拡張子／文字コード／起動の指定
 - ・環境変数関連の機能
 - ・メニュー／右クリックメニュー／ポップアップメニュー関連の機能
 - ・グローバル置換／グローバル複数置換
 - ・リストウィンドウ関連の機能
 - ・2ストロークキー動作
 - ・カレント演算の設定／実行
 - ・編集モードの切り替え
 - ・履歴情報の削除
 - ・文字編集の繰り返し
 - ・ブックマーク一覧
 - ・印刷プレビュー
 - ・ファイラの起動
 - ・バージョン管理システム連携機能
 - ・機能番号のない機能

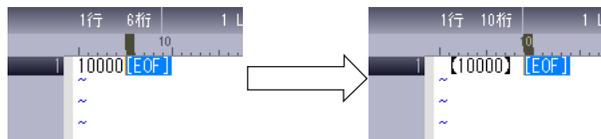
キーボードマクロの記録

以下の手順で一連の操作を記録します。

- 1) ツールバーの  (キーボードマクロ記録開始)] をクリックします。
- 2) 記録する操作を行います。
 カーソル行全体を [] で囲みます。
 [Home] を押します。(カーソルが行頭に移動します。)
 「[」を入力します。
 [End] を押します。(カーソルが行末に移動します。)
 「]」を入力します。
- 3) ツールバーの  (キーボードマクロ記録終了)] をクリックします。
 「キーボードマクロのライブラリ登録」が表示されますので、「コメント」を入力して「登録」をクリックします。



実行すると以下のような結果となります。



メモ

キーボードマクロを定義すると同時にライブラリに登録することができます。
 【設定】-【環境設定】を選択し「その他」タブをクリックします。
 「キーボードマクロ登録時にライブラリ登録」にチェックを入れます。

参照

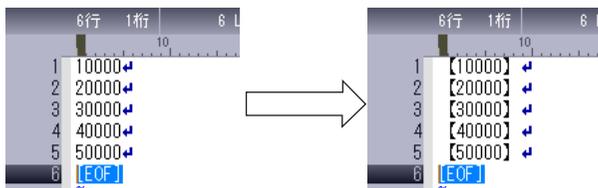
ライブラリ登録のダイアログが表示されないときは、【カレントマクロのライブラリに登録】で登録してください。
 「ライブラリに登録」
 ⇨116ページ

繰り返すキーボードマクロ

キーボードマクロを繰り返し実行するときは、カーソルの移動も含めて、操作手順を記録しておく便利です。

- 1) ツールバーの  (キーボードマクロ記録開始)] をクリックします。
- 2) 記録する操作を行います。
 - カーソル行全体を[]で囲み下の行へカーソルを移動します。
 - [Home]を押します。(カーソルが行頭に移動します。)
 - []を入力します。
 - [End]を押します。(カーソルが行末に移動します。)
 - []を入力します。
 - [↓]を押します。(カーソルが1行下に移動します。)

※このキーボードマクロはカーソル行を対象にしたものですが、繰り返し実行するために、下の行にカーソルを移動する操作も含めて記録しています。
- 3) ツールバーの  (キーボードマクロ記録終了)] をクリックします。
「キーボードマクロのライブラリ登録」が表示されますので、「コメント」を入力して[登録]をクリックします。
繰り返し実行すると以下のような結果となります。



実行

記録した直後または直前に実行したキーボードマクロが「カレントキーボードマクロ」になります。

カレントキーボードマクロは、新しくキーボードマクロを定義するか他のキーボードマクロを実行するまで繰り返し実行できます。

また、MIFES終了時のカレントキーボードマクロは、次回起動時にもカレントキーボードマクロとして読み込まれます。

● カレントキーボードマクロの実行

ツールバーの  (カレントキーボードマクロの実行) をクリックします。

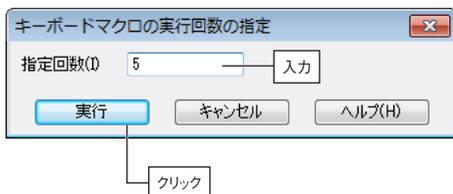
また、  の右側の「▼」をクリックして、キーボードマクロの履歴リストからも実行できます。

● 回数を指定して実行する

カレントキーボードマクロの回数を指定して実行できます。

【マクロ】-【指定回数実行】を選択します。

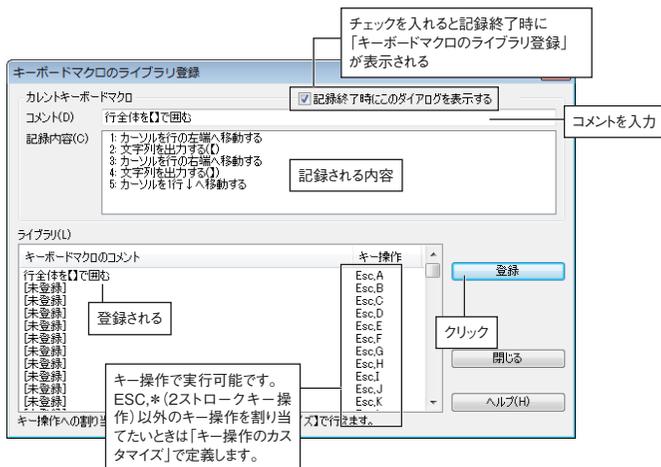
「指定回数」を入力し【実行】をクリックします。



ライブラリに登録

記録時にライブラリに登録しなかったキーボードマクロを登録します。

【マクロ】-【ライブラリ登録】を選択します。



◀メモ

キーボードマクロを定義すると同時にライブラリに登録することができます。【設定】-【環境設定】を選択し「その他」タブをクリックします。「キーボードマクロ登録時にライブラリ登録」にチェックを入れます。

◀メモ

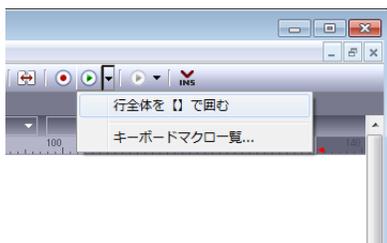
【ライブラリ登録】を実行するとキーボードマクロは、ライブラリファイル「MIW.LIB」に保存されます。

▶参照

ライブラリに登録したキーボードマクロは、カスタマイズダイアログの「機能」の「登録キーボードマクロの実行」から選択できます。「機能実行の割り当て」
⇒101 ~ 116ページ

● キーボードマクロの履歴について

ライブラリに登録したキーボードマクロは、実行すると履歴に残り、履歴リストから再実行できます。



履歴についての仕様は以下のとおりです。

- ライブラリ登録済みキーボードマクロの実行履歴は最大30個まで残ります。
- カレントキーボードマクロはライブラリに未登録でも次回起動時に引き継げます。
- 履歴に表示されないキーボードマクロは「キーボードマクロ一覧」で実行できます。

マクロコマンド作成の手順

MIFESにはMIL/Wというマクロ言語があります。

MIL/Wは、C言語に似たコンパイル言語でマクロソース（テキスト）をコンパイルして高速に実行できます。

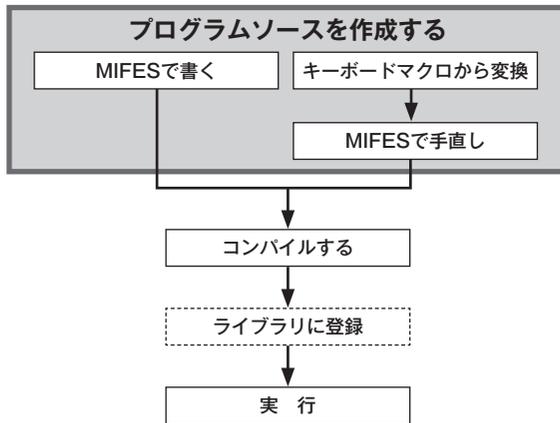
MIL/Wには、MIFESの設定を変更する関数、検索や置換を行う関数、文字入力のダイアログを表示する関数、文字列を数値に変換する関数や四則演算子+、-、×(*)、÷(/)などがあり、本格的なプログラミングにより複雑な処理も行えます。

MIFESには、簡単に作成できるキーボードマクロもありますが、マクロコマンドでは、さらに複雑な処理を行うことが可能です。

マクロソースはMIFESで記述することもできますが、キーボードマクロからマクロソースに変換し、必要であれば手直しするという方法が簡単です。

▶ 参照

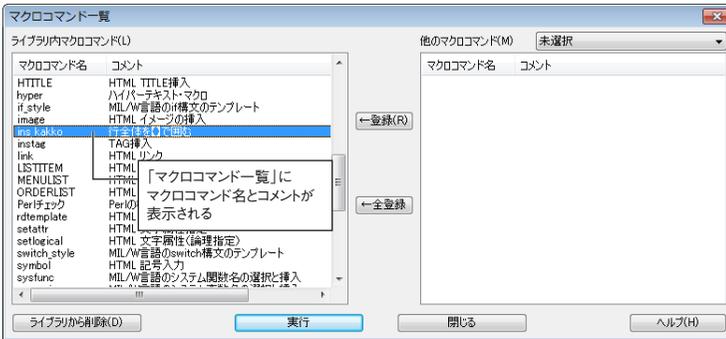
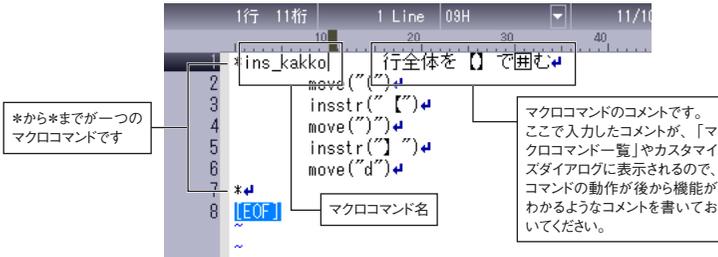
「キーボードマクロからソースコードを取り出す」⇒118ページ



キーボードマクロからソースコードを取り出す

カレントキーボードマクロからマクロのソースコードを作成できます。

- 1) 【ファイル】-【新規作成】を選択します。
キーボードマクロをマクロソースに変換するとカーソル位置に挿入されますので、新規ファイルを作成します。
- 2) 【マクロ】-【マクロソースに変換】を選択します。
プログラムソースが表示されますので、マクロコマンド名を変更します。



マクロソースをコンパイルする

テキストで記述されたマクロソースをマクロコマンドとして実行するにはコンパイルを行う必要があります。

「コンパイル」は、作成したマクロソースに誤りがないかをチェックし、実行できる「コマンド」にする作業です。

コマンド定義行(行頭に「*」があるマクロコマンド名を書いた行)にカーソルを移動します。

【マクロ】-【コンパイル】-【1コマンド分コンパイル】を選択します。

コンパイルが完了すると、自動的にコマンド最後の「*」の行にカーソルが移動します。

● コンパイルエラーについて

コンパイルを実行したときにカーソルがマクロソースの途中で停止した場合は、「マクロソースのカーソル行に誤りがある」ことを表し、そのエラーの内容が多目的バーに表示されます。

内容を確認して、エラーを修正し、再度コンパイルを実行します。



● ソースコードの保存

完成したマクロコマンドのソースはファイルに保存しておきましょう。

ソースが残っていれば、再コンパイルしたり、他のコマンドを作成するときに利用できます。

また、コンパイル時のオプションで、「中間コードへのソースコード埋め込み」を指定しておくと、【マクロ】-【カレントマクロのソースコード取出】でコマンドからソースを取り出すことができます。

ソースがあれば、修正したり、他のマクロコマンドを作成するときに利用したりできます。

◀メモ

1つのファイルに複数のマクロソースを記述している場合はファイル全体をコンパイルすることができます。その場合、最後に記述されているマクロコマンドがカレントマクロになります。【マクロ】-【ファイル全体コンパイル】を選択します。

◀メモ

MIW.MACについて
MIFESのマクロ言語である「MIL/W言語」のプログラムソース用ファイルで、カスタマイズフォルダー上にインストールされます。このファイルに記述されたマクロコマンドは、起動時に自動的にコンパイルされ、ライブラリに登録することなく実行することができます。

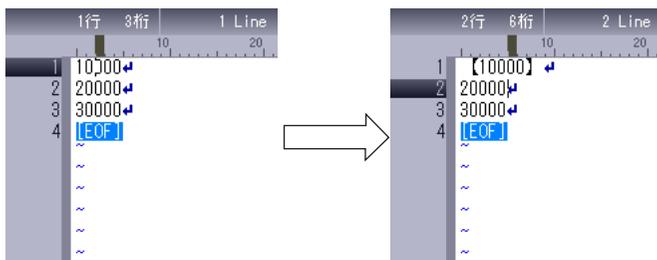
マクロを実行する

コンパイルしたマクロはカレントマクロとして定義されます。

例「マクロソースをコンパイルする」でコンパイルした「行全体を【】で囲む」を例に説明します。

マクロコマンドを実行する位置にカーソルを移動します。

【マクロ】-【カレントマクロの実行】を選択します。



● マクロが実行できない場合

コンパイルはMIL/W言語の記述ルール上誤りがないかをチェックするもので、動作の内容までチェックするものではありません。

実行しても思ったとおりに動作しない場合は、関数名や引数などに誤りがないかマクロソースをチェックし、再度コンパイルし実行してください。

◀メモ

マクロを作成する際のアイデアや、ロジック(処理内容)に関してはサポート対象外です。ご了承ください。

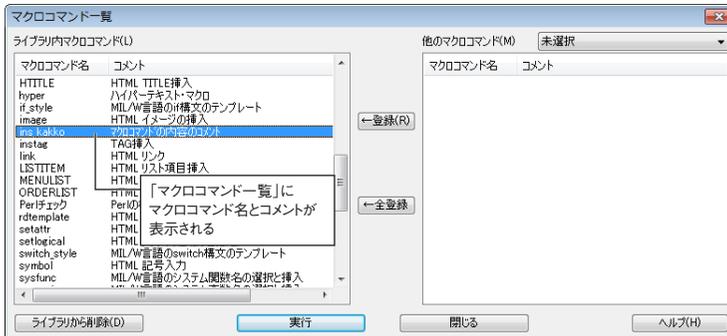
ライブラリに登録する

正しく動作したマクロコマンドはライブラリに登録することでいつでも呼び出し実行できます。また、キー操作やメニューなどに割り当てることもできます。カレントマクロはMIFES終了時にクリアされるため、ライブラリに登録していない場合は、次回起動時に降は使えなくなります。

- 1) 【マクロ】-【カレントマクロのライブラリ登録】を選択します。



- 2) ライブラリに登録したマクロコマンドは「マクロコマンド一覧」に表示されます。【マクロ】-【マクロコマンド一覧】を選択します。



▶ 参照

ライブラリに登録したマクロコマンドは、カスタマイズダイアログの「機能」の「登録マクロコマンドの実行」から選択できます。「機能実行の割り当て」⇒101 ~ 105ページ

ライブラリのマクロコマンドを実行する

ライブラリに登録されているマクロコマンドは履歴やマクロコマンド一覧から実行できます。

● 履歴から実行する

[マクロ] - [最近使用したマクロコマンド] からマクロコマンドを選択します。



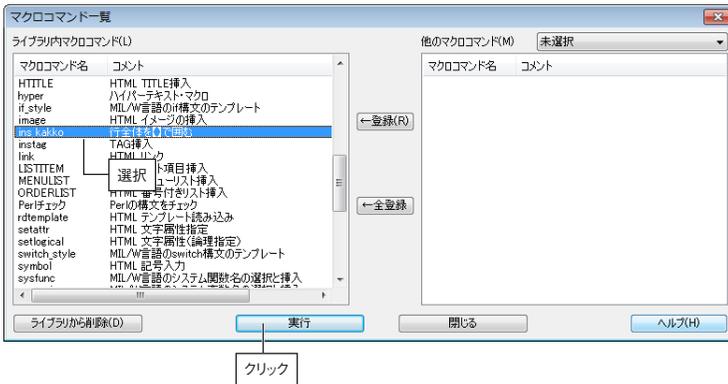
最近使用したマクロコマンドは、最大30個まで履歴に残り、ツールバーのボタンからも実行できます。

また、マクロコマンドはキーボードマクロと違い、未登録のものは次回に引き継ぎません。

● マクロコマンド一覧から実行する

[マクロ] - [マクロコマンド一覧] を選択します。

実行するコマンドを選択して [実行] をクリックします。



参照

ライブラリに登録したマクロコマンドは、カスタマイズダイアログの機能のマクロコマンドから選択できます。
「機能実行の割り当て」
⇒ 101 ~ 105ページ

メモ

マクロコマンドの履歴はツールバーから実行できます。



ヘルプ参照

マクロコマンド一覧では、実行以外にライブラリから削除したり、他のライブラリファイルから登録することができます。詳細はヘルプをご覧ください。

第6章

目的別使いこなすテクニック

プログラミングやログファイルのデータ編集など、目的別にMIFESの使いこなすテクニックを紹介します。

プログラムソースの編集	
予約語の色を変えて表示する	124
コメントの色を変えて表示する	125
対応する括弧を検索する	126
C言語の関数定義位置リストを作成する	127
プログラム言語のヘルプを参照する	128
HTMLファイルの編集	
HTMLタグを入力する	129
HTMLタグの色を変えて表示する	131
埋め込みスクリプトの色替え表示	133
リンク先を一括変更する	134
ブラウザで確認する	135
データの編集	
行単位で並べ替える[行のソート(sort)]	136
同じ内容の行をまとめる[行の単一化(uniq)]	137
行の抽出	138
不要なレコードを一括削除する	139
列を揃えて表示する(CSVモード)	140
CSVモードについて	142
列を入れ替える	143
列内の検索・置換	144
セル分割と結合	145
囲み記号の付け方を指定する	146
カンマ区切りをタブ区切りに変更する	147
テキスト原稿の編集	
見出し行リストを作成する	148
見出し行の色を変えて表示する	149
原稿用紙に書く	151
インデント設定	152
バイナリファイルの編集	
バイナリファイルを開く	153
バイナリデータを編集する	154
バイナリ数値を検索する	155
バイナリコードを文字にして貼り付ける	156
バイナリ演算	157
バージョン管理システムとの連携	
Subversionとの連携	158
Visual SourceSafeとの連携	160
使用するファイルについて	162

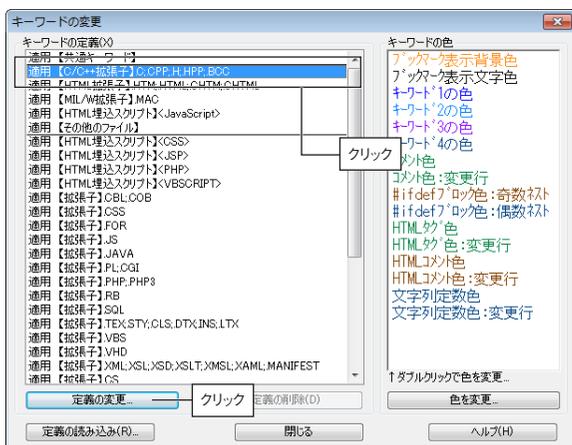
予約語の色を変えて表示する

プログラムソースの予約語の色を変えて表示できます。

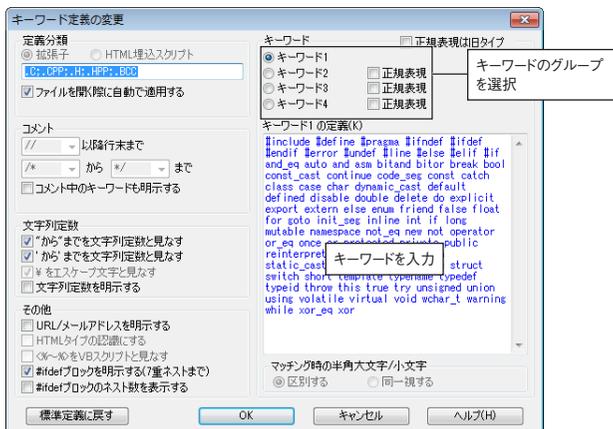
C/C++言語はデフォルトで定義されており、ガイドラインから選択できます。それ以外の特別な変数名や関数名を「キーワード2」～「キーワード4」にそれぞれ色を変えて登録することも可能です。

その他のプログラム言語についても拡張子で関連付けを行い登録できます。

- 1) 【設定】-【キーワードの変更】を選択します。
- 2) 「[C/C++拡張子].C;.CPP;.H;.HPP;.BCC」をクリックします。
【定義の変更】をクリックします。



- 3) キーワードの定義を追加するときにはキーワードのグループを選択し、キーワードを半角スペースで区切って入力します。

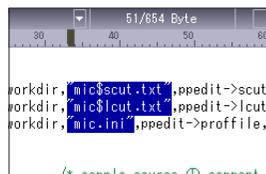


◀メモ

「キーワード2」～「キーワード4」は、正規表現を使用することができます。

◀メモ

一時的に明示したいときは「検索」の設定パネルで「すべて強調表示」にチェックを入れて検索します。



▶参照

「文字列の色を変えて表示する」
⇒95ページ

コメントの色を変えて表示する

プログラムソースファイルで、コメント部分の明示を行う場合は、コメント開始記号やコメント終了記号を指定します。色の変更も可能です。

【設定】-【キーワードの変更】を選択し、変更する定義を選択して【定義の変更】をクリックします。

「キーワード定義の変更」ダイアログボックスで、コメントの定義もできます。プログラム言語のコメントを設定してください。プログラムソースにあわせたコメントの定義を設定します。

① [] 以降行末まで

行末コメントの記号を半角文字で最大4文字まで指定できます。

全角文字は指定できません。

※行末コメントの記号で可能なメタ文字として、下記のメタ文字をコンボボックスから選択できます。

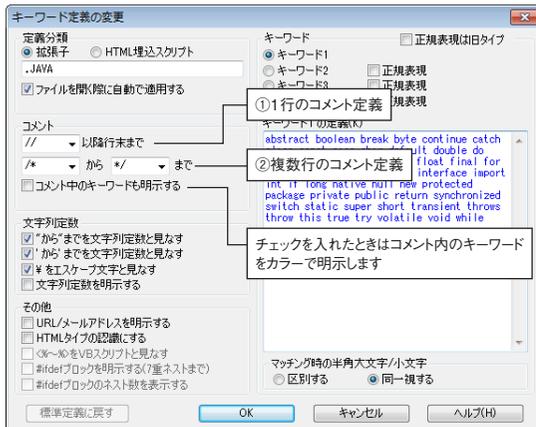
¥F (Fortran用) 論理行頭にある半角のC、c、* と、任意の位置の半角! を行末コメント開始記号と見なします。

¥P (Perl用) 半角#を行末コメント開始記号と見なします。
ただし、半角#の直前が半角\$だった場合は、コメント開始記号とは見なしません。

② [] から [] まで

ブロックコメントの記号を半角文字で最大4文字まで指定できます。

全角文字は指定できません。



対応する括弧を検索する

カーソル位置(またはカーソル位置から同一行内で2文字以内)の半角の括弧と対応する括弧を検索します。

検索できる括弧は、下記の半角の括弧です。

() [] { } < >

- 1) 検索する括弧の位置(または2文字以内)にカーソルを移動します。

```

25  return(0);
26
27  /* sample source の comment 3 */
28  for( i=1,flag=0x0000 ; i < argc ; i++ ) {
29      p = argv[i];
30      if( *p == '-' ) { /* sample source の comment 4 */
31          if( *(p+1) == 'p' ) { /* sample source の comment 5 */
32              if( *(p+2) >= '0' && *(p+2) <= '7' ) { /* sample source の comment 6 */
33                  flag &= ("0x000f");

```

- 2) 【検索・置換・ジャンプ】-【対応する括弧の検索】を選択します。
カーソルが対応する括弧の位置に移動します。

```

25  return(0);
26
27  /* sample source の comment 3 */
28  for( i=1,flag=0x0000 ; i < argc ; i++ ) {
29      p = argv[i];
30      if( *p == '-' ) { /* sample source の comment 4 */
31          if( *(p+1) == 'p' ) { /* sample source の comment 5 */
32              if( *(p+2) >= '0' && *(p+2) <= '7' ) { /* sample source の comment 6 */
33                  flag &= ("0x000f");

```

◀メモ

括弧の明示関連の設定

【設定】-【環境設定】-【表示】タブの以下の項目を設定します。

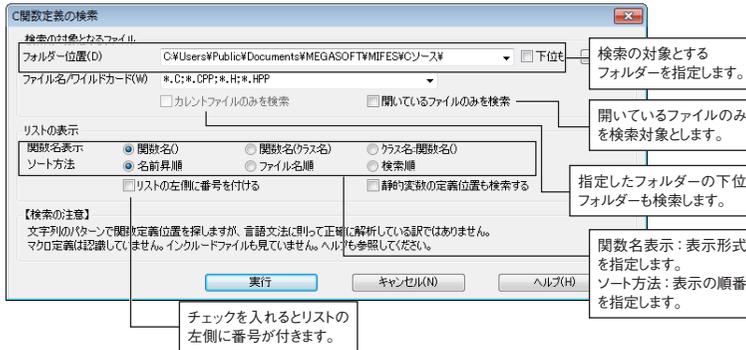
- ・括弧の明示(画面内で10文字差以上)
- ・括弧の検索/明示でコメントおよび文字列定数中を無視する

C言語の関数定義位置リストを作成する

指定したフォルダー内のC言語のプログラムソースから関数の定義位置リストを作成します。

● C関数定義の検索

【ツール】-【C関数定義の検索】を選択します。



▶ 参照

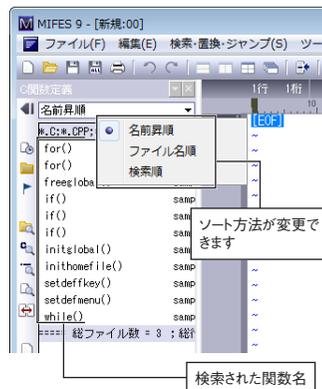
特定の文字列を含んだ行を見出し行として検索できます。
「見出し行リストを作成する」
⇒148ページ

● 結果リスト

【実行】をクリックすると「リストウィンドウ」に結果が表示されます。

● 結果リストからジャンプする

リストウィンドウに表示された関数名をダブルクリックするとジャンプします。



◀ メモ

カレントウィンドウがC言語のソースファイルのときは、【検索・置換・ジャンプ】-【C関数の定義位置へジャンプ】が実行できます。カーソル位置の語を関数名と見なして、その定義位置へジャンプします。詳細はヘルプをご覧ください。

プログラム言語のヘルプを参照する

MIFESでは、ヘルプファイル（拡張子が「.chm」「.hlp」のファイル）を4件まで登録し、その内1つのヘルプファイルを参照できます。APIのヘルプファイルなどを登録しておく便利です。

● 拡張ヘルプファイルの登録

- 1 【ヘルプ】-【拡張ヘルプファイルの変更】をクリックします。
【候補を追加】をクリックしてヘルプファイルを指定します。



- 2 候補からヘルプファイルを選択し【↑ 候補から選択】をクリックします。



● 拡張ヘルプで参照

カーソル位置の文字列を拡張ヘルプを参照するには、【ヘルプ】-【拡張ヘルプで参照】を選択します。

HTMLタグを入力する

MIFESにはHTMLファイルを編集するための多彩なマクロコマンドがデフォルトで用意されています。【ツール】-【HTML編集】にHTMLに関するコマンドが表示されます。

●ドキュメント

【HTML テンプレート読み込み】	「template.htm」
【タイトル挿入】	<TITLE></TITLE> を挿入
【背景書式設定】	<BODY></BODY> を挿入
【見出し挿入】	指定されたレベルの <H1></H1> ~ <H6></H6> を挿入
【コメント挿入】	<!-- --> の挿入
【水平線挿入】	<HR> の挿入

○HTMLテンプレートの読み込み

HTMLファイルのテンプレートを読み込みます。「template.htm」をテンプレートファイルとして作成し、MIFESのインストールフォルダーにおいておくことでHTML編集をすぐに始めることができます。



●フレーム

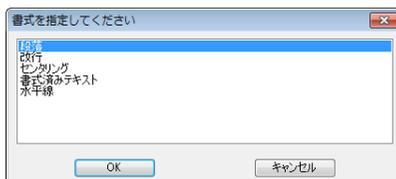
【フレームソース指定】	<FRAME SRC=""> の挿入
【フレーム分割】	<FRAMESET></FRAMESET> の挿入

●書式/文字

【段落/書式指定】	<PRE></PRE> などの挿入
【フォントサイズ・色設定】	 の挿入
【文字属性】	 などの挿入
【文字属性（論理）】	<VAR></VAR> などの挿入
【記号の挿入】	< (<) などの挿入

○段落/書式設定

段落、改行、センタリング、書式済みテキスト、水平線の各タグを挿入します。



◀メモ

メニューバーのカスタマイズで「HTML編集」メニューをメニューバーに移動することができます。

● リスト

[番号付きリスト挿入]	 の挿入
[番号なしリスト]	 の挿入
[メニューリスト挿入]	<MENU></MENU> の挿入
[ディレクトリリスト挿入]	<DIR></DIR> の挿入
[リスト項目挿入]	 の挿入
[定義型リストタグ挿入 <DT>]	<DT> の挿入
[定義型リストデータ挿入 <DD>]	<DD> の挿入
[定義型リストデータ挿入 <DL>]	<DL></DL> の挿入

● フォーム

[フォーム部品 (INPUT) 挿入]	<INPUTTYPE=""> の挿入
[フォームの送信]	<FORM></FORM> の挿入

● テーブル

[テーブル作成]	属性行列数を指定して <TABLE></TABLE> の挿入
[TABLE 開始/終了タグ挿入 <TABLE>]	<TABLEBORDER></TABLE> の挿入
[TABLE 表題挿入 <CAPTION>]	<CAPTION></CAPTION> の挿入
[TABLE 行 <TR> 挿入]	<TR></TR> の挿入
[TABLE データ挿入]	<TD></TD> の挿入
[TABLE ヘッダ挿入]	<TH></TH> の挿入

○ テーブル作成

「行」「列」「テーブルの幅」「線の太さ」「セル内、セル間の余白」を設定してテーブルを挿入します。

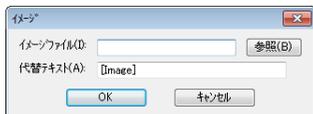


● 画像/リンク

[イメージの挿入]	 の挿入
[リンク設定]	 の挿入

○ イメージの挿入

画像ファイルと代替テキスト(画像が表示できないときの文字)を挿入します。



● その他

[閉じるタグの挿入]	カーソル位置のタグに対応する「閉じるタグ」を挿入
[タグをすべて削除]	ファイル中のタグをすべて削除
[XML 構文チェック]	XML 構文のチェックを行う
[Perl 構文チェック]	Perl 構文のチェックを行う

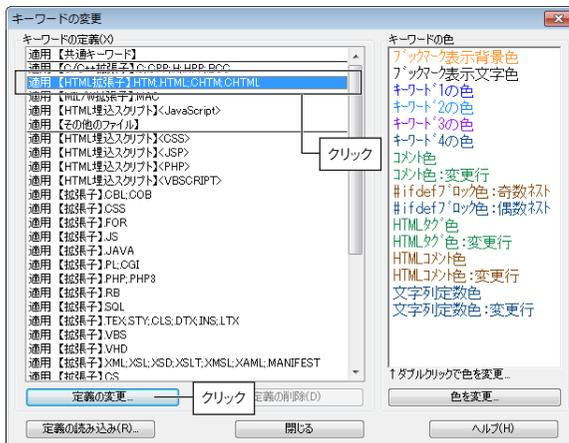
HTMLタグの色を変えて表示する

HTMLタグを色で明示します。

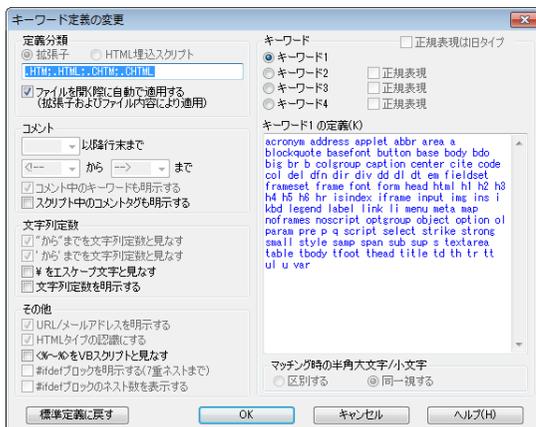
それ以外の特別なキーワードを「キーワード3」～「キーワード4」にそれぞれ色を変えて登録できます。デフォルトでは、「キーワード1」にタグ名、「キーワード2」に属性名が定義されています。

● キーワードの追加

- 1) [設定]→[キーワードの変更]を選択します。
- 2) 「[HTML拡張子].HTM;HTML;CHTML;CHTML」をクリックします。
[定義の変更]をクリックします。

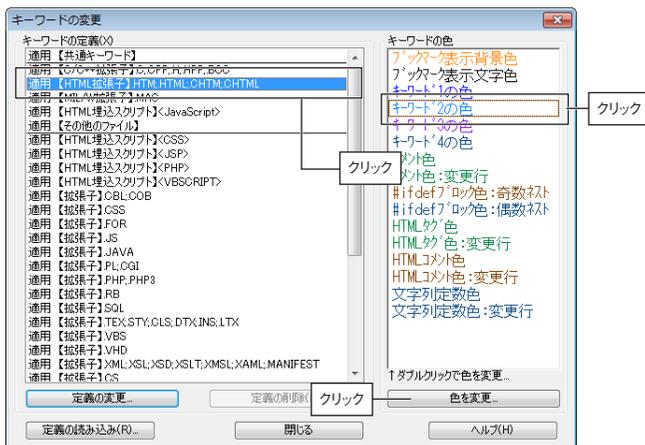


- 3) キーワードの定義を追加するときには半角スペースで区切って入力します。



●色を変更する

- 1) 【設定】-【キーワードの変更】を選択します。
- 2) 「【HTML拡張子】.HTM;.HTML;.CHTM;.CHTML」をクリックします。
色を変更するキーワード(例「キーワード2の色」)をクリックします。
【色を変更】をクリックします。



◀メモ

キーワードの色はHTMLだけでなく、すべての定義に共通です。
例えば、ここでキーワード2の色を変えると、共通キーワードやC言語のキーワード2の色も変わります。

- 3) 色をクリックして選択し【OK】をクリックします。



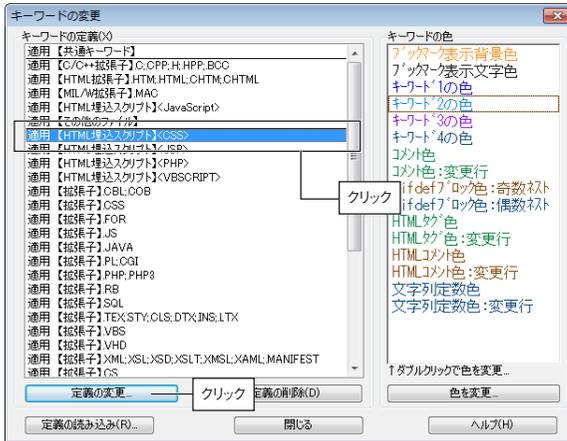
埋め込みスクリプトの色替え表示

埋込スクリプトは、「HTML拡張子」定義が適用される拡張子のファイルに埋め込まれているスクリプト部分にのみ適用されます。

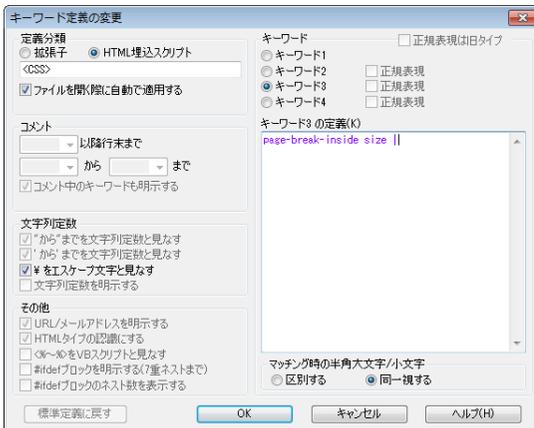
キーワードの定義の方法は、C言語などと同じです。

● キーワードの追加

- 1) [設定]-[キーワードの変更]を選択します。
- 2) 「[HTML埋込スクリプト]<CSS>」をクリックします。
[定義の変更]をクリックします。



- 3) キーワードの定義を追加するときには半角スペースで区切って入力します。
「キーワード3」「キーワード4」に別の色で明示するキーワードを入力できます。
「キーワード3」をクリックしてキーワードを入力します。
例ここでは、一部のブラウザにのみ対応しているキーワードを入力しています。

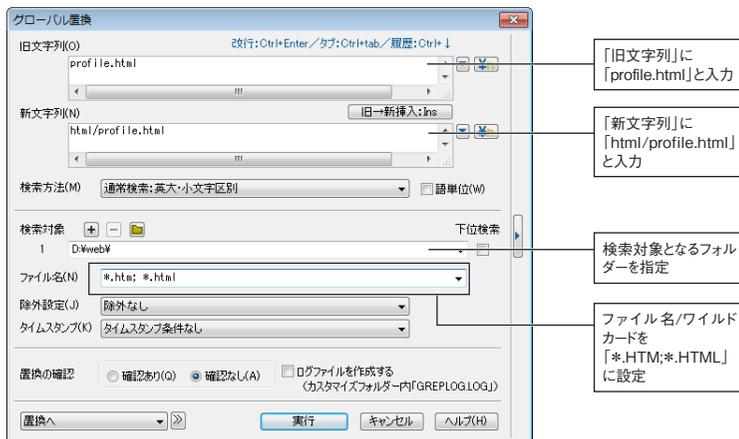


リンク先を一括変更する

HTMLファイルのフォルダー位置を変更したときに、HTMLファイル内に記述されているリンクの属性(リンクファイルの位置)をグローバル置換機能で変更できます。

例 フォルダー「D: ¥web ¥」内のHTMLファイルに記述されている「profile.html」を「html/profile.html」に変更します。

【検索・置換・ジャンプ】—【グローバル置換】を選択します。
以下の項目を設定します。



【実行】をクリックするとHTMLファイル内の文字列が置換されます。

メモ

「旧文字列」「新文字列」には、正規表現が使用できます。

例 「旧文字列」に「」
「新文字列」に「」と入力して置換するとすべてのリンク先に「html/」を付けることができます。
正規表現についてはヘルプをご覧ください。

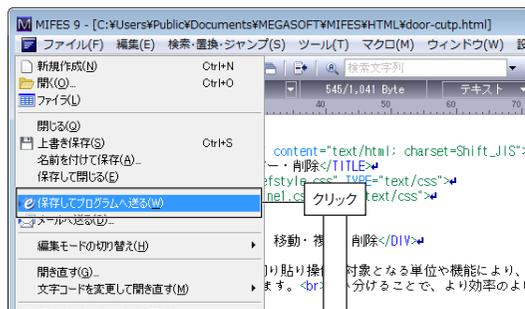
ブラウザで確認する

編集中のHTMLファイルをWebブラウザで確認できます。

起動するブラウザは、Windowsで既定のWebブラウザとして設定されているソフトです。

【ファイル】—【保存してプログラムへ送る】を選択します。

ファイルが保存され、Webブラウザが自動的に起動します。



メモ

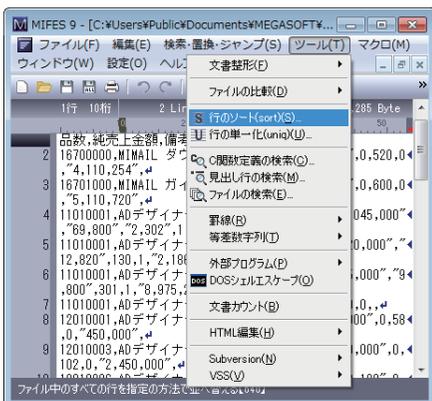
既定のWebブラウザ

WindowsからHTMLファイルをダブルクリックして起動するブラウザです。

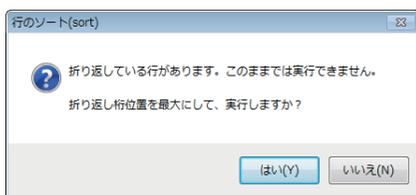
行単位で並べ替える【行のソート(sort)】

ファイル全体または、選択範囲を行単位でソートします。
CSVモードでは、ソートの基準となる列を指定できます。

1) 【ツール】-【行のソート(sort)】を選択します。



以下のダイアログが表示されたら、「はい」をクリックします。



2) 「行のソート(sort)」が表示されます。
各項目を設定して実行をクリックします。

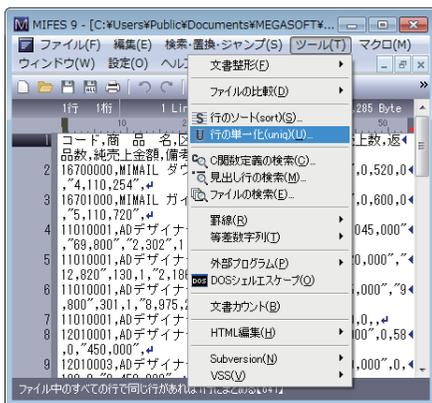


3) 行がソートされます。

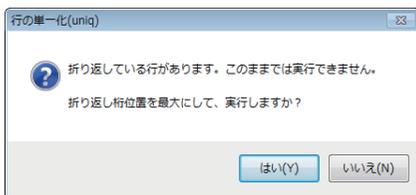
同じ内容の行をまとめる【行の単一化(uniq)】

ファイル全体または、選択範囲内の同じ内容の行をまとめて1行にします。
CSVモードでも実行できます。

- 1) 【ツール】-【行の単一化(uniq)】を選択します。



以下のダイアログが表示されたら、「はい」をクリックします。



- 2) 「行の単一化(uniq)」が表示されます。
各項目を設定して実行をクリックします。



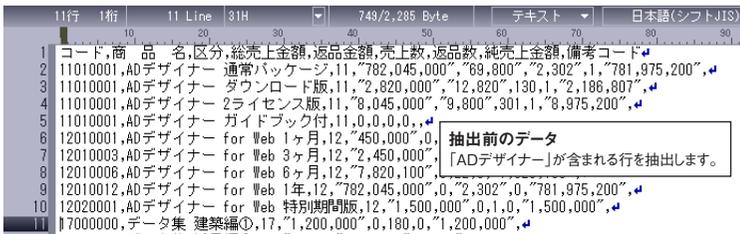
- 3) 行が単一化されます。

メモ

単一化した行数は、テキストモードの場合にはタブコード、CSVモードの場合にはカレントウィンドウの区切り文字に続けて追加されます。

行の抽出

グローバル検索機能を使用して行を抽出できます。



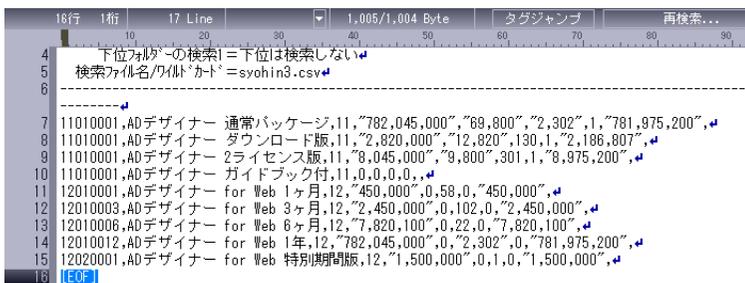
注意

テキストモードで実行してください。

- 1) 【検索・置換・ジャンプ】—【グローバル検索(grep)】を選択します。
抽出するデータの条件を設定します。
「結果の出力先」をグローバル検索結果ウィンドウに設定します。
【設定パネルの表示/非表示】をクリックして設定パネルを表示します。
【結果リストの書式】を「行の抽出」を指定します。



- 2) 【実行】をクリックします。
検索文字列を含む行が抽出されグローバル検索結果ウィンドウに表示されます。



メモ

1行1000/バイトまで抽出可能です。

不要なレコードを一括削除する

置換機能を使用して、不要なレコードを削除できます。

8行	1桁	8 Line	31H	463/2,285 Byte	テキスト
1					コード,商品名,区分,総売上金額,返品金額,売上数,返品数,純売上金額,備考
2	17000000	データ集	建築編①	17,"1,200,000",0,180,0,"1,200,000",	
3	17400003	データ集	添景編②	17,"22,000",0,11,0,"22,000",	
4	18740004	データ集	オフィス編③	18,"222,000",0,110,0,"222,000",	
5	18100000	データ集	インテリア編④	18,"500,510",0,140,0,"500,510",	
6	18200000	データ集	エクステリア編⑤	18,"470,850",0,150,0,"470,850",	
7	18300000	データ集	プレゼン編⑥	18,"250,350",0,80,0,"250,350",	
8	11010001	ADデザイナー	通常パッケージ	11,"782,045,000",69,800,"2,302",	
9	11010001	ADデザイナー	特別パッケージ	11,"920,000,000",130,1,"2,11	
10	11010001	ADデザイナー	「データ集」を含む行を削除する例で説明します。	","301,1,"8,975	
11	11010001	ADデザイナー	ガイドブック付	11,0,0,0,,"	
12	11010001	ADデザイナー	「データ集」を含む行を削除する例で説明します。	","301,1,"8,975	

注意

テキストモードで実行してください。

1) 【検索・置換・ジャンプ】-【置換】を選択します。

「置換」ダイアログで以下のとおり設定します。

○ 旧文字列

正規表現で指定します。

「^.+データ集.+¥n」と入力します。

※行頭からの任意の文字列のなかに「データ集」を含み、改行までの行全体という意味になります。

○ 新文字列

何も入力しません。

○ 検索方法

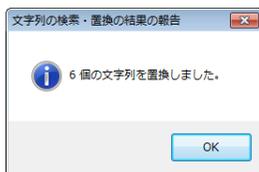
「正規表現検索」を選択します。

○ 確認操作

「確認なし」をクリックします。



2) 【実行】をクリックすると該当する行が削除されます。



メモ

正規表現メタ文字について

「^」は、正規表現で行頭をあらわします。

「.」は、正規表現で任意の1文字をあらわします。

「+」は、正規表現で1文字以上の繰り返しをあらわします。

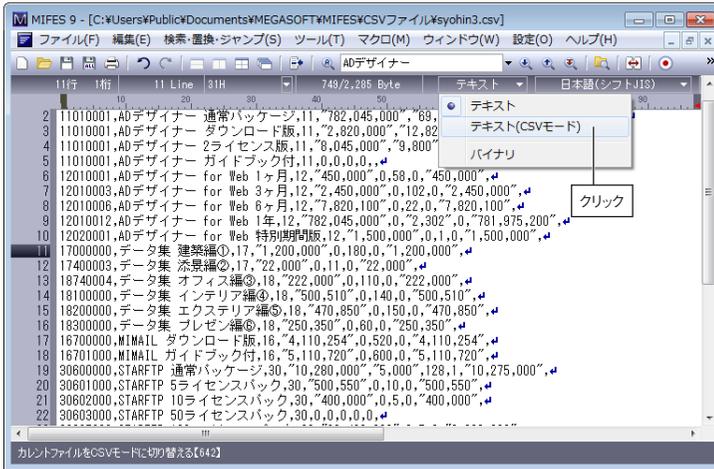
「¥n」は、改行文字をあらわします。

正規表現の詳細についてはヘルプをご覧ください。

列を揃えて表示する(CSVモード)

カンマ区切りのCSVファイルやタブ区切りのTSVファイルなどを、区切り文字の位置で揃えて表示します。

- 1) CSVファイルを開き、ガイドラインの編集モードメニューから、「テキスト(CSVモード)」を選択します。



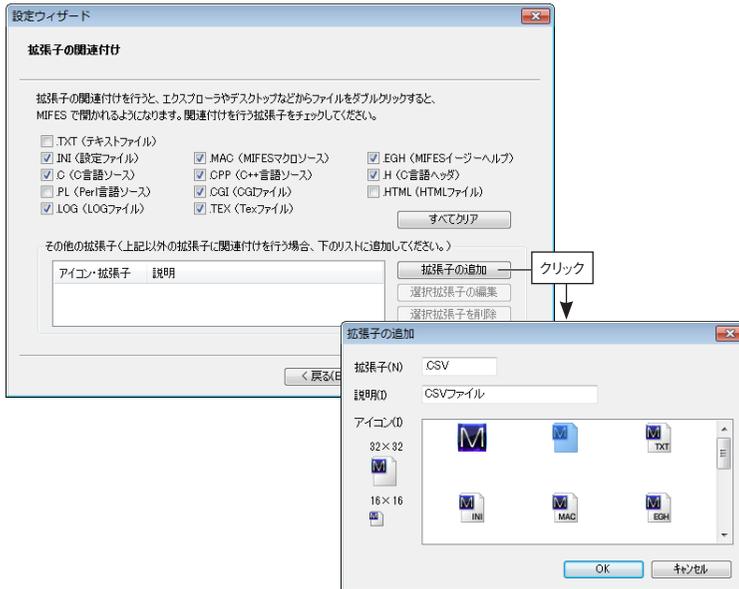
- 2) 「CSVモードの設定—CSVモードに切り替える」ダイアログで、必要事項を変更し「OK」ボタンをクリックします。



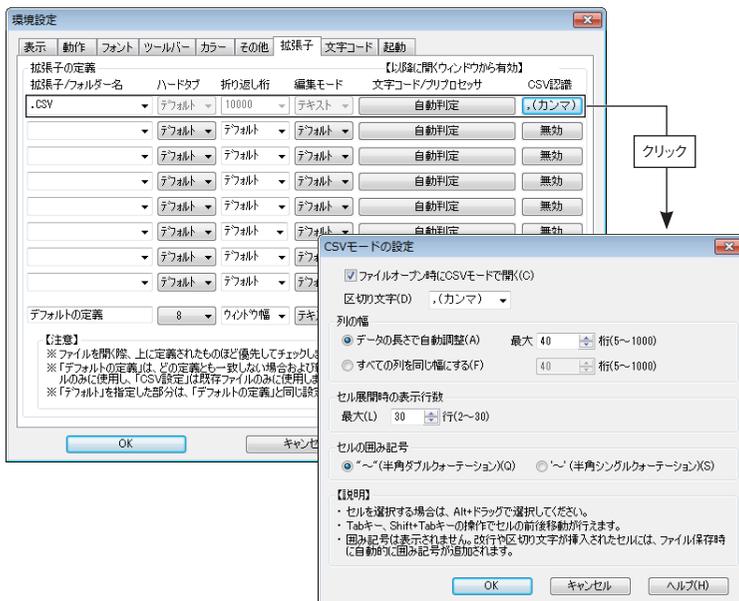
1行	1行	1 Line	89H,52H	1/2,450 Byte	CSVモード	日本語(シフトJIS)				
(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
1	ロード	商品名	区分	総売上金額	返品金額	売上枚	返品枚			
2	11010001	ADデザイナー 通常パッケージ	11	782,045,000	69,800	2,302	1			
3	11010001	ADデザイナー ダウンロード版	11	2,820,000	12,820	130	1			
4	11010001	ADデザイナー 2ライセンス版	11	8,045,000	8,800	301	1			
5	11010001	ADデザイナー ガイドブック付	11	0	0	0	0			
6	12010001	ADデザイナー for Web 1ヶ月	12	450,000	0	58	0			
7	12010003	ADデザイナー for Web 3ヶ月	12	2,450,000	0	102	0			
8	12010006	ADデザイナー for Web 6ヶ月	12	7,820,100	0	22	0			
9	12010012	ADデザイナー for Web 1年	12	782,045,000	0	2,302	0			
10	12020001	ADデザイナー for Web 特別期間版	12	1,500,000	0	0	0			
11	17000000	データ集 建築編①	17	1,200,000	0	180	0			
12	17400003	データ集 添景編②	17	22,000	0	11	0			

● CSVファイルは必ずMIFESのCSVモードで開きたいとき

- 1) CSVファイルをMIFESに関連付ける
Windowsの【スタート】から、【すべてのプログラム】-【MIFES 9】-【設定ウィザード】を実行し、「次へ」で進め「拡張子の設定」で追加します。
アイコンもMIFESのアイコンに変わります。



- 2) MIFESの拡張子設定で、設定する
MIFESの【設定】-【環境設定】-【拡張子】タブで、「. CSV」の設定を追加します。



CSVモードについて

表計算ソフトや住所録データなどの共通書式として一般的に利用されているCSVデータを見やすく表示し、編集ができます。

列幅マーク
ドラッグで列幅を変更できます。
クリックすると列幅の桁数をツールチップで確認できます。

コード	商品名	区分	販売上金額	取引金額	売上数	返品数	販売上金額	備考	国
16701000	MINIMAL タウ	.18	4,110,254	0	520	0	4,110,254	備考コード	
16701000	MINIMAL ガイ	.16	5,110,720	0	600	0	5,110,720		
11010001	ADデザイナー	.11	782,045,000	88,800	2,302	1	781,975,200		
11010001	ADデザイナー	.11	2,820,000	12,820	130	1	2,186,807		
11010001	ADデザイナー	.11	8,045,000	9,800	301	1	8,975,200		
11010001	ADデザイナー	.11	0	0	0	0	0		
12010001	ADデザイナー	.12	450,000	0	58	0	450,000		
12010001	ADデザイナー	.12	2,450,000	0	102	0	2,450,000		
12010001	ADデザイナー	.12	7,820,100	0	22	0	7,820,100		
12010001	ADデザイナー	.12	782,045,000	0	2,302	0	781,975,200		
12020001	ADデザイナー	.12	1,500,000	0	1	0	1,500,000		
17000000	データ集 建築編①	.17	1,200,000	0	180	0	1,200,000		
17400005	データ集 必須編①	.17	222,000	0	11	0	222,000		
18740004	データ集 オフィス編①	.18	222,000	0	110	0	222,000		
18100000	データ集 インテリア編①	.18	500,510	0	140	0	500,510		
18200000	データ集 エクステリア編①	.18	470,850	0	150	0	470,850		
18300000	データ集 プレゼン編①	.18	250,350	0	60	0	250,350		
30600000	STARFTP 通常パッケージ	.30	10,280,000	5,000	128	1	10,280,000		
30601000	STARFTP 5ライセンスバック	.30	500,550	0	10	0	500,550		
30602000	STARFTP 10ライセンスバック	.30	400,000	0	5	0	400,000		
30603000	STARFTP 50ライセンスバック	.30	0	0	0	0	0		
30605000	STARFTP 100ライセンスバック	.30	32,400,000	0	5	0	32,400,000		
40600000	WING 通常パッケージ	.40	1,027,500	500	12	1	1,027,500		

セル
セルの内容が列幅に収まらない場合は、自動で折り返します。セルをクリックもしくはカーソルを移動して「↓」キーを押すと展開します。

セル内改行
[Enter] キーで入力できます。

区切り文字
※2010年8月末にて販売終了。
※電話お問い合わせのみ、在庫限り対応
※基本ライセンス

◀メモ

その他CSVモードの編集操作については、ヘルプをご参照ください。

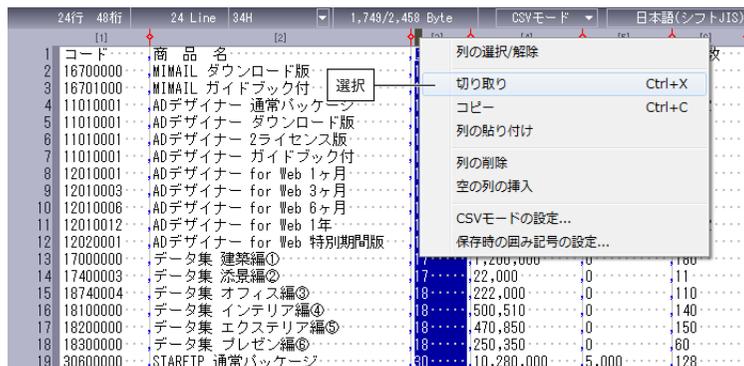
第6章

- セル単位の移動は、[Tab] キーと [Shift] + [Tab] キーで行えます。
- セル単位の選択は、[Alt] キーを押しながらドラッグします。

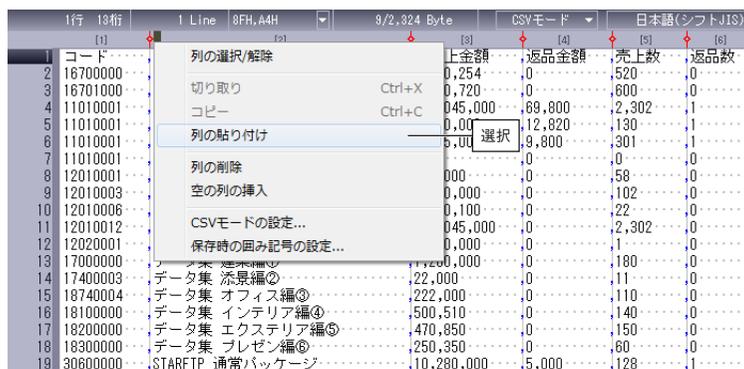
列を入れ替える

CSVモードで、列の入れ替えは、列単位の切り貼りで行います。

- 1) 移動したい列の列番号をダブルクリックして、列全体を選択します。
- 2) 右クリックメニューから【切り取り】を選択します。



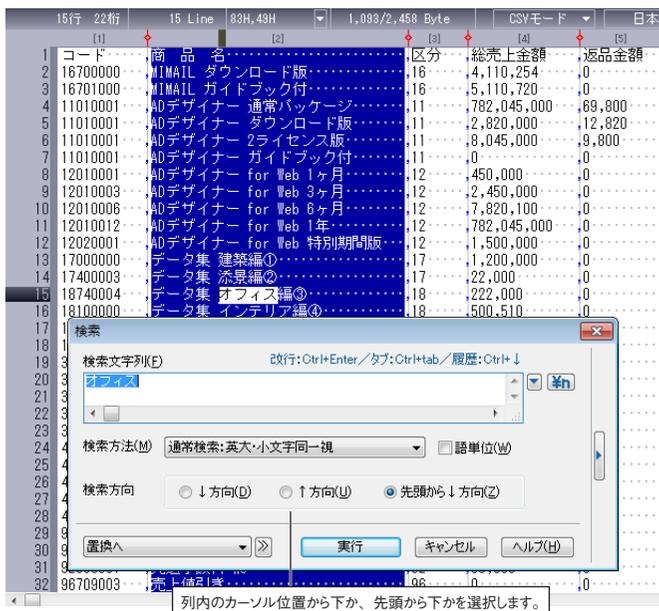
- 3) 移動先の列にカーソルを移動して、右クリックメニューから【列の貼り付け】を選択します。



列内の検索・置換

列を選択した状態で検索・置換を実行すると、選択した列内のみが対象になります。

- 1) 検索・置換の対象にする列の列番号をダブルクリックして、列全体を選択します。
- 2) 検索または置換を実行します。



メモ

検索文字列の改行(¥n)は、セル内改行にヒットします。

第6章

セル分割と結合

●セルを分割する

分割したい位置にカーソルを移動し、右クリックメニューから【セルの挿入/分割】を実行します。

コード	商品名	区分		総売上
16700000	MIMAIL	ダウンロード版	.16	4,110.
16701000	MIMAIL	ガイドブック付	.16	5,110.
11010001	ADデザイナー	通常パッケージ	.11	782.04
11010001	ADデザイナー	ダウンロード版	.11	2,820.
11010001	ADデザイナー	2ライセンス版	.11	8,045.
11010001	ADデザイナー	ガイドブック付	.11	0.
12010001	ADデザイナー	for Web 1ヶ月	.12	450.00

コード	商品名	区分		総売上
16700000	MIMAIL	ダウンロード版	.16	4,110.
16701000	MIMAIL	ガイドブック付	.16	5,110.
11010001	ADデザイナー	通常パッケージ	.11	782.04
11010001	ADデザイナー	ダウンロード版	.11	2,820.
11010001	ADデザイナー	2ライセンス版	.11	8,045.
11010001	ADデザイナー	ガイドブック付	.11	0.
12010001	ADデザイナー	for Web 1ヶ月	.12	450.00

●セルを結合する

結合したい2つのセルの間にある区切り文字を削除します ([Del]キー)。

コード	商品名	区分		総売上
16700000	MIMAIL	ダウンロード版	.16	4,110.
16701000	MIMAIL	ガイドブック付	.16	5,110.
11010001	ADデザイナー	通常パッケージ	.11	782.04
11010001	ADデザイナー	ダウンロード版	.11	2,820.
11010001	ADデザイナー	2ライセンス版	.11	8,045.
11010001	ADデザイナー	ガイドブック付	.11	0.
12010001	ADデザイナー	for Web 1ヶ月	.12	450.00

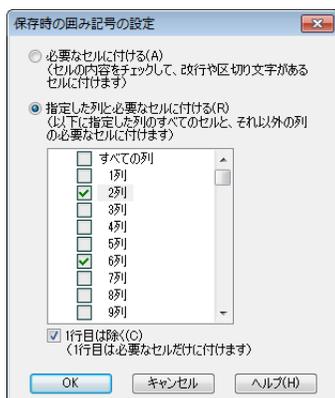
コード	商品名	区分		総売上
16700000	MIMAIL	ダウンロード版	.16	4,110.
16701000	MIMAIL	ガイドブック付	.16	5,110.
11010001	ADデザイナー	通常パッケージ	.11	782.04
11010001	ADデザイナー	ダウンロード版	.11	2,820.
11010001	ADデザイナー	2ライセンス版	.11	8,045.
11010001	ADデザイナー	ガイドブック付	.11	0.
12010001	ADデザイナー	for Web 1ヶ月	.12	450.00

囲み記号の付け方を指定する

MIFESのCSVモードでは、囲み記号は表示しませんが、保存時には、改行や区切り文字を含むセルに、自動的に囲み記号をつけます。

その他、1行目を除いたり、列ごとに囲み記号を付けるなどの指定ができます。

- 1) CSVモードで右クリックして、【保存時の囲み記号の設定】を実行します。
- 2) 「保存時の囲み記号の設定」ダイアログで必要事項にチェックを付けて[OK]をクリックします。

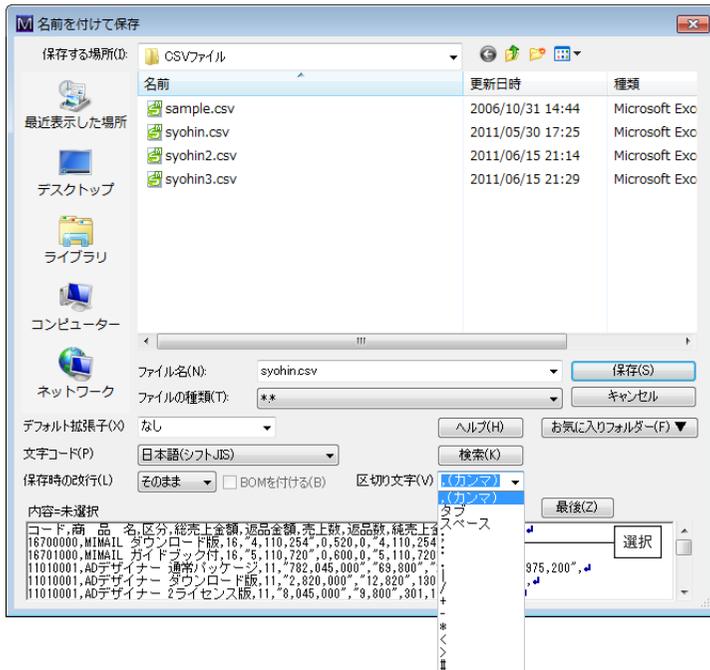


メモ

一般的な表計算ソフトなどに取り込む場合は、「必要なセルに付ける」のままで問題ありません。

カンマ区切りをタブ区切りに変更する

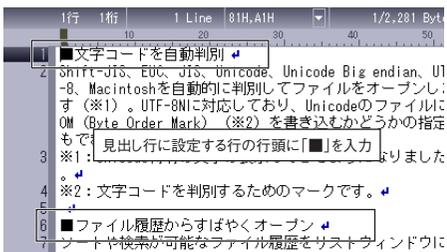
- 1) CSVモードで【ファイル】-【名前を付けて保存】を実行します。
- 2) 「区切り文字」で変更後の区切り文字を指定して保存します。



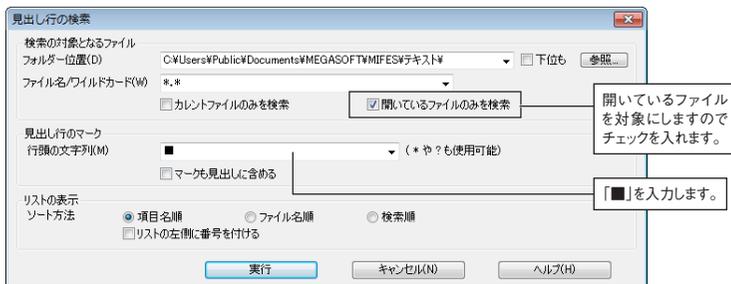
見出し行リストを作成する

「見出し行の検索」とは、文字量の多い論文や技術文書などの編集作業で、見出し行の行頭にマーク（決まった文字）を設定することによって、目的の見出しにジャンプができる機能です。

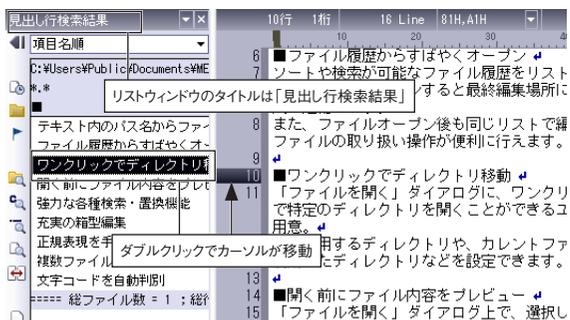
- 1) 見出しに設定する行頭に統一した文字（例：■）を入力します。



- 2) 【ツール】-【見出し行の検索】を選択します。
「見出し行の検索」が表示されます。
以下のとおり設定し【実行】をクリックします。



- 3) リストウィンドウに「見出し行検索結果」が表示されます。
見出し行をダブルクリックすると、対象の見出し行に移動します。



▶ 参照

C/C++言語のソースを編集時には関数定義の定義位置リストを作成できます。
[C関数定義の検索]⇒148ページ

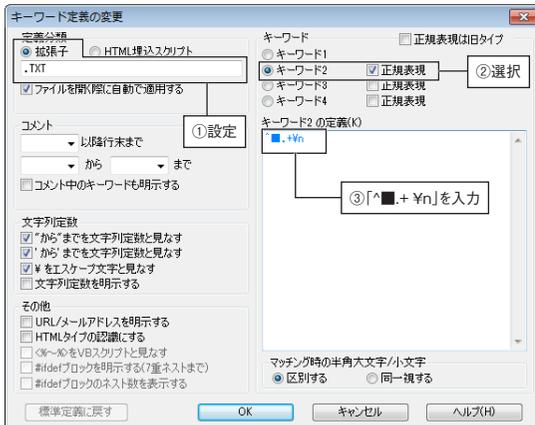
見出し行の色を変えて表示する

キーワードの明示機能を利用して、見出し行（行頭に特定の文字列のある行）を変えて表示できます。

- 1) 【設定】-【キーワードの変更】をクリックします。
 【未定義】をクリックします。
 【定義の変更】をクリックします。



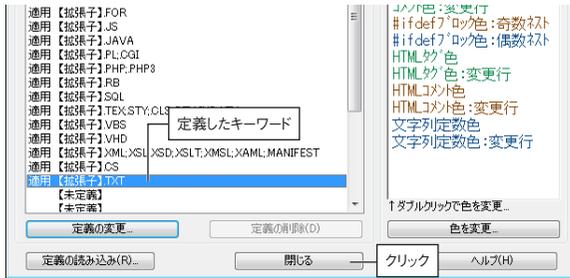
- 2) 「キーワード定義の変更」が表示されます。
 - ①「拡張子」を選択して「.TXT」と入力します。
 - ②「キーワード2」をクリックして「正規表現」にチェックを入れます。
 - ③キーワードの欄に「^■.+¥n」と入力します。
 ※「^■.+¥n」は、正規表現で「■」で始まる文字列で改行文字までをあらわします。



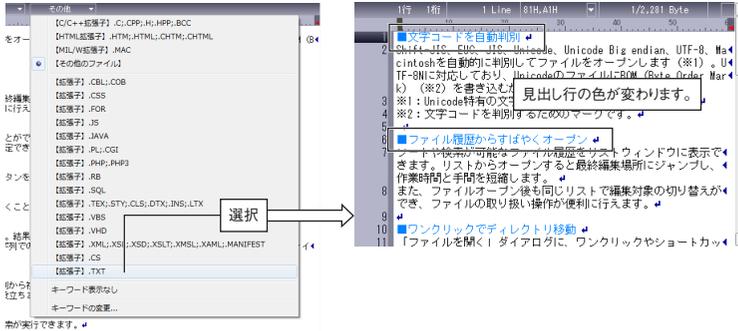
▶ 参照

- 「予約語の色を変えて表示する」
⇒124ページ
- 「HTMLタグの色を変えて表示する」
⇒131ページ

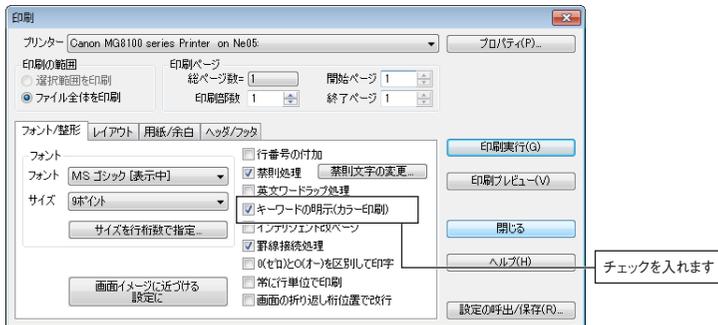
- 3) [OK]をクリックして「キーワードの変更」に戻ります。
 キーワード定義が追加されたことを確認して [閉じる] をクリックします。



- 4) ガイドラインの「キーワード表示の変更から」定義したキーワード「【拡張子】.TXT」を選択します。
 「■」から始まる見出し行が色で明示されます。



- 見出し行をカラーで印刷する
 色で明示した見出し行をカラープリンターに印刷できます。
 【ファイル】-【印刷】を選択します。
 「キーワードの明示(カラー印刷)」にチェックを入れて印刷します。



◀メモ
 カレントウィンドウの背景が白でないときは、背景白で定義されている色で印刷されます。
 印刷色を変えたいときは、カレントウィンドウを「背景白」にして、色指定してください。

原稿用紙に書く

背景罫線の表示と折り返し桁を固定することで編集画面を原稿用紙のように表示できます。

1) 【設定】-【環境設定】を選択します。

①線の表示

「背景横罫線」にチェックを入れます。

「背景縦罫線」にチェックを入れ「2桁ごとに表示」を選択します。

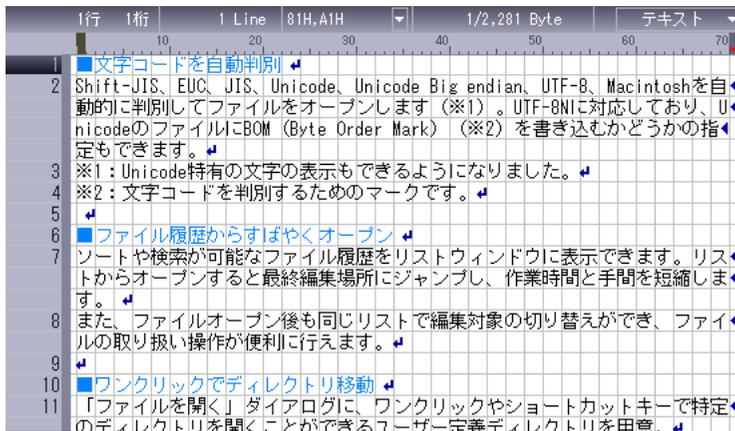
②折り返し行位置

任意の数字(例では70)を入力します。

「ウィンドウ幅に自動調整」のチェックが外れていることを確認します。



2) 【OK】をクリックすると画面の背景に罫線が表示されます。



◀メモ

背景罫線は印刷できません。

◀メモ

印刷時に縦書き用フォント(フォント名の前に@が付いているもの)を指定すると縦書きで印刷できます。

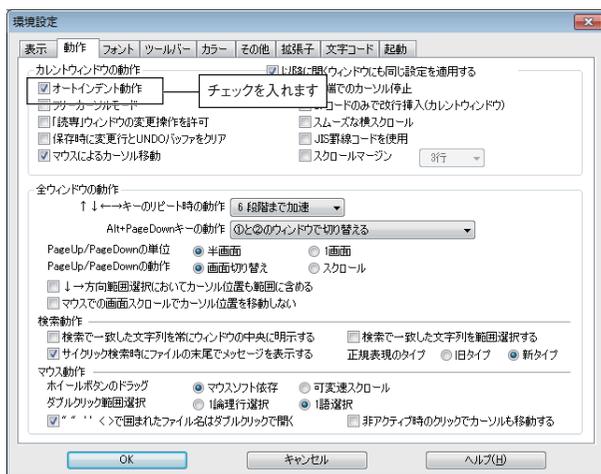
インデント設定

オートインデントは、カーソル行の行頭が空白文字（半角/全角スペースやハードタブ）で始まるときに、改行を入力すると次の行頭にも同じ空白文字を自動的に挿入する機能です。

● オートインデントを使用する

【設定】－【環境設定】を選択して「動作」タブをクリックします。

「カレントウィンドウの動作」の「オートインデント動作」にチェックを入れます。



▶ 参照

スペースとハードタブは記号表示ができません。

「Tabやスペース類を表示する」

⇒91ページ

第6章

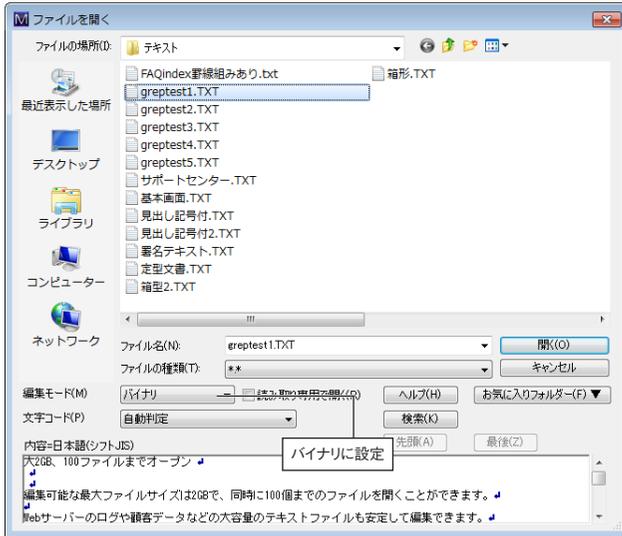
◀ メモ

【ツール】－【文書整形】－【行頭に文字列を挿入】で空白文字を指定すると、行頭に空白文字を挿入できます。

バイナリファイルを開く

MIFESは、ファイルの編集モード(テキスト/バイナリ)を自動的に判別して開きますが、編集モードを指定して開くことができます。

- **【開く】ダイアログからの指定**
 【ファイル】-【開く】を選択します。
 「編集モード」から「バイナリ」を選択します。



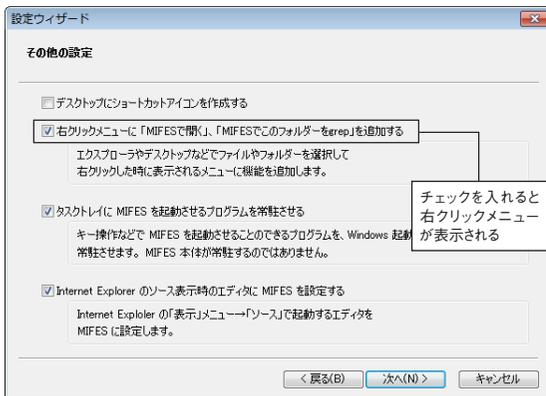
▶ 参照

編集中のファイルはガイドラインから変更できます。
 「編集モードの切り替え」
 ⇨27ページ

▶ 参照

拡張子で編集モードを設定できます。
 「拡張子の関連付け」
 ⇨20ページ

- **ファイルを右クリックして開く**
 ファイルを右クリックして表示されるメニューから【MIFESのバイナリモードで開く】を選択します。「設定ウィザード」-「その他の設定」で設定できます。

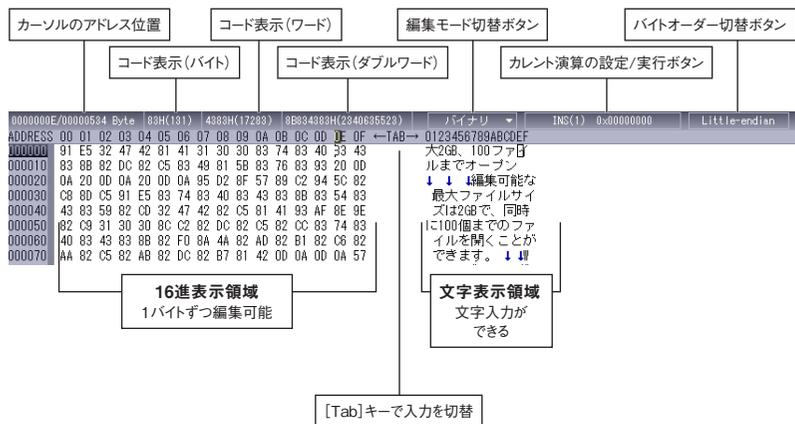


▶ 参照

「設定ウィザード」⇨7ページ

バイナリデータを編集する

編集モードを「バイナリ」にすると下図のような画面でファイルが開き、編集できます。



▶ 参照

「バイナリ演算」⇒157ページ

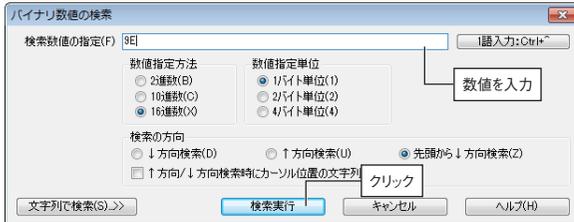
第6章

目的別つかいこなしテクニック

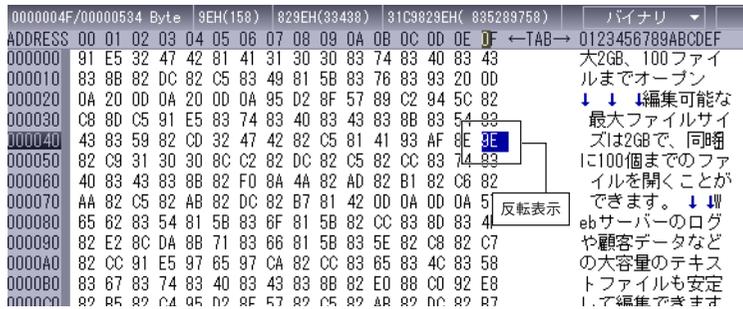
バイナリ数値を検索する

バイナリファイル内の数値を検索します。

- 1) 【検索・置換・ジャンプ】-【検索】を選択します。
「バイナリ数値の検索」が表示されます。
- 2) 「検索数値の指定」に数値を入力して【検索実行】をクリックします。



- 3) 検索された数値が反転表示されます。



▶ 参照

文字列で検索を行うときは【文字列で検索】をクリックします。
「文字列を検索する」⇒58ページ

バイナリコードを文字にして貼り付ける

- 1) バイナリファイルの数値を選択して【編集】-【コピー】を選択します。
- 2) テキストモードのファイルをカレントウィンドウにして挿入したい位置にカーソルを移動します。
メニューから【数字に変換して貼り付け】を選択します。
- 3) 「数字に変換して貼り付け」ダイアログボックスが表示されます。
設定項目は以下のとおりです。

○ 貼り付け内容

バイナリモードで【コピー】または【切り取り】した場合は「バイナリカットバッファ」を選択します。

○ 変換単位

何バイト単位で文字列(テキスト)に変換するかを選択します。

無変換 ⇒ ABCD(変換せずにそのまま貼り付けます。)

1バイト単位 ⇒ 41 42 43 44

2バイト単位 ⇒ 4241 4443

4バイト単位 ⇒ 44434241

○ バイトオーダー

いずれかを選択します。

○ 改行間隔

変換単位で何個ごとに改行するかを指定します。

変換単位を「1バイト」に指定し、改行間隔に「4」を指定した場合、次のようになります。

41 42 43 44

45 46 47 48

○ デリミタ文字

テキストに変換したデータとデータの間に挿入する半角文字を選択します。

カンマを指定 ⇒ 41,42,43,44

◀メモ

バイナリファイルで【編集】-【切り取り】を行った場合も同様の操作です。



- 4) 「貼り付け」をクリックします。

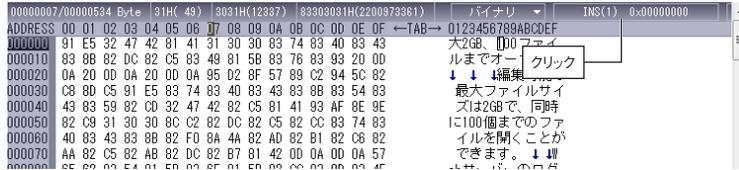
バイナリ演算

カーソル位置のデータに対して、バイト、ワード(2バイト)またはダブルワード(4バイト)単位で、ADD、INS、SUBの3つの演算が実行できます。

バイナリ演算は、予め設定しておいた演算を実行します(このため、この演算をカレント演算と呼びます)。演算には、通常の算術演算だけでなく、挿入動作などもあります。

● カレント演算の設定

演算を実行する位置にカーソルを移動し、ガイドラインの[カレント演算の設定/実行]ボタンをクリックします。



「カレント演算の設定/実行」が表示されます。

- 演算タイプを選択します。
 - 演算単位を選択します。
 - データを10進または16進で入力します。
- [OK]をクリックすると、指定した演算内容が「カレント演算」となります。

※実行回数を指定して、[実行]をクリックすると、指定した演算内容は「カレント演算」となり、設定した演算を実行します。



● カレント演算の実行

- 実行回数を指定して実行したい場合
ガイドライン上の3つのボタンの真ん中のボタンをクリックして、「カレント演算の設定/実行」ダイアログボックスで、実行回数を指定して実行します。
- 1回ずつ確認しながら実行する場合
「カレント演算1回実行」機能が用意されています。この機能は、デフォルトではキー/メニュー/ツールバーなどには割り当てられていませんので、いずれかのキー/メニュー/ツールバーなどに割り当ててください。この機能を使用した方法では、1回ずつ演算結果を確認しながら実行できます。

◀メモ

演算の動作について

INS

カーソル位置に演算データを演算サイズ単位で挿入します。演算実行後のカーソル位置は、挿入したデータの直後になります。

ADD

カーソル位置にある演算サイズのバイナリデータに対して、演算データを加算します。例えば、カーソル位置が半角の文字「A」だった場合に、演算サイズが1バイトで演算データが1なら、演算の結果「A」は「B」に変化します。また、演算データが10進数の32なら、演算の結果「A」は「a」に変化します。1回の演算で演算サイズ分だけカーソル位置が後方に移動します。(加算結果の直後になります。)

SUB

カーソル位置にある演算サイズのバイナリデータに対して、演算データを減算します。1回の演算で演算サイズ分だけカーソル位置が後方に移動します。(減算結果の直後になります。)

注意

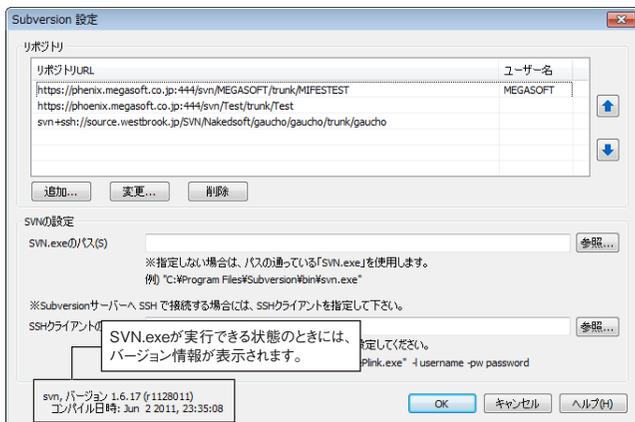
実際の演算動作は「バイトオーダー」にも影響されます。

Subversionとの連携

● Subversionの設定

MIFESからSubversionを使用する前に、以下の手順で設定を行ってください。

- 1) Subversionのクライアントをインストールします。
 ※TortoiseSVNなどのクライアント用ツールとは別に、Subversionのクライアントプログラム「svn.exe」のインストールが必要です。「SVN.exe」は、以下のサイトからダウンロード(無料)してください。
<http://sourceforge.net/projects/win32svn/>
- 2) 【ツール】-【Subversion】-【設定】を実行し、リポジトリ(Subversionのデータベース)を登録します。
 「追加」ボタンをクリックして、「リポジトリの設定」で、リポジトリのURLと、ユーザー名、パスワードを入力します。
 ユーザー名とパスワードがキャッシュされている場合は、ユーザー名とパスワードの入力は不要です。



[接続テスト]をクリックすると、リポジトリに接続できるかどうかを確認することができます。

このときに、Windowsの「コマンドプロンプト」ウィンドウにエラーが表示された場合には、エラーの内容と対応を確認してください。

- 3) 設定が完了したら、リポジトリのファイルをローカルの作業フォルダーにチェックアウト(コピー)します。
 【ツール】-【Subversion】-【リポジトリ】を実行し[チェックアウト]をクリックします。

◀メモ

すでにチェックアウトされている場合は、この操作は不要です。

● Subversion連携の機能一覧

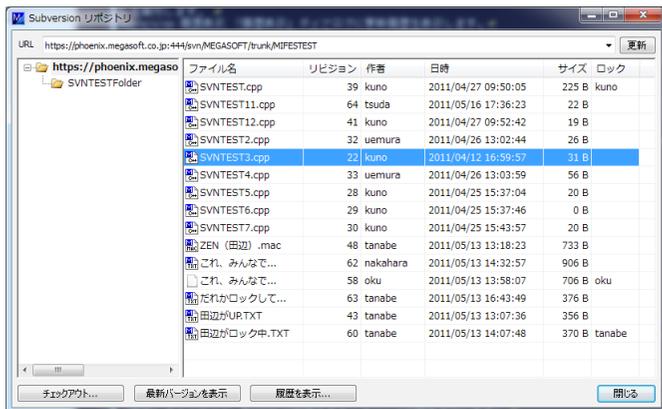
Subversionとの連携機能は、以下のとおりです。

編集ウィンドウのメニューから実行した場合には、編集中のファイルに対してコマンドを実行します。

リストウィンドウでファイルを選択して右クリックで表示されるメニューから実行した場合には、選択されたファイルに対してコマンドを実行します。

※履歴表示と比較コマンドは、リストウィンドウのフォーカスがあるファイルに対してのみコマンドを実行します。

- Subversion 更新
リポジトリの最新バージョンで作業フォルダー内のファイルを更新します。
- Subversion コミット
対象ファイルをリポジトリにコミットします。
- Subversion ロック
ファイルをロックして、他の人がコミットできないようにします。
- Subversion アンロック
ファイルのロックを外します(自分がロックしたファイルに限ります)。
- Subversion 比較
作業フォルダー上の対象ファイルとリポジトリ内の最新バージョンを対象に、MIFESの【ファイル比較(diff)】を実行します。
- Subversion 履歴表示
「履歴表示」ダイアログに更新履歴を表示します。
- Subversion リポジトリ
リポジトリブラウザを表示し、リポジトリの内容を確認します。
リポジトリブラウザでは、以下の操作が行えます。



[チェックアウト] 左側のツリーで選択されているリポジトリ内のファイルをローカルのフォルダーに取得することができます。

[最新バージョンを表示] リストで選択されているファイルの最新バージョンをダウンロードして、MIFESで開きます。

[履歴を表示] リストで選択されているファイルの履歴を表示します。

◀メモ

Subversionの設定情報はカスタマイズフォルダーの「MWSrcManSVN.ini」に記録されており、再インストール時などに引き継ぐことができます。

Visual SourceSafeとの連携

※MIFESからVisual SourceSafeを使用する際には、Visual SourceSafeクライアントがインストールされている必要があります。

〈Visual SourceSafeのクライアント〉

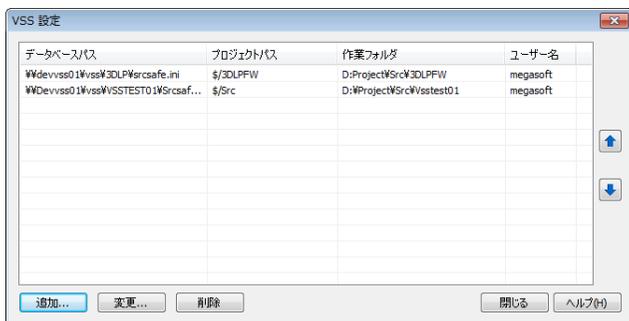
Visual SourceSafe 6.0 以降（Visual SourceSafe 6.0/2005で動作確認しています。Visual Studio Team Foundationには非対応）

Visual SourceSafeのライセンスは、別途、ご購入ください。

● VSSの設定

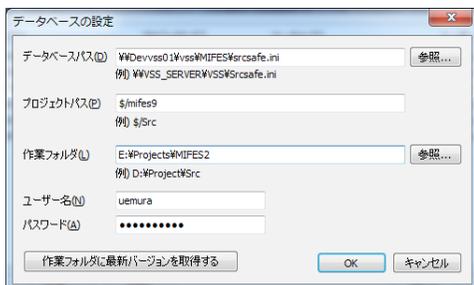
以下の手順で設定を行います。MIFESから操作したいすべてのプロジェクトを設定してください。

- 1) 【ツール】-【VSS】-【設定】からVSSのデータベース情報の設定を行います。「追加」ボタンをクリックして、「データベースの設定」で必要事項を入力します。



VSSのデータベース情報は、以下の項目です。

項目名	内容
データベースパス	Visual SourceSafe サーバー上の srcsafe.ini ファイルへのパスです。
プロジェクトパス	データベース上でのプロジェクトパスです。
作業フォルダー	プロジェクトの作業フォルダーに設定されているローカルフォルダーのパスです。
ユーザー名	データベースにログインするユーザ名です。
パスワード	データベースにログインするユーザのパスワードです。



- 2) 「データベースの設定」の[作業フォルダーに最新バージョンを取得する]をクリックして、データベース内のファイルの最新バージョンを作業フォルダーに取得します。

● VSS連携機能一覧

Visual SourceSafeとの連携機能は、以下のとおりです。

編集ウィンドウのメニューから実行した場合には、編集中のファイルに対してコマンドを実行します。

リストウィンドウでファイルを選択して右クリックで表示されるメニューから実行した場合には、選択されたファイルに対してコマンドを実行します。

※履歴表示と比較コマンドは、リストウィンドウのフォーカスがあるファイルに対してのみコマンドを実行します。

- VSS 最新バージョン取得
VSSデータベースからファイルの最新バージョンを取得します。
- VSS チェックアウト
ファイルの最新バージョンをVSSデータベースからチェックアウトします。
- VSS チェックイン
ファイルをVSSデータベースにチェックインします。
- VSS チェックアウトの取り消し
チェックアウトしたファイルのチェックアウト操作を取り消します。
取消時に「置換する」(ファイルの変更を元に戻す)、「変更しない」(チェックアウトの操作を取り消すだけで、ファイルは変更されたままにする)、「削除する」(チェックアウトを取り消してファイルを削除します)が選択できます。
- VSS ソース管理へ追加
Visual SourceSafe プロジェクトにファイルを追加します。
- VSS ソース管理から削除
Visual SourceSafe プロジェクトからファイルを削除します。
- VSS 比較
対象ファイルとVSSデータベース内の最新バージョンを、MIFESの【ファイル比較(diff)】機能で比較します。
- VSS 履歴表示
「履歴表示」ダイアログに対象ファイルの変更履歴を表示します。

◀メモ

VSSの設定情報はカスタマイズフォルダーの「MWSrcManVSS.ini」に記録されており、再インストール時などに引き継ぐことができます。

使用するファイルについて

MIFES では以下のファイルを作成・使用しています。

MIFES 関連のファイルは、「プログラムフォルダー」と「カスタマイズフォルダー」の2か所に分けて保存されます。それぞれの場所は以下のとおりです。

● プログラムフォルダー

MIFESの本体「MIW.EXE」とプログラム関連のファイルがインストールされているフォルダーです。インストール時に指定可能です。

デフォルト:

<32bitOSの場合> C: ¥Program Files ¥MIFES9

<64bitOSの場合> C: ¥Program Files (x86) ¥MIFES9

● カスタマイズフォルダー

MIFES専用ファイルの保存フォルダーで、カスタマイズファイルやライブラリファイルなどがインストールされます。

デフォルト:

<Windows 7、Vista、Server 2008>

C: ¥Users ¥Public ¥Documents ¥MEGASOFT ¥MIFES9

<Windows XP、Server 2003>

C: ¥Documents and Settings ¥All Users ¥Documents ¥MEGASOFT ¥MIFES9

ファイル	ファイル名	説明	保存場所
MIFES本体	MIW.EXE	MIFESの本体の実行ファイルです。	プログラムフォルダー
起動/終了時のカスタマイズファイル	MIW.INI (*.INI)	MIFES終了時の設定を記録しておくテキストファイルです。次回起動時にこのファイルの内容により、前回の終了時と同じ状態で編集を再開できます。	カスタマイズフォルダー
カスタマイズファイル(設定ファイル)	*.INI	MIFESの設定を記録するファイルです。	カスタマイズフォルダー
Subversion設定情報	MWSrcManSVN.ini	バージョン管理システム連携機能のうち、Subversionの設定を行った場合に作成されます。	カスタマイズフォルダー
VSS設定情報	MWSrcManVSS.ini	バージョン管理システム連携機能のうち、VSS (Visual SourceSafe) の設定を行った場合に作成されます。	カスタマイズフォルダー
ライブラリファイル	MIW.LIB	キーボードマクロ、外部プログラム、マクロコマンドを登録するライブラリファイルです。インストール直後の初期状態では、初期状態のメニューから実行できるマクロコマンドが登録されています。ライブラリに登録したコマンドは、キー操作やユーザー定義バー、メニューなどに割り当てて実行することができます。ライブラリに登録できる最大コマンド数は次のとおりです。キーボードマクロ: 最大196個まで/外部プログラム: 最大49個まで/マクロコマンド: 制限はありません。(キーなどに割り当てられる数は128個まで)	カスタマイズフォルダー
バックアップファイル	*.BAK、*.BK1 ~ *.BK9	バックアップファイルを作成する設定のときに作成されるバックアップファイルです。【環境設定】-【その他】タブで、バックアップファイルの作成方法や作成する場所(フォルダー)などを設定することができます。	(ユーザー指定)
グローバル置換、グローバル複数置換のログファイル	GREPLOG.LOG	グローバル置換、グローバル複数置換のログファイルです。このログファイルのバックアップファイルも同じフォルダー内に、保存されます。GREPLOG.BAK、GREPLOG.BK1 ~ BK*	カスタマイズフォルダー
ヘルプファイル	MIW.CHM	MIFESの操作方法を記述したヘルプファイルです。ヘルプファイルは、MIFESの本体MIW.EXEがあるロードフォルダー上にあります。メニューの【ヘルプ】-【ヘルプ】から参照していただけます。	プログラムフォルダー
イージーヘルプ辞書ファイル	*.EGH	メニューの【ヘルプ】-【イージーヘルプで参照】で参照する辞書ファイルです。	カスタマイズフォルダー

ファイル	ファイル名	説明	保存場所
ユーザースガイド	MIFES9-Guide.pdf	ユーザースガイド(マニュアル)のPDFファイルです。	プログラムフォルダー
拡張ヘルプファイル	*.CHM、*.HLP	MIFESのヘルプファイル(MIW.CHM)以外のヘルプファイルを参照することができます。拡張ヘルプファイルで指定するため、保存場所の制限はありません。	-
マクロライブラリ用マクロソース	MIWLIB.MAC	初期状態のライブラリファイル(MIW.LIB)に登録されているマクロコマンドのプログラムソースファイルです。マクロコマンドを作成するときなどの参考にしてください。	カスタマイズフォルダー
自動マクロ定義ファイル	MIW.MAC	MIFESのマクロ言語である「MIL/W言語」のプログラムソース用ファイルです。このファイルに記述されたマクロコマンドは、起動時に自動的にコンパイルされ、ライブラリに登録することなく実行することができます。詳しくはヘルプを参照してください。	カスタマイズフォルダー
文書整形用外部ライブラリ	*.REP	【文書整形】機能用のダイナミックリンクライブラリ(DLL)のファイルです。DLLのファイルをコピーし、拡張子を「.REP」に変更するだけで、後からMIFESに追加することができます。	カスタマイズフォルダー
プリ/ポストプロセッサファイル	*.PPP	プリ/ポストプロセッサ用のダイナミックリンクライブラリ(DLL)のファイルです。プリ/ポストプロセッサは【ファイルを開く】や【名前を付けて保存】機能などでユーザーが指定します。	カスタマイズフォルダー
編集画面の背景画像	*.bmp	編集画面の背景に表示するイメージファイルです。デフォルトでは、3種類インストールされますが、自由に追加し、設定が可能です。	カスタマイズフォルダー
行カットバッファファイル	MIWLCUT.TXT	行選択モード時の切り貼り機能で使用するカットバッファファイルで、MIFES起動中にシステムの環境変数TEMPで指定されたフォルダーに作成されます。カットバッファファイルは、初期状態ではMIFES終了時に削除されますが、設定によりMIFES終了時に削除しないようにすることもできます。(【環境設定】-「起動」タブ)カットバッファを削除しないで終了したときは、次回起動時に前回の行カットバッファの内容を貼り付けることができます。	(TEMPフォルダー)
バイナリカットバッファファイル	MIWCUT.BIN	バイナリモード時の切り貼り機能や、【数字に変換して貼り付け】機能で使用するカットバッファファイルで、MIFES起動中にシステムの環境変数TEMPで指定されたフォルダーに作成されます。カットバッファファイルは、初期状態ではMIFES終了時に削除されますが、設定によりMIFES終了時に削除しないようにすることもできます。(【環境設定】-「起動」タブ)カットバッファを削除しないで終了したときは、次回起動時に前回のバイナリカットバッファの内容を貼り付けることができます。	(TEMPフォルダー)
オートセーブファイル	MIWxxASV. \$\$\$	(xxは編集ファイルのテキスト番号)オートセーブを行う設定のときに作成される、特殊なフォーマットのファイルです。システムの環境変数TEMPで指定されたフォルダーに作成され、MIFES終了時に自動的に削除されます。【環境設定】-「その他」タブで、オートセーブ機能の設定が行えます。	(TEMPフォルダー)
巨大ファイル編集時の作業用ファイル	MIWxxFOR. \$\$\$、 MIWxxBAK. \$\$\$	(xxは編集ファイルのテキスト番号)大きいサイズのファイル(巨大ファイル)を「無制限構造」で編集するとき作成されるファイルで、システムの環境変数TEMPで指定されたフォルダーに作成されます。1つの編集ファイルに対して、MIWxxFOR. \$\$\$、MIWxxBAK. \$\$\$が作成され、それぞれ元のファイルの約1.1倍の大きさになります。MIFESでは、大きいサイズのファイル(巨大ファイル)を編集するときには無制限構造が適用されます。無制限構造を適用するファイルサイズは、【環境設定】-「起動」タブの【高度な設定】ボタンをクリックして、ダイアログボックスで変更できます。無制限構造について詳しくはヘルプを参照してください。	(TEMPフォルダー)
UNDO専用ファイル	MIWUNDO.TXT	大きなサイズを【削除】、置き換え、【切り取り】した場合に使用するUNDO専用ファイルです。	(TEMPフォルダー)

ライセンスキーについて

MIFESを使用するには、ライセンスキーをMIFES本体に登録する必要があります。ライセンスのタイプに関係なく、インストール時の「ユーザー情報の入力」画面でライセンスキーを入力してください。（「MIFESのインストール」⇒5ページ）

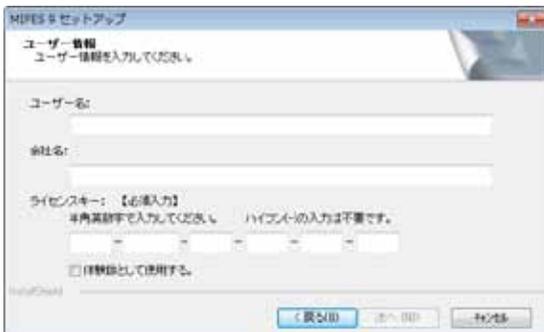
●追加ライセンスについて

複数のコンピューターでMIFESをご使用いただく場合には、使用台数に合わせてライセンスが必要です。

追加ライセンスのライセンスキーは、弊社ホームページよりご購入いただけます。

○ MEGASOFTオンラインショップ
<https://shopping.megasoft.co.jp/shop/index.html>

○ お問合せ先
メガソフト ダイレクトショッピング係
電話 06-6386-2072 / FAX 06-6386-2123



The screenshot shows a window titled "MIFES 9 セットアップ" (MIFES 9 Setup). The main heading is "ユーザー情報" (User Information) with the instruction "ユーザー情報を入力してください。" (Please enter user information.). There are three input fields: "ユーザー名:" (User Name), "会社名:" (Company Name), and "ライセンスキー: 【必須入力】" (License Key: [Required]). Below the license key field, there are two sub-instructions: "※内角数字を入力してください。" (Please enter numbers in the inner corners) and "ハイフン(-)の入力は不要です。" (No need to enter hyphens (-)). There is a checkbox labeled "☐ 同様録として使用する。" (Use as a duplicate). At the bottom, there are three buttons: "<戻る(B)" (Back), "次へ(F)" (Next), and "キャンセル(C)" (Cancel).

◀メモ

インストール可能な台数については、使用許諾をご参照ください。弊社解説ページもご参照ください。

ライセンスの考え方

<http://www.megasoft.co.jp/mifes9/license.html>

ユーザーサポートについて

使用中にエラーなどのトラブルが発生した場合や、製品の機能についてのご質問、使い方がわからない場合などに、正規ユーザー様に限りサポートサービスをご提供しております。

お問い合わせの前に、下記を参考に操作手順や操作画面をもう一度ご確認ください。

● 製品の機能や操作方法がわからないとき

- ユーザーズガイド(本書)
- MIFES本体のヘルプ
【ヘルプ】-【ヘルプ】や、ダイアログボックスの【ヘルプ】ボタンからご参照ください。
- MIFESのサポート情報
【ヘルプ】-【メガソフトのWebページを表示】-【サポート情報ページ】

● エラー、トラブルが発生したとき

- MIFESを再起動する
- アップデートを行う
最新版では不具合が修正されている場合があります。
オンラインアップデート機能で、MIFESを最新状態に自動更新していただくことをお勧めします。
オンラインアップデートは、Windowsの【スタート】-【すべてのプログラム】-【MIFES 9】-【オンラインアップデート】で行うことができます。

なお、以下のご質問・お問い合わせにつきましては、サポート対象外となります。ご了承ください。

- 本製品で保証している動作環境以外でのお問い合わせ
- 他社製品に関する部分のお問い合わせ
- 製品の非公開部分の仕様に関するお問い合わせ
- サポート時間外および出張を伴うサポートの依頼
- お客様の直接お持ち込みによるサポート依頼
- その他、ユーザーズガイドやヘルプ、ホームページでサポート対象外と記述されている機能
例：マクロコマンドを作成する上での、不具合に起因しない動作不良の修正
外部DLLの作成方法

● サポートセンターにお問い合わせの際は

以下の内容をおうかがいします。あらかじめご準備ください。

1. お客様のお名前
2. お客様のお電話番号
3. 本製品名(MIFES 9)
4. ライセンスキー
5. MIFESの詳細バージョン
(【ヘルプ】-【バージョン情報】でご確認ください。)

トラブルやエラー発生時など、お問い合わせの内容によっては、以下の項目をおうかがいすることがあります。

6. ご使用のパソコンのメーカー名、型番、OSのバージョン(サービスパックなども含む)
7. MIFESと同時にご利用のソフト名・バージョンや環境
例：日本語入力システム、ディスプレイドライバ、プリンターなど
8. お問い合わせの内容

また、状況に応じて以下の点もお知らせください。

- エラーメッセージが表示された場合
メッセージの内容とどの操作時点で表示されたか
- 何らかの操作で異常が発生した場合
どの画面でどのような操作をしたらどうなったか
- 以前は正常であったのに異常が発生した場合
直前にインストールしたソフトや異常が発生したときの操作手順、再現データ

● お問い合わせ方法

- 弊社サポートページのお問い合わせフォームから
最新版にアップデートし、マニュアル・ヘルプ・サポート情報をご覧になっても問題が解決しなかった場合には、下記サポートページの「サポート調査依頼」フォームから、必要事項をご記入の上、お問い合わせください。。

URL = <http://www.megasoft.co.jp/support/mifes/>

○ その他

- ・お電話で
下記の要領で受け付けております。

メガソフト株式会社 MIFESサポートセンター
TEL：06-6386-6810
受付時間 9:30～11:45 / 13:00～17:00(土・日・祝日、弊社休業日を除く)

・FAXで

本書巻末の「調査依頼書」をコピーして必要事項をご記入の上、サポートセンターまでお送りください。

※FAXは24時間受け付けておりますが、ご質問に対する回答は、お電話での受付時間内と同じとさせていただきます。

注意
ライセンスキーを紛失されると、MIFESをインストールできなくなります。なくさないように、大切に保管してください。

● **ユーザー登録のお願い**

MIFES 9のユーザーとして弊社にご登録いただいた方には、サポートサービスのご提供やバージョンアップのご案内をお届けしています。

インストール最後のWebユーザー登録の画面でユーザー登録をされていない場合は、メガソフトのホームページ(下記URL)よりご登録ください。

また、本書巻末の「ユーザー登録・登録内容変更届」に必要事項を記入し、FAXでお送りいただいても結構です。

URL = <http://www.megasoft.co.jp/entry/>

● **登録内容の変更について**

転居などにより登録内容(ご住所やお電話番号、法人登録の場合のご担当者など)に変更が生じた場合は、メガソフトのホームページ(下記URL)より登録内容変更のお手続きをお願いします。

また、本書巻末の「ユーザー登録・登録内容変更届」に必要事項を記入し、FAXでお送りいただいても結構です。お電話によるユーザー登録および登録内容の変更は受け付けておりませんので、ご了承ください。

URL = <http://www.megasoft.co.jp/entry/>

● **登録内容のお問い合わせについて**

ユーザー登録がお済みの場合、お客様のライセンスキーをお調べするサービスを行っています。

○ **お問い合わせ先**

・メガソフト ユーザー登録係 TEL:06-6386-2072 FAX:06-6386-2123

・メガソフト サポートセンター TEL:06-6386-6810 FAX:06-6386-9983

・メガソフトホームページ(<http://www.megasoft.co.jp/entry/>)

※インターネットでの登録内容調査サービスの場合、プライバシー保護のため返信を自動化しておりません。そのため返信に時間がかかります。ご了承ください。

索引

数字

1行削除 57

C

CSVファイル 140

C関数の定義位置 127

D

DOSシェルエスケープ 85

G

grep(グローバル検索) 62

H

HTML編集 129

I

Internet Explorerのソース表示 8

R

REDO(やり直し) 36

S

sort(行の並べ替え) 136

U

UNDO(元に戻す) 35

uniq(行の単一化) 137

USBメモリ用MIFES 11

W

Web検索(インターネットで検索) 48

あ

アップデート 9

アンインストール 10

い

印刷 38

インストール 5

インターネットで検索 48

インデント 152

う

ウィンドウ切り替え 32

埋込スクリプト 133

お

オートインデント 152

オートセーブ 99

オープンモード 27

大文字に変換 68

お気に入りフォルダ 18

折り返し桁位置 93

か

カーソルの表示 92

改行コード 43

外国語のフォント 97

外部プログラム 83

改ページコードの挿入 40

拡張子設定 20

拡張子の関連付け 7

拡張ヘルプ 47, 128

カスタマイズファイル 109

括弧の検索 126

カット&ペースト 53

カラー印刷 39

カレントウィンドウ2分割 33

カレント演算 157

完全なプロファイルファイル 15

き

キー操作の設定 7

キー操作の割り当て 101

キーボードマクロ 112

キーワードの色変更 95, 124, 131,

149

記号表示 91

起動 14

起動時オプション 86, 87

行選択/行挿入 55

行頭から削除 57

行のソート 136

行の単一化 137

行末まで削除 57

切り取り 53

切り貼り(バイナリデータ) 156

く

グローバル検索(grep) 62, 64, 65,

138, 139

グローバル置換 72, 134

け

罫線 77

原稿用紙(背景罫線) 151

検索 58

検索(バイナリモード) 155

こ

コピー&ペースト 53

コメントの色替え 125

コンパイル 119

さ

最後のファイルを開く 15

削除行を逆順に挿入 57

削除文字列挿入 57

サポート 165

し

指定位置にジャンプ 29

ジャンプ 28

終了 45

使用許諾契約書 5

常駐設定 8

ショートカットアイコン 8

新規作成 17

す

スクロール(2画面同時) 34, 75

すべて閉じる 44

せ

制御コード 51

設定ウィザード 7, 20

セットアップ 5

センタリング 70

先頭にジャンプ 28

ち

置換 67

中央揃え 70

つ

追加ライセンス 164

ツールバーの編集 105

て

定型文 50

テンプレートファイル 82

と

等差数字列 52

動作環境 2

閉じる 44

な

名前を付けて保存 42

並べ替え 136

並べて表示 33

に		末尾にジャンプ	28
入力文字数	81	み	
は		右クリックメニュー	8, 104
背景色、背景罫線	90	右寄せ	70
バイナリ演算	157	見出し行の色替え	149
バイナリファイル	153	見出し行リスト	148
バイナリモード	27, 153	め	
箱型選択/箱型挿入	56	明示キーワード	95, 124
箱型編集	78, 79	メニューの割り当て	103
バックアップファイル	98	も	
半角a～z→A～Z	68	文字コード	43
半角カタカナ→全角	69	文字コードの変更	26
ひ		文字の色	95, 124
比較	73	文字列の登録/挿入	50
引き継ぎ情報	4	元に戻す	35
表示行	29	や	
ふ		やり直し	36
ファイルの検索	25	ゆ	
ファイルの挿入	82	ユーザーサポート	165
ファイルの保護	100	ユーザー登録	6
ファイル比較	73	よ	
ファイル履歴	22	予約後の色替え	124
ファイルを開く	18	ら	
フォルダー比較	76	ライセンスキーについて	164
フォント	96	り	
複数組の置換	71	リストウィンドウ	23
ブックマーク	30	両画面スクロール	34
ブラウザで確認 (HTML)	135	履歴	22
プログラムの削除	10	履歴の削除	108
プロファイルファイル	15	れ	
文書整形	68	連動ジャンプ	75
へ		連番	52
ヘルプ	46	ろ	
変更行の色	94	論理行	29
編集 (バイナリモード)	154		
編集モード	27, 153		
ほ			
保存	42		
保存して閉じる	44		
保存してプログラムに送る	135		
ポップアップメニュー	104		
ま			
マーク	30		
マクロ	117		

FAX. 06-6386-9983

メガソフト株式会社 MIFES ユーザー登録係 行

ユーザー登録 / 登録内容変更届

■製品名		MIFES 9
■ライセンスキー		(ご記入のない場合は登録変更をいたしかねます)
新	■住所	〒
	■会社名・所属	
	■氏名	
	■E-mail	
	■連絡先	TEL: FAX:
旧	■住所	〒
	■会社名・所属	
	■氏名	
	■E-mail	
	■連絡先	TEL: FAX:
■備考		
<p>・ 個人登録から法人登録への変更、法人登録から個人登録への変更はできません。 ・ 販売譲渡はできません。</p>		

※弊社ホームページからのご登録やご登録内容の変更がおこなえます。

<http://www.megasoft.co.jp/entry/>

MIFES 9 ユーザーズガイド

2011年7月4日 初版

制 作 メガソフト株式会社

発行元 メガソフト株式会社

〒564-0053 大阪府吹田市江の木町1-38 西谷東急ビル
TEL.06-6386-6810 FAX.06-6386-9983

Copyright© 2011 MEGASOFT Inc.

MEGASOFT®